

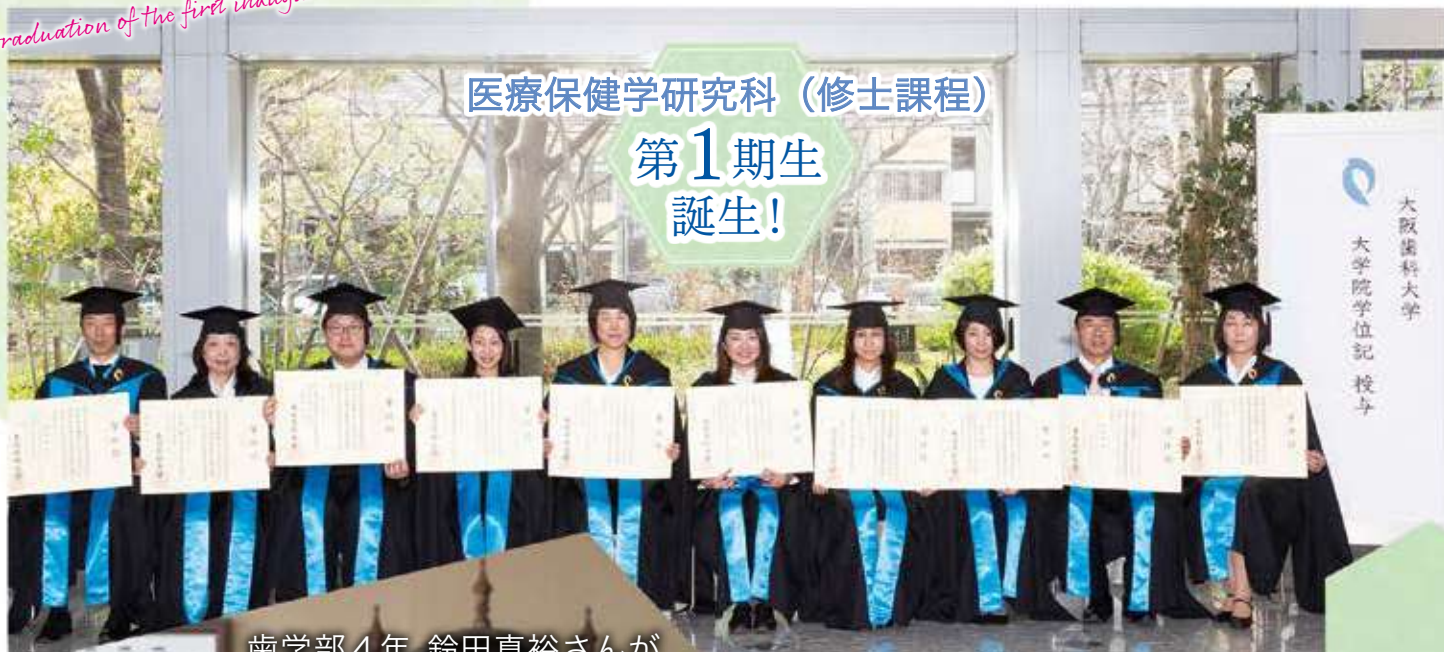


博愛

2020

No.182

Graduation of the first inaugural class



医療保健学研究科（修士課程）

第1期生
誕生!

歯学部4年 鈴田真裕さんが
SCRP 日本大会で上位入賞

大学卒業証書
大学院学位記授与



Student Clinician Research Program



Commencement

TOPICS

- 歯学部5年・花岡麻里子さんが歯科基礎医学会「学生ポスター発表優秀賞」を受賞
- 「ひらかたの未来創造事業」4大学の学生が枚方市長にプレゼンテーション



CONTENTS

■掲載期間 / 2020.1.1~12.31

02 TOPICS

- ・大学院医療保健学研究科(修士課程)学位記授与第1期生誕生!
- ・歯学部4年・鈴木真裕さんがSCRIP日本大会で上位入賞
- ・歯学部5年・花岡麻里子さんが歯科基礎医学会「学生ポスター発表優秀賞」を受賞
- ・「ひらかたの未来創造事業」4大学の学生が枚方市長にプレゼンテーション
- ・コロナ下における大阪歯科大学の一年

06 2019年度大学卒業証書・大学院学位記授与 理事長・学長の言葉

08 博士(歯学)、修士(口腔科学)学位授与

09 2019年度定年退職者 「定年退職のご挨拶」清水谷公成 主任教授

11 2020年度大学・大学院入学式 理事長・学長 式辞

13 教授就任挨拶

15 行事報告 2020年の主な行事

16 大学

- ・医療保健学部オープンキャンパス2020
- ・第1回留学生カフェをオープン
- ・歯学部Web入試説明会2020
- ・2020年度FDセミナー
- ・高大連携 - オンライン体験授業を実施
- ・ひらかた市民大学2020

20 附属病院

- ・第14回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会
- ・2019・2020年度院内感染対策講習会
- ・第17回病診連携講演会・懇談会
- ・2019年度医薬品安全管理講習会
- ・2020年度医療安全講習会

23 2020年新年互礼会 年頭所感 理事長・学長 川添 堯彬

29 令和元年度「私立大学等改革総合支援事業」に採択

29 2019年度事業報告

50 2019年度監事監査報告

50 2020年度事業計画

55 第1期中期計画 2020~2024年度

59 2020年度科学研究費補助金交付

61 2020年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)

61 令和2年春・秋の叙勲受章者

61 大阪府病院協会第45回病院職員永年勤続者表彰

62 寄贈

62 人事

63 あとがき



2020 TOPICS

大学院医療保健学研究科(修士課程)学位記授与



医療保健学研究科(修士課程) 第1期生誕生!



大学院医療保健学研究科(修士課程)開設後初となる学位記授与が3月22日、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、楠葉キャンパス中会議室で行われました。今井弘一同研究科長が10人の修了者一人ひとりに「修士(口腔科学)」の学位記を手渡したのち、川添堯彬理事長・学長が挨拶。新たな学位授与と第1期生誕生という双方の意味で、今日は本学の長い歴史においても誇らしいひとときであると述べ、新修士の皆さんに次の言葉を贈りました。「これからは特に歯科医療界全般にわたって、指導的立場となって、社会に貢献していけるよう念願しています」

この日の卒業生は全員が2018年4月に社会人学生として入学。仕事や家庭をもちながら2年間研究に励みました。「データの収集等、皆さん同程度に苦勞されたと思う。よく頑張ってくれたとつくづく思います」。大学院生3人を指導した糸田昌隆教授はこう感懐を洩らしていました。



卒業生の一人で、本学附属病院の現役歯科衛生士でもある板並悠香さんは「同じ衛生士でも一般歯科、行政、学校など違う分野で活躍する方と関わって非常に勉強になりました」と振り返ったうえで、「これから当院の実習生にしっかり教育できれば」と気を引き締めていました。

宇治野大雅さんは修士取得を機に4月から母校の専門学校で教えることに。自身は歯科技工士ですが、歯科衛生士のことも含め総合的に学んだ経験を生かし「生徒には技工だけでなく、歯科医療のことを総合的に伝えられるようにしたい」と抱負を語ってくれました。「今日は家族でお祝いです」と晴れやかに笑顔を見せる卒業生もいて、それぞれ充実の2年間を過ごせたことがうかがえる学位認証でした。なお、卒業生のうち半数はさらに同研究科博士課程(後期)に進学し、研究を続けることになっています。



歯学部4年・鈴田真裕さんがSCRP日本大会で上位入賞

令和2年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会において、本学歯学部4年の鈴田真裕さんが基礎部門第2位に入賞し、12月7日、表彰楯授与式を楠葉キャンパスで行いました。



SCRPは、国際歯科研究学会米国部会・歯科医師会等が主催する、歯科学生によるグローバルな研究発表大会

日本大会は1995年度から始まり、全国の歯科大学・歯学部の学生が研究成果やプレゼンテーション能力を競います。

新型コロナウイルス感染症の影響で初のWeb開催となった今大会には、18校が参加。事前抄録・発表ビデオ・発表スライドによる一次審査、英語でのオンライン発表による二次審査を経て、10月5日に最終結果が発表され、本学としては4年ぶり5回目の上位入賞となりました（優勝：北海道大6年生、準優勝：九州大5年生）。



鈴田さんの受賞研究テーマは「力学的閾値同定を主軸とした破骨細胞分化（促進/抑制）制御法の確立」。薬理学講座の納富拓也講師の指導の下、3年次の「研究チャレンジ」から少しずつ実験を行い、本学の学生研究助成金を受け研究を進めてきました。SCRP出場が決まった6月から、本格的に実験に着手。試験の合間や土日など限られた時間の中で研究をまとめあげました。そして、矛盾した結果が報告されていた破骨細胞分化と力学的刺激の関係について、「力学的閾値」を同定することで、その閾値を境にして正反対の分化反応（破骨細胞分化促進若しくは抑制）が生じることを明らかにし、その分化を制御することに成功しました。加えて、脳内記憶機構と類似して、破骨細胞が力学的刺激を記憶する機構「力学的刺激記憶機構」を有す

ることを提唱しています。

授与式では、川添亮彬理事長・学長から鈴田さんに表彰楯を贈呈し、日本歯科医師会長のお祝いビデオメッセージが流されました。川添理事長・学長は鈴田さんの健闘を讃えたうえで「今回の栄誉をバネに、これからもコツコツと学業に励み、卒業、国試合格、そして社会へと羽ばたいてほしい」とエールを送りました。

「研究チャレンジ」を通じて研究の楽しさ・面白さに開眼した鈴田さん。今回の結果については「上位入賞できるとは思ってなかったのでビックリした」そうです。英語での発表が大変だったけれど、SCRPに向けての研究中は時間が濃く充実していて、大学生生活の一番の思い出になったと振り返りました。鈴田さんが「感謝しかない」という指導教員の納富先生は「よく頑張りました。いい結果になって、私も含めみんなとても喜んでいるヨ」と鈴田さんを優しく労っていました。

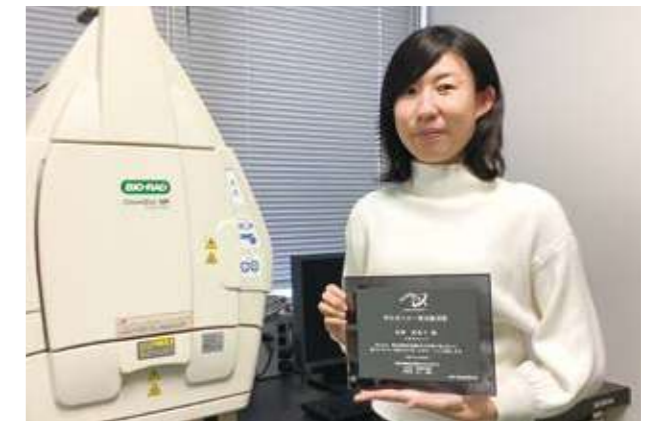


歯学部5年・花岡麻里子さんが歯科基礎医学会「学生ポスター発表優秀賞」を受賞

第62回歯科基礎医学会学術大会が9月11日～10月9日、Web開催され、本学歯学部5年の花岡麻里子さんが学生ポスター発表優秀賞を獲得しました。この賞は、将来の歯科基礎医学を担う若い研究者を育成するために設けられているもので、本学学生の受賞は初めて。

今大会の学部学生ポスターには、全国から10の応募・発表があり、抄録とポスターによる一次審査、示説と討論による二次審査が行われました。花岡さんの受賞演題は「CandidalysinはIL-1 α 分泌を介して上皮細胞を活性化する」。3年次の「研究チャレンジ」以来、指導教員の堂前英資講師（生化学講座）と二人三脚で取り組んできた研究です。カンジダ症や全身性のカンジダ感染症発症に関与し、感染局所の上皮細胞・自然免疫系を活性化することが解っているCandidalysin。これまでEGFR/c-fosを介して上皮細胞を活性化することが報告されていましたが、花岡さんは「本研究により、Candidalysinによる口腔粘膜上皮細胞活性化機構として、新たにIL-1 α /NF κ B経路の存在が明らかとなった」と発表し、見事優秀賞を手に入れました。

今回の結果について、何よりも「3年生から始めた研究を学会で発表することができて嬉しい」と花岡さん。開催地の鹿児島へは行けませんでした。Web討論で、全国の大学の先生から貴重なアドバイスを頂き「大変勉強になった」と



いいです。「優秀賞」という栄誉に勝る収穫を得たようでした。花岡さんを指導してきた堂前先生は、本学の学生研究助成金を受け、時間をみつめては地道に実験を続けてきた（花岡さんの）努力が報われ安堵しました。

専門知識と技術で患者さんの苦痛を取り除き、かつQOLの向上に貢献する歯科医療という分野に興味を抱き、本学入学を決めた花岡さん。実は、会計専門職修士の学位をもち、プライベートでは大型バイクでサーキットを走ることもあるという、非常にアクティブな女性です。このたびの受賞を糧に、さらに内なる可能性を広げていかれることが願われます。

「ひらかたの未来創造事業」 4大学の学生が枚方市長にプレゼンテーション

枚方市所在の4大学（大阪工業大、関西医科大、摂南大、本学）が連携している「枚方学術プラットフォーム」では、これまで枚方市の課題解決に向けた様々な事業を展開してきました。その中で、「若年層の投票率向上に向けて」をテーマに2019年10月から2020年8月まで複数回にわたり、主に本学楠葉キャンパスを会場に、4大学の学生たちが集まり議論を重ねてきました。

そして、2020年12月3日に枚方市役所で4大学の学生

たちによるプレゼンテーションが行われました。

若年層の投票率向上に向けて

プレゼンテーションには、伏見隆・枚方市長をはじめ同市職員の方々と、4大学学生の代表6人（大阪工業大4人、関西医科大1人、本学1人）が出席。発表者の大阪工業大・情報科学部3年の朝野眞優子さん、植田涼介さんが「動画



やSNSなどを利用し、若者向けにわかりやすく選挙や政治の情報を発信する」「学生が政治家へのインタビューを行う」などの提案を行い、その後に市長と学生たちとの意見交換がありました。本学から参加の歯学部2年・犬伏陽菜さんは、政治家へのインタビューについて、「政治家の方々がたいへんむずかしい言葉で演説されているので、学生がインタビューすることによって、内容をわかりやすく伝えることができるのではないかと考えた」と提案の趣旨を説明しました。

最後に、伏見市長は「若者の投票率を向上させるという選挙のあるべき姿を積極的に提案いただいた」と評価。運用レベルで配慮すべきことがあるとしたうえで、「深堀りすることで提案に沿った良い解決策が見つかると思う」との講評を述べられました。



コロナ下における大阪歯科大学の一年

2020年に世界的大流行となった新型コロナウイルス感染症ですが、本学でもこれを取り巻くさまざまな出来事があり、また感染拡大防止のため各種対策を講じました。

国境を超えた支援物資の相互提供

1月31日、中国湖北省武漢市で流行が拡大したため、川添堯彬理事長・学長は急遽、武漢大学口腔医院へ激励のメッセージと共にサージカルマスク1万枚とサージカルガウン150着の支援物資を提供しました。その約2カ月後、日本全国が緊急事態宣言下にあった4月23日には反対に、国際交流協定校である山西医科大学から、医療用マスク1万枚が本学に届けられました。そのうち2千枚は附属病院の歯学部5・6年生と教職員全員に配付されることに。世界的流行に際して、国境を超えた相互協力が深まり、国際交流の重要性を再認識する出来事でした。



学内での取り組み

学内でも種々感染防止対策に取り組みました。4月から5月末まで、楠葉・牧野両キャンパスでは学生の登校を禁止し、その間にインターネットによる授業教材の配信サービスを開始。学生の学修機会の確保に努めました。6月からは通常授業を再開しましたが、講義系の授業は従来の面接（対面）とオンラインの選択制（ハイブリット型）を採用し、その後も学生各自の希望に応じて受講できるようにしました。

キャンパスの設備もオンライン授業に対応して撮影用機材や動画用ソフト等を導入したほか、感染対策として各講義室・実習室等に消毒液や仕切りを設置し、換気効率を上げるために空調工事を行いました。



学内行事

学内行事では、大学卒業証書・大学院学位記授与、入学式はともに規模を縮小し、十分な感染対策のうえで実施しましたが、体育祭・大学祭をはじめ、毎年恒例の多くの行事は中止され、クラブ活動も休止となりました。



2019年度 大学卒業証書 大学院学位記授与

2020年3月13日

3月13日、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した楠葉キャンパスで、2019年度大学卒業証書・大学院学位記授与を行いました。前週6日に予定していた卒業式は、文部科学省の「学校の卒業式・入学式等の開催に関する考え方について」（2020年2月25日付）等を踏まえ中止したものの、学生にとってかけがえのない行事であることから、必要な感染対策を十分に講じたうえで開催しました。



感染対策

- 受付にてマスクを配布し、会場内では全員マスクを着用（授与時のみ外す）
- 入場の際、手指のアルコール消毒を徹底
- 卒業生は間隔を空けて着席、保護者（参加は最小限）には2階席を用意
- ドアを開け放ち、大型扇風機等を運転させるなど常に換気
- 証書の授与時、教職員は白手袋を着用

博士(歯学)、修士(口腔科学) 学位授与

博士(歯学)

- | | | |
|--|----------|----------------|
| 池内 慶介 | 甲第 867 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Fitting accuracy of the CAD/CAM crowns fabricated by laboratory scanning of the silicone impression
(印象体の直接光学計測による CAD/CAM クラウンの適合精度) | | |
| 木村 一貴 | 甲第 868 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Effect of HGF/c-Met pathway in oral squamous cell carcinoma on EMT and metastatic potential
(口腔扁平上皮癌における HGF/c-Met 経路が EMT および転移能へ及ぼす影響について) | | |
| 藤木 傑 | 甲第 869 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Influence of the surface roughness of zirconia on the coefficient of static friction and retentive force of telescopic crowns
(ジルコニアの表面粗さが静止摩擦係数およびテレスコープクラウンの維持力に及ぼす影響) | | |
| 平田 裕也 | 甲第 870 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Analysis of changes in upper airway pressure with high-resolution manometry
(高感度マノメトリーによる上気道内圧変動の解析) | | |
| 村田 達教 | 甲第 871 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Relationship Between the Number of Occlusal Supporting and Medical Cost : Analysis Using Large Claims Database from Employee Health Care Insurance in Japan
(咬合支持域数と歯科医療費の関連性について～健康保険組合の大規模レセプトデータ解析～) | | |
| 宮谷 尚伽 | 甲第 872 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Brain pericytes are a major source of lipocalin-type prostaglandin D2 synthase in the cerebral cortex after ischemic stroke
(脳ペリサイトは脳梗塞後におけるリポカリン型プロスタグランジン D2 合成酵素の起源である) | | |
| 大森 有樹 | 甲第 873 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Biological and mechanical complications of angulated abutments connected to fixed dental prostheses : A systematic review with meta-analysis
(固定式補綴物に連結した角度付アバットメントの生物学、機械的合併症：系統的レビュー) | | |
| 濱田 吉宏 | 甲第 874 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Detection of biomarkers on aging and vascular senescence in saliva
(加齢と血管老化に関する唾液中バイオマーカーの検出) | | |
| 宮 由紀子 | 甲第 875 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Gene analysis of ameloblastoma-derived cells treated with retinoic acid
(エナメル上皮腫由来細胞のレチノイン酸作用時における遺伝子解析) | | |
| 眞砂 彩子 | 甲第 876 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Influence of tongue brushing on oral microbiome diversity
(口腔細菌叢の多様性に対する舌ブラシの影響) | | |
| 塩見 慧 | 甲第 877 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Osteogenic Effects of Glucose Concentration for Human Bone Marrow Stromal Cells after Stimulation with <i>Porphyromonas gingivalis</i> Lipopolysaccharide
(ヒト骨髄間葉系細胞の硬組織分化における <i>Porphyromonas gingivalis</i> LPS 存在下での高グルコース環境の影響) | | |
| 竹内 友規 | 甲第 878 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Palmitate induces apoptosis and inhibits osteogenic differentiation of human periodontal ligament stem cells
(パルミチン酸はヒト歯根膜幹細胞のアポトーシスを誘導し、骨芽細胞分化を阻害する) | | |
| 飯田 高久 | 甲第 879 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Comparison of histomorphometry and microCT after sinus augmentation using xenografts of different particle sizes in rabbits
(ウサギによる大きさの異なる顆粒状異種他家骨による上顎洞底手術後の組織形態学的検討と μ CT との比較研究) | | |
| 竹村 美智子 | 甲第 855 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Effects of hydroxyapatite incorporated in resin-modified glass-ionomer cement (ハイドロキシアパタイトの添加がレジン強化型ガラスイオノマーセメントに与える影響に関する研究) | | |
| 宮園 将也 | 甲第 856 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Evaluation of the impression imparted on others by a smile that shows the teeth, using the Semantic Differential Method
(Semantic Differential 法による歯の露出した笑顔の印象評価) | | |
| 山形 倅司 | 甲第 857 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Exposure of dental anesthesiologists to sevoflurane during general anesthesia and measures to minimize this exposure
(全身麻酔導入時における歯科麻酔科医へのセボフルランの曝露についての調査及びセボフルランの曝露に対する対策の考案とその有用性) | | |
| 今瀧 梨江 | 甲第 858 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Mechanical and Functional Properties of a Novel Apatite-Ionomer Cement for Prevention and Remineralization of Dental Caries
(新規アパタイトイオノマーセメントの齲蝕予防と再石灰化に対する機械的および機能的特性) | | |
| 小淵 健二郎 | 甲第 859 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Nasal double DNA adjuvant induces salivary FimA-specific secretory IgA antibodies in young and aging mice and blocks <i>Porphyromonas gingivalis</i> binding to a salivary protein
(ダブル DNA アジュバント経鼻投与による若・高齢マウス唾液抗原特異的 IgA 抗体は <i>Porphyromonas gingivalis</i> の唾液タンパクへの結合を阻害する) | | |
| 今井 一貴 | 甲第 860 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Biological Effects of Shikonin in Human Gingival Fibroblasts via ERK 1/2 Signaling Pathway
(ERK1/2 シグナル伝達経路を介したヒト歯肉線維芽細胞における Shikonin の生物学的効果) | | |
| 澤井 健司郎 | 甲第 861 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Study on Rehardening of Demineralized Dentin with the New Pulp-capping Agents Containing Bioactive Glass
(新規バイオアクティブガラス配合覆髄剤の有効性の検討) | | |
| 神田 龍平 | 甲第 862 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Reference range for periodontal mechanosensitive thresholds in molars stimulated from the buccal and occlusal directions in healthy subjects with natural dentition
(健康有歯顎者における頬側面および咬合面方向からの歯根膜触・圧覚閾値の基準範囲の設定) | | |
| 榎本 温子 | 甲第 863 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Impact of short-term saliva storage at room temperature on the microbial composition (唾液の室温での短期保存による微生物組成への影響) | | |
| 寺本 賢史 | 甲第 864 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Distribution of <i>Rothia</i> species in root canals in a Japanese population
(日本人の感染根管内における <i>Rothia</i> 菌種の分布状況) | | |
| 梶野 晃佑 | 甲第 865 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Analysis by the three-dimensional finite element method of stress in the bone around implants that have been augmented with hydroxyapatite
(ハイドロキシアパタイトを填入したインプラント体周囲骨の3次元有限要素法による力学的解析) | | |
| 吉江 啓 | 甲第 866 号 | 令和 2 年 3 月 6 日 |
| Low temperature atmospheric pressure plasma adhesion treatment on tooth (歯牙に及ぼす低温大気圧プラズマの接着処理効果) | | |

理事長・学長の言葉

理事長・学長 川添 堯彬

本日、出席いただいている歯学部卒業生の皆さん、そして大学院歯学研究科を修了された新博士の皆さんへ、まず申したいのは、あなたたち一人一人の人生において、極めて大切なこの時であり、大学においても決して欠かしたくない重要なこの行事を、このような制限の下で挙行政をせざるを得なかったことを、本学の代表として、深くおわびいたします。けれども、あなたたち卒業生の心の記憶・思い出アル



バムの中に、最初の Vision 達成の瞬間を自覚し、次へのモチベーションの決意としてほしい、との我々教師の願いを理解していただきたいのであります。

第一番に、皆さんに申したかったのは、ここに出席された皆さんよくやった。ほんとうにおめでとうございませう、という心からの感想です。「疾風に勁草を知る」と、後漢王覇の書にありますように、いろいろな困難に負けずに、生き残ったたくましく堅固な勁草を、皆さんに重ねたいと思います。私にとって皆さんは、大阪歯科大学の自慢の学徒・研究者であり、大きな誇りであります。

これからも、更に強い疾風が、逆風となって起こることがあるかもしれません。けれども、更にたくましくなった勁草のように、皆さんはそれらに打ち勝って前進してくれるに違いありません。これからの皆さんの、それぞれの分野でのご活躍を、いつまでも祈念しています。どうか本日の、皆さんのすばらしいお姿をたくさん、写真におさめてお帰りください。

以上、「新歯学士」と「新博士(歯学)」の皆さんへ、私からの饒の言葉といたします。



小淵 隆一郎 甲第 880 号 令和 2 年 3 月 6 日

The relationship between sarcopenia and oral sarcopenia in elderly people
(高齢者の全身性サルコペニアと口腔サルコペニアとの関連性の検討)

川上 俊輔 甲第 881 号 令和 2 年 3 月 6 日

Anatomical analyses for maxillary sinus floor augmentation with a lateral approach : A cone beam computed tomography study
(側方アプローチによる上顎洞底挙上術における解剖学的分析: CBCT による研究)

波床 真依 甲第 882 号 令和 2 年 3 月 6 日

UV Treatment Improves the Biocompatibility and Antibacterial Properties of Crystallized Nanostructured Titanium Surface
(UV 処理が結晶化ナノ構造析出純チタン金属板の生体適合性と抗菌性に与える影響)

尹 徳栄 甲第 883 号 令和 2 年 3 月 6 日

Effect of mussel adhesive protein coating on osteogenesis in vitro and osteointegration in vivo to alkali-treated titanium with nanonetwork structures
(イガイ接着タンパク質のコーティングがナノ構造析出純チタンへの生体外骨形成と生体内オッセオインテグレーションに与える影響)

黄 安祺 甲第 884 号 令和 2 年 3 月 6 日

Integration of Epigallocatechin Gallate in Gelatin Sponges Attenuates Matrix Metalloproteinase-Dependent Degradation and Increases Bone Formation
(ゼラチンスポンジへのエピガロカテキンガレートを組み込みはマトリックスプロテアーゼ依存性分解を減弱し骨形成を増強させる)

趙 建鑫 甲第 885 号 令和 2 年 3 月 6 日

Releasing Behavior of Lipopolysaccharide from Gelatin Modulates Inflammation, Cellular Senescence, and Bone Formation in Critical-Sized Bone Defects in Rat Calvaria
(ゼラチンからのリポポリリサクライドの放出挙動はラット頭蓋冠臨界骨欠損内における炎症、細胞老化、および骨形成を調節する)

金川 武市 乙第 1625 号 令和 2 年 3 月 25 日

Morphological changes in the pharyngeal airway space following orthognathic surgery in patients with skeletal Class III malocclusion and skeletal crossbite
(骨格性下顎前突症患者と骨格性交咬合患者の外科的矯正治療後における気道形態の変化について)

中島 俊輝 乙第 1626 号 令和 2 年 3 月 25 日

Retentive force of telescopic Ce-TZP/A crowns in water
(Ce-TZP/A を用いたテレスコープクラウンの水中環境下での維持力)

平井 千香子 乙第 1627 号 令和 2 年 6 月 24 日

Study of the Caries Management with Diode Laser Used the Experimental Caries-detecting Dye Solution
(試作蝕歯検知液を併用した半導体レーザーによる蝕歯管理)

津谷 佳代 乙第 1628 号 令和 2 年 9 月 23 日

Study on Rehardening of Demineralized Dentin with the Resin-modified Pulp-capping Agents Containing MTA
(レジン添加型 MTA 配合覆髄剤の有効性の検討)

三浦 樹 乙第 1629 号 令和 2 年 12 月 23 日

Study on the Sealing Ability of a New High Penetration Resin Material for Enamel Cracks and Dentinal Tubules
(歯質高浸透型新規レジン系材料によるエナメルクラックならびに象牙細管の封鎖性に関する研究)

福原 隆久 乙第 1630 号 令和 2 年 12 月 23 日

Evaluation of early caries activity and risk by the International Caries Detection and Assessment System (ICDAS) for deciduous dentition
(International Caries Detection and Assessment System (ICDAS) による乳歯初期蝕歯の活動性評価と発生リスク判定に関する研究)

修士 (口腔科学)

宇治野 大雅 第 1 号 令和 2 年 3 月 6 日

Effect of Plasma Treatment of Titanium Surface on Biocompatibility
(純チタン金属表面への大気圧プラズマ処理が生体適合性に与える影響について)

藤林 由利安 第 2 号 令和 2 年 3 月 6 日

復職支援・離職防止等推進事業から検討した歯科衛生士の研修について

尾形 祐己 第 3 号 令和 2 年 3 月 6 日

病院勤務の歯科衛生士の業務実態と困難感に関する検討

谷 亜希奈 第 4 号 令和 2 年 3 月 6 日

市販義歯洗浄剤と超音波洗浄器の除菌効果

古賀 恵 第 5 号 令和 2 年 3 月 6 日

歯科衛生士学生の社会人基礎力に対する臨床実習の効果

大森 あかね 第 6 号 令和 2 年 3 月 6 日

高齢メンテナンス患者の咀嚼能力と口腔への主観的満足度の検討

村井 亜希子 第 7 号 令和 2 年 3 月 6 日

歯科衛生士の需要と供給に関する検討

板並 悠香 第 8 号 令和 2 年 3 月 6 日

介護施設入所者の口腔インプラント治療に関する口腔衛生状況および咀嚼・嚥下機能の把握

西村 元彦 第 9 号 令和 2 年 3 月 6 日

Examination of LPS adhesion mechanism to the denture surface using QCM system
(QCM 装置を用いた義歯表面への LPS 付着の検討)

吉本 美枝 第 10 号 令和 2 年 3 月 6 日

介護保険施設口腔ケアへの歯科衛生士が行う指導的介入の効果

2019 年度 定年退職者

2020 年 3 月 31 日をもって下記の皆さまが定年退職されました。
定年を迎えるにあたり、清水谷公成先生からお寄せいただいた挨拶文を掲載します。

歯学部歯科放射線学講座	主任教授	清水谷公成
口腔診断・総合診療科	准教授	紺井 拓隆
教育情報センター事務局	課長	今道 裕之
附属病院	薬剤師長	上中 清隆
教務学生課	看護師主任	橋本世津子

定年退職のご挨拶

歯学部歯科放射線学講座

主任教授 清水谷 公成

2020 年 3 月 31 日付で大阪歯科大学を定年退職いたしました。在職 43 年間の長きにわたって、多くの方々との良き出会いに恵まれ、充実した日々を過ごさせていただきました。これもひとえに皆様方の温かいご指導とご厚情の賜物と心より厚く感謝申し上げます。

1977 年に本学を卒業後、直ちに本学歯科放射線学講座の助手として採用していただきました。歯科放射線学の中でも画像診断学を勉強するために入局しましたが、当時の当科読影会(フィルムカンファレンス)では先輩諸氏の読影能力の凄さにまず驚かされました。また、カンファレンスで飛び交う専門用語が理解できず、苦勞したことを思い出します。

1979 年、恩師の故田中義弘先生(本学歯科放射線学講座、当時講師)の命を受け、千葉県稲毛にあります放射線医学総合研究所(略して放医研:当時、科学技術庁直属の研究機関)へ生物コースの研修を受けることになりました。そこで約 1 カ月半の下宿生活を体験いたしました。本研修コースの同僚の中には東京大学、千葉大学、農林水産省、海洋研究所など、それぞれの分野の百戦錬磨の強者が参加をしていました。まさにカルチャーショックでした。毎日のハイレベルかつハードな研修に加え、日々のレポート作成を夜遅くまで行っていたことが昨日のこのように思い出されます。本研修コースでは放射性同位元素(Radio-Isotope; RI)を利用した基礎的研究のイロハを学ぶことができました。まさに小生の研究に対する意識レベルが高まった瞬間です。

1983 年、放医研から戻ってまだ間もない頃に in-vitro level の基礎研究を行っていましたが、突然、田中義弘先生から大阪大学医学部附属病院(阪大病院)への出向を命じられました。阪大病院放射線科といえますと、頭頸部がん放射線治療において多数の症例数と日本に誇る優れた治療成績を有したがん治療の拠点病院です。当時は、故重松

康先生(阪大病院放射線科、当時教授)を筆頭に、数多くの錚々たるメンバーが顔をそろえておられました。口腔がんに限らず、他の臓器がん患者の治療を実際に自分の目で見、がん治療における第一線の現場の生きた教育を受けることができましたのは小生にとって貴重な財産となっています。

口腔がん放射線治療との関わりは 1983 ~ 2014 年まで約 31 年間に及びます。

1983 ~ 90 年頃(1 期)までは密封小線源治療の中舌癌低線量率組織内照射(ここでの癌は

扁平上皮癌を意味します)に、1991 ~ 2000 年頃(II 期)までは舌癌高線量率組織内照射というものに力を注いでおりました。2000 年以降(III 期)は上記の組織内照射における両者の治療成績ならびに副作用(特に晩発障害)の比較検討(分析)を行った時期で、これら I 期 ~ III 期が小生の放射線治療における歴史であります。そして本学と阪大とで多くの共同研究をさせていただきました。『清水谷公成退職記念業績集』にその集大成を掲載しております。1983 年当時で最も印象深いことは、精神心理社会的側面(※ psychosocial oncology)といった学問を学んだことです。「がん患者が治療によってがんがたとえ治癒したとしても、厳しい治療によって心身ともに疲れ果てているのであれば、それは治したことにはならない」。この言葉を当時のヘッドであります重松康教授からご教授頂き、精神心理社会的側面からのサポートの重要性と医療の基本理念を学ぶことができました。本概念は現在までの歯科医療における小生の基本理念となっています。

がん治療の第一線で現場の生きた教育を受けてまいりました。歯科医師としてこのような貴重な経験を通して、感じることは『医療人は、患者によって育てられる』であります。同時に、患者への真摯な対応を行うことでさらに人間も磨かれます。

一方、2004 年 7 月に小生が教授を拝命いたしました。教授職は激務・激戦に加え、能力のある人がさらに努力を重ね、皆から慕われる器の大きな方がなるものと思っておりましたので、当時は不安で一杯でした。しかし、『能力の差は小なり、努力の差は大なり』の言葉を胸に、『焦らず、休まず』で精進してまいりました。

教授就任してから 3 年後の 2007 年に蒲生祥子先生(大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了)が入局し、2008 年には秋山広徳先生(大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了)が入局。また、2011 年、中島有佳子先生(大 57 回卒)が大学院生として入学。2015 年には歯科用コーンビーム CT 画像に関する研究【Nakashima Y, Yotsui Y, Shimizutani K. Evaluation of pixel density in the images of cone beam computed tomography. *J Osaka Dent Univ* 2014 ; 48(2) : 125-131.】で学位を取得しています。その後、小滝真也先生(大 60 回卒)が東京医科歯科大学大学院博士課程を修了後、東京歯科大学で 1 年間のレジデントを終え、2018 年に当科に入局しました。このように優秀な人材が確保されましたので、方向性を間違えないようにだけ注意いたしました。この判断は決して間違っていなかったと今でも思っております。そして、講座員全員で、今日まで教育面では画像検査・画像診断、放射線治療、放射線防護の 3 本柱を基本とし、診療面では主に画像検査・画像診断、研究面では画像診断(顎顔面領域の CT、MRI 診断)に加え放射線治療(舌癌高線量率組織内照射)の分野から着実に業績を積み重ねてこられたと自負しております。大変難攻ではありますが、当講座の歴史の一部を記述させていただきました。

最後になりますが、大阪歯科大学のますますのご発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、定年退職のご挨拶とさせていただきます。長い間、本当に有難うございました。

※ psychosocial oncology は悪性腫瘍について精神医学・心理学・社会的側面から研究する学問です。がん患者や家族、医療従事者の精神面、心理面に与える影響、および患者の心理や患者をとりまく家族・職場・地域などの社会的因子が患者の症状や治療経過にどのように影響を与えるかなどを研究する学問でもあります。



2020年度

大学・大学院

入学式

2020年4月3日



医療保健学部

医療保健学研究科



理事長・学長 式辞

理事長・学長 川添 堯彬

本日、新型コロナウイルスが猖獗を極める中でありますが、できるだけウイルスの感染防止の備えを十分に講じた上で、ここに新入生の皆さんをお迎えし、集まってもらおうという入学式をあえて挙げていただきました。何よりも残念なのは、極めて略式の、制限の多い中で、特に皆さん方のご父兄、保護者の方々のご出席をお断りしなければならないということで、非常に心残りでした。その中でこういった制限の多い入学式をあえて行いました。その意味は、私たちこの壇上にいる教員一同が、君たち学部の新入生、また大学院修士課程及び博士課程（後期）の新入生に対して、このような大勢の情熱に燃えた諸君をお迎えすること、その大きな喜びをまずもって認め、あなたたちを激励すること、この意味がひとつございます。

そして、私は国家試験の資格を取ることを第一のビジョンと常々申しておりますけれども、あなたたち新入生におかれましては、今日これから、その最初のビジョンを何としても達成していただきたい。そして大学院を志した方々は、あなたたちの人生における二番目のビジョン、それを達成すべく非常に強い熱意を持って挑んでいただきたい。このあなたたちの自覚、強い決意をここでこの日に持っていただくことが、第一のビジョン及び第二のビジョンを達成する上でいかに大きな力になるかということ、ここで思い出を作っていたら良かったからでございます。

八十歳になる田島征三という画家であり、作家であり、さらに絵本作家でもある方が『明日へのことば』という中において語っておられます。この方は八十歳において

今なお現役で、まだこれからたくさんの方をやらねばならないという情熱に燃えておられるようであります。その田島征三先生が、人生で何か目標、望みを達成するために最も大切なことは情熱であると断言しておられます。情熱さえあれば才能が乏しくても達成できる。情熱さえあればお金がなくてもクリアできる。情熱さえあればその他もろもろの行き先に現れる困難をはねのけることができる。情熱さえあればビジョンはいくつあっても達成することができる。人生に最も大切なものは情熱、パッションである。そのように田島征三先生は八十歳になってもまだ色々な創作に励んでおられるわけであります。今日入学された方は、そして今日大学院の第二のビジョンを目指される方は共に、私たちから見ても最も尊い医療職のために、これからその達成に向かって進まれるわけであります。非常に尊いことでもあります。困難にぶち当たることも少なくないかも知れません。その時にこの八十歳で現役の田島征三先生の言葉をどうぞ思い出していただきたいと思っております。

私たち教員においても、あなたたち新入生の皆さんを、あるいは大学院生の方々を指導するにあたっては、目一杯の喜び、情熱を持ちたいのであります。そしてあなたたちもその情熱で返していただきたいという気がいたします。このあなたたちが目指す道は、全く迷うことがないと思っております。最も尊いことであると思っております。博愛とか慈悲とかそういったものも究極には目指すことの一つの道であろうかとも思っております。今日この厳しい社会情勢の中、わざわざ時間を割いて来ていただいた方の今後の健康と幸福を心から祈念してやまない次第でございます。

以上、私も教員の一人としての言葉に代えさせていただきます。と思っております。

4月3日（金）午前10時から歯学部・歯学研究科の、午後2時から医療保健学部・医療保健学研究科の入学式を楠葉キャンパス講堂で行いました。新型コロナウイルスの感染対策のため、保護者の参加を取りやめ、次第は「入学生点呼」と「理事長・学長式辞」のみという略式でしたが、川添堯彬理事長・学長以下、壇上の教授陣が点呼に応える新入学生を温かく見守りました。

今年度新設の医療保健学部ダブルディグリープログラムには1名、医療保健学研究科博士課程（後期）には、入学定員の3倍の9人が入学しました。

歯学部・歯学研究科

理事長・学長 式辞

理事長・学長 川添 堯彬

本日、新型コロナウイルスに対し、できるだけ感染防止の備えを講じた上で、このような略式の入学式ではありますが、新入生の皆さんに集まっていたいただきました。

この入学式の意味は、私たち教員が、君たち歯学生及び大学院新入生の入学を大きな喜びを持って認め、激励するため、そして新入歯学生が、自分たちは今日から歯科医師になるのだという自覚と強い決意を持っていただくためであり、極めて大切な儀式なのであります。

また大学院新入生においては、歯科医師になるとの第一ビジョンを見事に、既に達成された次第であります。さらに高度な第二のビジョンである大学院博士課程へ進まんとする志の高い研究学徒の方々であります。本日は、そうした皆さん方の決意の表明の時であります。

私たち教員一同も強い情熱を持って、あなたたちを指導していきたいと、喜びの、歓迎の宣言としたいと思います。

以上、私からの言葉といたします。



教授就任挨拶

2020年10月1日に次の2名の先生が大阪歯科大学教授に就任しました。以下、両先生の略歴とご挨拶を掲載します。

大阪歯科大学主任教授会の選出及び法人理事会のご承認をいただき、2020年10月に前々教授川添堯彬先生（現理事長・学長）、前主任教授田中昌博先生のあとをうけて有歯補綴咬合学講座主任教授を拝命いたしました。就任にあたり、皆様へのご挨拶と教育・研究・臨床活動の抱負を申し上げます。

私の学生時代は「大学は自ら学ぶところ」という風潮が一般的でした。私自身も講義を聴いて、あとは自身の努力で勉強していけばよいと考えておりました。しかしながら教員の立場から考えてみると、歯科大学はその取り扱う学問の性質上、学生に知識を与えるのみではなく、問題解決能力の優れた歯科医師の養成を付託されています。教育活動を学生にどのような学修経験を与えるかという視点から捉えずに、知識をいかに効率よく与える機会として考えてしまいがちです。教育―学修の主体者は学修者（学生）であり、主任教授はそのサポーターであることを強く認識したいと考えています。

私は1992年3月に本学を卒業後、4月に大学院生として歯科補綴学第二講座（当時川添堯彬教授）に入局しました。そこでは、生体信号の無侵襲計測というテーマのもと、咀嚼運動時の咀嚼筋筋電図の研究に取り組みました。具体的には、筋電図動作学で開発された歩行運動における筋電図処理法を咀嚼運動に応用した筋活動パターンの解析でした。計測データを眺めていますと、同じ動作の結果でもばらつきが認められます。いわゆる測定誤差が発生するのです。当時、筋電図データをどう処理すれば被験者の真のデータが抽出できるのかと考え、夢中になって統計学や教育測定学を勉強しました。この経験が現在の研究テーマである補綴咬合治療検査の信頼性、妥当性、反応性並びに解釈可能性の定量に関わる研究に役立っています。

学歴	
1992年3月	大阪歯科大学卒業
1992年5月	第85回歯科医師国家試験合格
1996年3月	大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了

歯学部有歯補綴咬合学講座 主任教授 博士（歯学） / 1968年生まれ



柏木 宏介
かしわぎ こうすけ

KASHIWAGI Kosuke

現在の補綴臨床において、デジタルテクノロジー（CAD/CAM技術）の浸透は目を見張るものがあります。日常的に作業用模型がデジタルデータ化され、ソフトウェアで設計、ミリングマシンにてクラウンブリッジや義歯のフレームなどが製作されています。それに続き口腔内スキャナーも進化、普及し始めており、「治療」に関して臨床ワークフローが確立されています。しかしながら、歯科医師が治療前に行う補綴学的な「検査と診断」においてCAD技術の利用はまだまだ不足しています。ワークステーションの中にあらゆる生体デジタルデータを統合した仮想患者を構築し、真の意味での補綴咬合治療のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の可能性を追求し、安心・安全な医療の提供につなげたいと考えております。

近年、得られた研究結果や治療効果の評価について、従来の「統計学的な差」ではなく、社会にその成果を還元できるか否かの「実質的（臨床的）な差」に焦点が当てられています。これまでの知識と経験を生かして社会に役立つエビデンスを探索していきます。

浅学非才の身ではございますが、本学の更なる発展のために「博愛公益」の精神を大切に、微力ながら貢献する所存でございます。今後とも教職員並びに卒業生の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

職歴	
1997年10月	大阪歯科大学助手（歯科補綴学第二講座）
2005年6月	大阪歯科大学講師（有歯補綴咬合学講座）
2012年4月	大阪歯科大学大学院歯学研究科講師（非常勤）（有歯補綴咬合学）

歯学部歯科医学教育開発センター 主任教授

博士（歯学）、Master of Medical Science / 1967年生まれ

益野 一哉
ますの けいさい



私は大阪歯科大学を卒業してすぐにハーバード大学大学院に進学しました。臨床研修コースではGeneral Dentistryに進み大学病院で診療をいたしました。医学修士課程ではForsyth Dental Research CenterのProf. Niedermanのもとで、マサチューセッツ工科大学から提供していただいたノックアウト・マウスを用いた若年性歯周炎の研究を行いました。

帰国後すぐに口腔病理学講座の田中昭男教授に助手として採用していただきました。2011年には英国王立外科学会の歯科卒業研修プログラムを受講するために、King's College London口腔病理学講座のProf. Odellのもとに1年間留学をさせてい

いただきました。そこでは年間5千例の症例がロンドン中から集まり、診断部位は咽頭喉頭を含むので日本ではできない貴重な経験をさせていただきました。研究では咽頭癌におけるHPVの偏在について調べました。教育では講義・実習に参加させていただき、日本との教育方法の違いを感じました。

2012年にロンドンから帰ってきてまず驚いたのが、大阪歯科大学の国家試験合格率が下から2番目だったことです。教務部長でもある田中教授から開口一番、「国家試験を何とかしなければならぬ」と言われ、そのために歯科医学教育開発室（現・歯科医学教育開発センター）に移って学生教育のてこ入れをするように命を受けました。現在ではわが校と同じように医療系大学（医学部、歯学部、薬学部、獣医学部）は教育専門の部署が次々とできてきています。

歯科医師国家試験は、2006年の文部科学大臣及び厚生労働大臣が掲げた合格基準の引き上げ方針で実質相対評価になり、受験生約3,200人中、合格者数は2,000人前後（合格率約65%前後）を推移しています。4年次には登院前に共用試験（CBT、OSCE）が、臨床実習後（若しくは臨床実習中）には習熟度を測るためにCSX（Post-OSCE）が実施されます。これらは近々に歯科医師国家試験の受験要件になり、実質国家試験扱いになります。さらに他国への歯学教育の質と量を担保する国際認証評価や、全学部の大学教育のグローバル化の流れなどが加わり、日本のみならず世界の歯科医学教育は年々変化してきています。2022年度には歯科医学教育のコア・カリキュラムの改訂もあります。コロナ禍における歯科医学教育も激変しました。新型コロナの緊急事態宣言下で好むと好まざるにかかわらずオンライン授業をせざるを得ず、結果的に政府の掲げるICTを活用した教育が一気に進みました。大阪歯科大学でも新教務システムポータルサイトShishin Webを導入しました。

歯科医療の現場も、コンビニエンス・ストアよりも多いと言われている歯科医院の数が示すように競争が増えてきています。医療技術の研鑽を積むだけでなく、経営、医院マネジメントも含め日々改善改良をし続けなければなりません。国が主導で超高齢化社会に対応した「在宅医療」「多職種連携」もすすめられています。また他の業種と同じようにDigital Transformation（DX）が進んできています。臨床では光学印象、CAD/CAM、アライナー矯正におけるシミュレーション、デンタル・パノラマ・CTなどのデジタルX線撮影、インプラント・シミュレーションなど今後DXのスピードはさらに加速すると考えられます。歯科医療人だけでなく、これから歯科医師になる学生たちは、従来の医療だけでなくこれらの新しい歯科医学も学ばなければなりません。

学歴	
1992年3月	大阪歯科大学卒業
1992年5月	第85回歯科医師国家試験合格
1995年6月	ハーバード大学大学院歯学研究科修士課程修了及び臨床研修医課程修了
	医学修士の学位を受領（ハーバード大学）
2009年3月	博士（歯学）の学位を受領（大阪歯科大学）

研究分野でもビッグデータを活用しDeep learningを行うAIを用いて創薬や遺伝子解析などが進んでいます。また論文検索や投稿などもICTの活用が主流になってきており、国内外の歯科医学会でもオンライン開催が主流になっています。

このように日々変化する歯科医療・医学に対し学生にいかにも効果的に教えていくか、問題は山積しています。歯科医学教育開発センターでは国の方針や1～6年生全体を俯瞰しつつ、個々の学生にいかにも効率的に指導ができるかを考えています。大阪歯科大学では川添学長が掲げる「寄り添い教育」「育み教育」で成績下位の学生たちを指導し、同時に成績上位者には「オーナー教育」を行っております。従来型の知識・技術の伝承だけでなく、社会人としての基礎力（協調性や課題解決能力など）を伸ばすためにアセスメント・テストを導入しました。セルフ・マネージメントのためのポートフォリオやコロナ禍においても自分の成績や弱点を知り改善していく学生カルテも導入しました。これらのツールだけでなく指導教授・助言教員・職員と協力し、きめ細やかな指導を行っています。近い将来18歳人口の激減で日本の大学の半数は定員割れになると言われています。これらの少子化対策とグローバル化に対応するため外国人留学生の入学にも力を入れています。大学院にはすでに多くの外国人留学生がいますが、2021年度は歯学部も外国人留学生が5名に増えます。研究面では人工知能の歯科医学教育への応用を考えております。

日本だけでなく、アメリカでもイギリスでも沢山の方々のお力を授かり今の自分があります。ハーバード大学大学院ではProf. Niederman、Prof. Dogan、King's College LondonではProf. Odell、Prof. Walker、大阪歯科大学では口腔病理学講座に採用していただいた田中昭男教授、歯科医学教育開発センターを創設して下さった川添理事長・学長など多くの教職員・先輩・友人・後輩・学生の方々にお世話になりました。心より御礼申し上げます。

私は歯科医師という職業は「一生を賭するに値する素晴らしい職業」だと思います。この歯科医師の根幹は今までもこれからも永久に変わらないと信じています。患者様に喜んでもらえる医療を提供し、その報酬として適切な対価を頂き、自分の人生を謳歌する。今は歯科医師に関して暗い話が多いですが、歯科医師は研鑽をし続ける限り、未来は明るく開けていきます。

学生たちが歯科医師という職業を通じて人生で幸せになれるように私も精進いたします。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

職歴	
1993年6月	米国 Forsyth Dental Research Center 客員研究員（1995年12月迄）
1996年4月	大阪歯科大学助手（口腔病理学講座）
2007年4月	大阪歯科大学助教（口腔病理学講座）
2012年10月	大阪歯科大学講師（歯科医学教育開発室）
2014年10月	大阪歯科大学准教授（歯科医学教育開発室）

大学

2月	11日	教授定年退職記念講演会 清水谷公成歯学部教授
	15日	第27回大阪歯科大学公開講座(枚方講座)
	25日	2019年度共用試験歯学系CBT
3月	15日	2019年度共用試験歯学系OSCE
7月	19日	医療保健学部オープンキャンパス2020 P16
8月	7日	第1回留学生カフェ P16
	11日	歯学部Web入試説明会2020 P17
	11・23日	医療保健学部オープンキャンパス2020 P16
	28日	2020年度FDセミナー(第1回) P17
9月	7・8・30日	2020年度FDセミナー(第2・3回) P18
	12日	歯学部父兄会・共済会総会
10月	4日	医療保健学部オープンキャンパス2020 P16
	27日	2020年度FDセミナー(第4回) P18
	30日	高大連携・オンライン体験授業を実施 P19
11月	15日	ひらかた市民大学2020「日常のストレスに立ち向かうには！」 P19
	20日	実験動物慰霊祭
12月	1日～11日	大学院FDセミナー
	10日・19日	共用試験2020歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアル

病院

2月	1・2日	第14回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 P20
	6日	2019年度院内感染対策講習会 P20
	8日	第17回病診連携講演会・懇談会 P21
	27日	医療機器安全管理講習会
3月	12日	2019年度医薬品安全管理講習会 P22
4月	1日	院内感染対策講習会
		医薬品安全管理講習会
	2・3・17日	医療安全講習会
	3日	医療機器安全管理講習会
6月	11・23日	医療機器安全管理講習会
7月	16日	院内感染対策講習会 P20-21
9月	24日	医療安全講習会 P22
10月	13日	院内感染対策講習会
12月	17日	院内感染対策講習会 P21

医療保健学部オープンキャンパス2020

新型コロナウイルス感染症が社会的に広まりを見せる中、医療保健学部では、短時間でも十分に学部の学びと魅力を知ってもらうため、説明会や体験実習を行うイベント形態のオープンキャンパスを7月19日、8月11・23日、10月4日に密を避けて開催しました。加えて、遠方に在住の方や外出にためらいのある方のために、模擬授業や学科の特色などを動画で紹介する配信型のオープンキャンパスも同時並行で実施しました。

来場型オープンキャンパスに参加した高校生は164人で、コロナ前から減少しましたが、動画配信型の申込者を合わせると428人にのぼり、コロナ下においても広く学部の情報発信を行いました。

来学された方からは「説明がすごくよくわかった」「求めている大学にぴったり」「コロナ対策もしっかりしていて安心だった」と満足の声がかれ、また動画視聴者からも「模擬授業がとても楽しかった」「大阪歯科大学で学びたいと思う気持ちが一層増した」など好評をいただきました。



8/7(金) 第1回留学生カフェ



医療保健学部は8月7日、第1回留学生カフェを牧野キャンパスで開きました。これは、留学生が自身の悩みや困り事、どういう支援を希望するかなどを自由に語り合う場として、同学部の学生支援小委員会が企画したもの。新型コロナウイルスの影響で新入生9人は来日が遅れ不参加でしたが、口腔工学科2・3年の女子3人がカフェに集いました。

カフェは今期の最終授業となった7日夕刻にオープン。元根正晴教授をはじめ委員会メンバーの先生方も顔をそろえ、軽食を摂りながら、リラックスした雰囲気の中「お喋り」は始まりました。

留学生共通の悩みとしてまず話題に上ったのは日本語の難しさ。「先生によって授業が早口で半分しか分からないときがある」「教科書を読むのに時間がかかる」「外来語は発音が違うので分からない」。各々一定の日本語能力をもつものの、専門用語の理解が求められ、学業面では苦勞を強いられるようでした。そのせいか、3年生2人の目標は「いい成績より卒業」で一致していました。

日本の小説が大好きという韓国出身の崔鈴珍(チェ・ヨン

ジン)さんは、話好きで友だちを沢山つってお喋りしたいけれど、コロナ禍で4、5月は巣ごもり、バイトも続けられなくなり、辛い毎日だったといいます。それでも「大学が希望」と笑顔で話していました。

コロナ禍に関する困り事として、特別定額給付金を申請するのに「貰えていない」と訴えたのは中国の方思棋(ホウ・シキ)さん。手続きに誤りがあるかもしれないと、すぐに区役所に問い合わせをと、各先生は区の電話番号を調べたり、申請方法を確認したり、早速親身に対応していました。一方、給付金未申請ながら悠揚迫らぬ態度の牛子瑤(ギョウ・シヨウ)さんには、先生方のほうが「期限があるから早く」と熱心に勧めていました。

カフェ第1日を終え、「留学生の本音がきけて良かった」と元根教授。多くの苦勞を抱えながらも懸命に大学生活を送る留学生の実態をあらためて知り、先生方は感心しきりの様子でした。



8/11 (火) 歯学部Web入試説明会2020



歯学部の2020年オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Webによる入試説明会に変更して行われました。①川添亮彬学長の挨拶、②駿台教育研究所・石原賢一氏による特別講演、③駿台現役講師による入試対策講座——というプログラムが組まれたこの説明会は8月11日から9月末まで、申込者限定で公開され、134人が視聴しました。

また、受験生一人ひとりの「知りたい」「聞きたい」に応えるため、7月14日から10月30日までオンライン個別入試相談を実施。アドミッションセンター職員が1対1で丁寧に質問に答えました。

学長挨拶

大阪歯科大学学長の川添亮彬でございます。

本学大阪歯科大学の建学の精神は博愛と公益でございます。この建学の精神をつくられたのが創立者の藤原市太郎先生であります。110年前に本学は創立されました。

教育方針には、Science, Art & Heartを掲げております。ScienceとArtは最新の歯科医学の知識と技術を指します。そしてこころの問題として、患者さんをいたわる、優しいこころで接するというその精神を涵養するのがHeartであります。

そのようにして日常の授業は育みと寄り添いを大勢の教員が手分けして、少人数教育、あるいは場合によってはマンツーマン教育によっておこなっております。

また、少し余裕がある学生については、オナーズ教育を施しております。これは各研究室を訪ねて実際に研究活動を指導してもらって、6年間のうちに発表する、場合によっては海外に行って発表をするということを目指しております。

また本学の特徴としては世界16大学の提携校との短期海外研修をおこなっていることであります。これに参加した学生の国家試験の合格率は96.4%という高い合格率を誇っております。

それではまた、皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。



2020年度 FD(ファカルティ・ディベロップメント) セミナー

第1回 - 枚方産学公連携プラットフォーム共同FD・SD事業 -

日時：8月28日(金) 16:00~17:00

場所：楠葉キャンパス第5大講義室

演題：情報セキュリティ脅威とその対策

講師：福澤寧子先生

(大阪工業大学情報科学部ネットワークデザイン学科 教授)

出席者：(楠葉) 65人 / (オンライン) 184人

内容：情報セキュリティ脅威とその対策として、まず教育現場で起きている例として、教員のID・パスワードが不正利用され、教育用計算機システムの内部に不正プログラムが設置され、管理者ID搾取、利用者情報漏洩が多発している。その対策として、暗号化技術、認証技術、ファイアウォール等の技術面での対策、および業務管理、監査、人事管理、セキュリティ教育、不正アクセス禁止法、個人情報保護法、著作権法等の技術面以外の対策を構築することが重要である。



第2回

日時：9月7日(月)、8日(火) 17:00~18:30

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：ウィズコロナ時代におけるオンライン授業の実践

講師：権藤千恵先生(大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 MOOC プロジェクト 特任研究員)

出席者：167人

内容：オンライン講義の授業コンテンツの制作について、以下のポイントが挙げられた。

- ①オンライン授業には同期(教員は講義室や研究室からビデオや音声を使ってリアルタイムで授業を配信)・非同期(教員はインターネット上で資料や講義ビデオ、課題を配信。学生は好きな時間に好きな場所からアクセスして学習)による実施方法がある。
- ②学習目標や内容、学生の学習環境などを考慮しながら行う必要がある。
- ③オンライン授業での成績評価については、現状では学習状況の把握と形成的評価を行うことが効果的。
- ④レクチャービデオの作成は一つのビデオ時間を短くして複数に分けて視聴してもらうのが効果的。
- ⑤著作権の取り扱いについては、授業目的であれば2020年度は無許諾、無償で使用できる。
- ⑥著作物の取り扱いでは、授業目的であっても著作権者の権利を不当に害することがないように気をつける。
- ⑦オンライン授業では、完璧を目指さず、学生と一緒に創り上げていく意識で授業を進める。



第3回

- 枚方産学公連携プラットフォーム共同FD・SD事業 -

日時：9月30日(水) 17:00~18:30

場所：楠葉キャンパス第5大講義室

演題：データサイエンス教育について〈臨床歯科医学を例として〉

講師：今井弘一先生(大阪歯科大学副学長)

出席者：72人

内容：医療情報教育では教育目標の優先度が時代とともに大きく変遷している。現在の教育目標は、医療情報の倫理を十分理解でき、患者のセキュリティ情報の重要性を認識・尊重し、保護する必要性を理解できること。そして、他科との情報連携ができ、医療情報ネットワークの一員として歯科医が活躍できることが挙げられる。こうした目標を達成するためには、医療情報ネットワーク社会で患者プライバシーの重要性・危険性を認識させるとともに、それを保護できる知識と技術を会得させることが重要になる。



第4回

日時：10月27日(火) 17:00~18:30

場所：創立100周年記念館大講義室

演題：メタ認知で学生の学ぶ力を高める

講師：三宮真智子先生(大阪大学名誉教授)

出席者：157人

内容：昨今、学業不振が話題になっているが、これは学ぶ力が弱いことが大きな原因である。そこには二つの側面がある。認知的側面と非認知的側面である。ここでカギとなるのがメタ認知(=認知についての認知)である。これを利用することで、効果的な学習設計や自己動機づけが可能となる。学習に役立つメタ認知的知識はさまざまな種類があり、それらを活用することが、両側面において学生への支援となる。学習者自身がメタ認知を働かせて自らの学習を調整しながら目標達成に向かう「自己調整学習」の力を育てることが教育の目指すところである。



10/30 (金) 高大連携 - オンライン体験授業を実施

10月30日、本学では初の試みとなるオンラインによる高大連携プログラムを実施しました。2017年から毎年行われてきた香里ヌヴェール学院高等学校との連携プログラムも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今回はオンラインでの実施を余儀なくされましたが、探求学習を推進する同校と本学細菌学講座とのコラボレーションによりアクティブ・ラーニング型の授業を実現することができました。

当日は、細菌学の沖永敏則教授が「微生物って何するの? ~ヒトと共存する微生物~」と題してWeb講義をしたのち、グローバルサイエンスコース1年生がグループごとに関連テーマを選んで「質問づくり(QFT: The Question Formulation Technique)」に取り組みました。「役に立たない微生物との違いは?」「細菌はどのようにして全身に広まりますか?」「微生物は特定の場所でしか生きられないのか?」など、高度な質問を次々と受け、沖永教授と南部隆之講師がうなってしまう場面も。「それは世界中の研究者がテーマにしているような質問だよ!」「解明できればノーベル賞が取れるほど、世界中の研究者も注目するテーマですよ」と両先生は応じ、回答タイムも盛り上がりました。

最後に、沖永教授から、探求学習は日々の研究や大学の授業でも取り入れていることが紹介され、大学生の発表プロダクトや研究室の様子が写真で示されました。

「授業のスピードが速く、聞き逃さないように集中して聞いた」「大学では自分のやりたい勉強ができると感じた」「質問することによって理解が深まることがわかった」。授業後のアンケートには高校生たちの満足の声が多く記されていました。



11/15 (日) ひらかた市民大学2020

11月15日、紅葉に染まった楠葉キャンパスで、ひらかた市民大学が開かれました。これは市民の生涯学習を推進し生きがいを増進するために、「学園都市ひらかた推進協議会」が2005年度から主催しているもの。本年度は、歯学部生理学講座の合田征司教授が「日常のストレスに立ち向かうには!」という演題で講演し、定員ちょうどの40人が聴講しました。

この中では、ストレスが体に与える影響や、幸せホルモンの種類と分泌方法、ストレスを緩和する食べ物などについて解説があったのち、「笑顔はストレスを和らげる効果があるので、笑顔に自信をもつために歯科治療を」「たくさん噛む

ことで脳が刺激され、ストレス緩和につながる」など、ストレス解消には歯科治療も重要であることが紹介されました。そして、ストレスに最も効果的なのは「人への思いやり」と「笑顔」であり、社会とつながりをもつことの大切さが強調されました。

終了後のアンケートでは、「幸せホルモンについて参考にしたい」「社会とのつながりが最も大切というお話は胸にストンと落ちました」など、好意的な感想が多く寄せられました。コロナ禍でおうち時間が増える中、ストレスに立ち向かうヒントになったようです。



2/1-2 (土)(日) 第14回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

日時: 2020年2月1日(土) ~ 2日(日)
場所: 附属病院共用会議室
出席者: 本学担当者20人、受講者25人



当院は厚生労働省の令和元年度臨床研修活性化推進特別事業補助対象施設に多くの臨床研修施設の中から選定されました。この事業は、優れた臨床研修施設における指導歯科医育成の講習会に対する支援を行うことで、臨床研修の活性化を図り歯科医師の資質向上を推進することを目的としています。本学は事業実施要綱、開催指針に則り、指導歯科医講習会を開催。全国から19人が参加し、本学教員等も6人受講しました。

2日間の全課程を修了した25人に対しては川添理事長・学長から修了証が交付されました。受講者アンケートでは、講習後は設問への正解率が大幅に上昇し、タスクフォース等に対する感謝の言葉や、「充実した講習会であった」など高評価の声が多く、所期の目標をおおむね達成することができました。

2/6 (木) 2019年度 院内感染対策講習会

日時: 2月6日(木) 16:00 ~ 17:00
場所: 創立100周年記念館大講義室
出席者: 108人

演題: 歯科器材の洗浄から滅菌について
講師: 北野信子氏
(花王プロフェッショナル・サービス株式会社)

厚生労働省医政局歯科保健課長の通知「歯科医療機関等に対する院内感染に関する取り組み推進」、日本歯科医学会・厚生労働省委託事業の「一般歯科診療時の院内感染対策に係わる指針(第2版)」をもとに洗浄・消毒・滅菌の一般的な流れ等も含め概要説明がありました。

標準防護具、洗浄時の注意事項(汚れ落としの重要性、洗浄剤の特徴と相性、流水下の洗浄時における飛散の危険)、消毒・滅菌の方法と注意事項、環境管理・整備の必要性などが説明されました。

歯科診療は多くの器具を使い、その中には細かい製品もありますが、ガイドラインを参考に当院の洗浄・消毒・滅菌マニュアルを見直し遵守することで、アウトブレイクが防げるので、マニュアルの周知徹底が必要であるとのことでした。



7/16 (木) 12/17 (火) 2020年度 院内感染対策講習会

日時: 7月16日(木) 16:10 ~ 17:00
場所: 創立100周年記念館大講義室
出席者: 86人

演題: 針刺し切創対策について
講師: 谷本啓彰先生(歯科保存学講座 講師)

新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用や3密対策を行い、2020年最初の講習会を開催しました。

当院での針刺し切創は、片付け時の第三者（術者以外）に多く発生しているため、鋭利な器具は診療担当者自らが片付けること、使用後の麻酔針はリキャップせずに直接、針廃棄ボックスに廃棄すること、発生した場合は必ず報告することの周知・徹底が求められました。また、事象発生時には速やかに対応できるよう、更新されたマニュアルを再確認するよう要請がありました。



日時：12月17日（火）16：15～17：00
 場所：創立100周年記念館大講義室・中講義室
 出席者：教職員124人 / 医療保健学部62人

演題：医療現場の新型コロナウイルス感染症対策
 ～標準予防策+ α ～
 講師：坂本史衣氏
 （聖路加国際病院 QI センター感染管理室マネージャー）

新型コロナウイルス感染症拡大第3波の懸念から ZOOM での講習会となりました。

当初の演題「手指衛生を習慣化するには」から、現在の社会情勢に即した「医療現場の新型コロナウイルス感染症対策～標準予防策+ α ～」に変更して講演いただきました。

初めに新型コロナウイルス感染症の特徴や感染経路等の説明があり、現在の感染拡大について、医療現場の最前線の状況を語っていただきました。感染リスクが高まる「5つの場面」を確認し、手指衛生がいかに接触感染予防に重要であるかをあらためて認識することになりました。医療崩壊を未然に防ぐためにも、めいめいがより一層、感染対策に励むべきだと痛感しました。



2/8 (土) 第17回病診連携講演会・懇談会

日時：2月8日（土）15：30
 場所：附属病院臨床講義室
 出席者：講演会63人 / 懇談会32人

中嶋正博病院長の挨拶、松本尚之副病院長による当院各診療科の紹介などののち、医科・歯科連携体制の確立により、信頼される病院をめざして、耳鼻咽喉科の服部賢二教授が講演しました。「歯科との接点としての耳鼻咽喉科」と題して学際的な視点から、歯科との関連が深いケースを題材に詳細な解説があり、講演会は大盛況のうちに終了しました。

懇談会はプラザ・フォーティーンで開催され、病院長をはじめ、当院及び紹介元医療機関の先生方相互にコミュニケーションをとり、情報交換を通じて病診連携の強化をはかるとともに、交流を深めました。

（2019年1年間の患者紹介医療機関数：2799施設）



3/12 (木) 2019年度 医薬品安全管理講習会

日時：3月12日（木）16：10～16：40
 場所：創立100周年記念館大講義室
 出席者：128人

演題：最近の医薬品情報より
 - 医薬品の適正な使用に関して -
 講師：上中清隆氏（薬剤師長、医薬品安全管理責任者）

厚生労働省のホームページに随時掲載される診療報酬改定に係わる医薬品に関する通知は、自身の業務に関連する内容を精読し、また医療用医薬品の添付文書情報等について調べる場合は、医薬品医療機器総合機構（PMDA）ホームページの検索システムを利用して最新の情報を得ることが重要です。

日本では抗菌薬の使用量について適正使用のための対策が進められており、外来で多く処方される経口抗菌薬の使用量を50%削減する目標が掲げられています。感染症に関する知識を向上させ、抗菌薬適正使用を推進して耐性菌の発生を防がなければなりません。

早急な対応が求められている新型コロナウイルス感染症の

治療薬の開発は、既存薬を転用し臨床試験が実施されている段階との報告がありました。



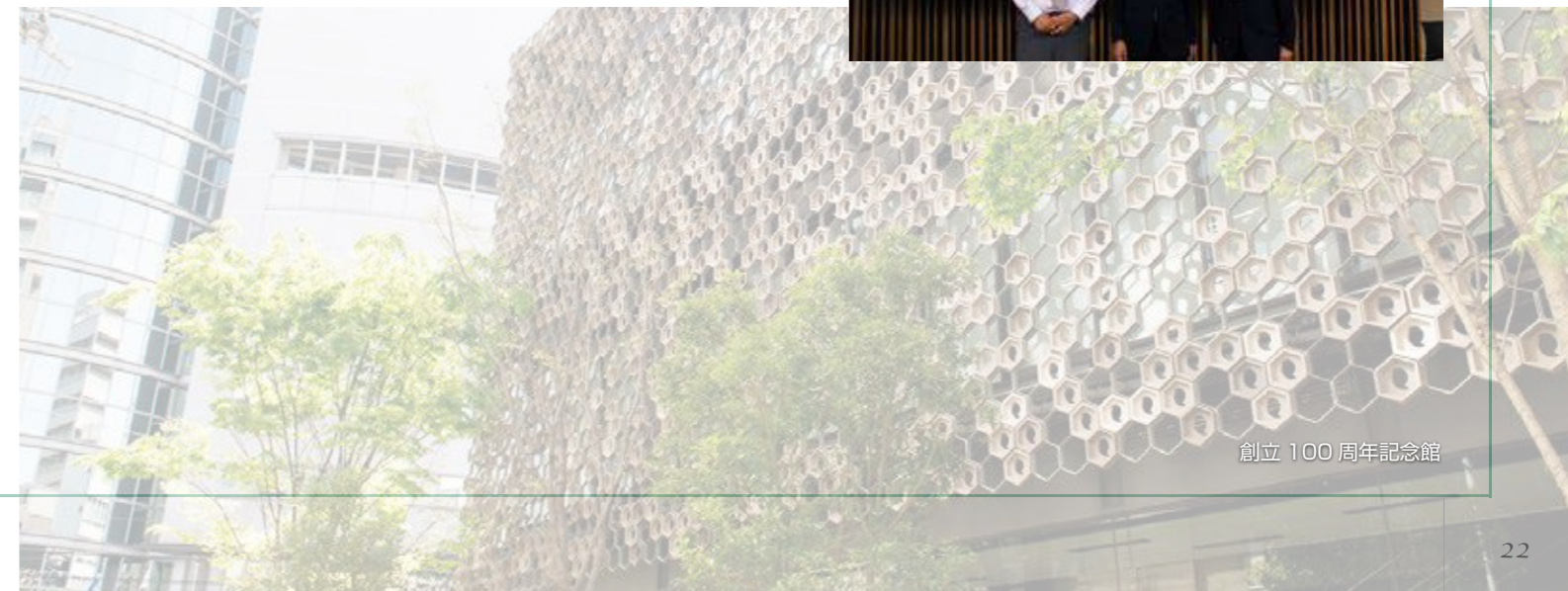
9/24 (木) 2020年度 医療安全講習会

日時：9月24日（木）16：15～17：00
 場所：創立100周年記念館大講義室
 出席者：110人

演題：医療安全の基本と最近の動向
 講師：江原一雅先生
 （滋慶医療科学大学院大学 特任教授）

新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用や3密を避ける対策を行うなかでの開催となりました。

医療安全における「安全を最優先にする組織文化の醸成」をテーマに、ヒューマンエラーを防止するための報告・学習文化の醸成や、チーム医療とノンテクニカルスキルの向上など、医療安全の基本的な内容から、神戸大学病院の実例を交えた安全対策について講演いただきました。



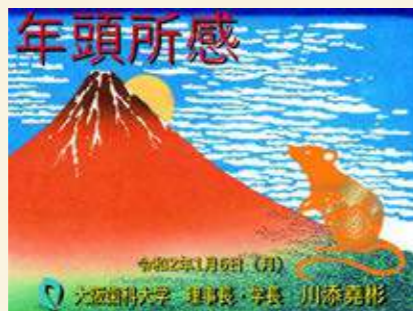
創立100周年記念館

2020年 新年互礼会

本学の2020(令和2)年・庚子歳(かのえねどし)は、1月6日の新年互礼会からスタートしました。互礼会は毎年、川添亮彬理事長・学長が本学関係者を前に年頭所感を述べる場となっており、昨年に引き続きFD・SD研修を兼ねて開かれました。この中で、川添理事長・学長は、本学をさらに前進させる重点計画について説明し、「貫く(つらぬく)」をキーワードに今年一年を過ごしたいと話しました。

年頭所感

理事長・学長 川添亮彬

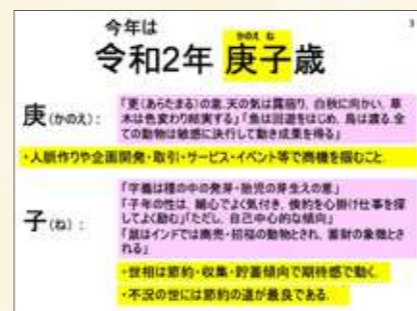


めをいただいたそうです。

「貫く」という言葉がその中にあります。「貫く棒の如きもの」というのは、禅宗といいますか、座禅なんかをやっても、お坊さんが背中に、棒を持ってびしょとやりますね。あれ、警策といいますが、あれで年末の邪気を払い、あるいは眼気を払い、そして、しゃんとしてまた新たにやる。それを年末年始で続けてやっているさまを読んだという説。あるいは、いろんな貫く棒、棒というのは人によってそれぞれ違うと思うんですけども、それぞれの人のために去年今年、行く年来る年、続けることが本人にとって非常に尊いのである。またその値打ちを時を経て出てくるということも申し上げたいのだと思うんです。

先ほど言いましたように、毎年お正月のお参りに行っている春日大社においてのおみくじの大吉の中にも、この「貫く」という明治天皇の歌が9番の大吉で出てまいりました。時の遅い速いは人によっていろいろ違いはあろうけれども、ただひたすらに「貫く」ことをやっていると願い事は必ずや成就するに違いないという意味の歌でございます。また後でパワーポイントで少し出てきますけれども、「貫く」という言葉で今年を開始して1年を過ごしたいと思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、次に、パワーポイントでいつものとおり説明をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。



申すまでもなく、今年は2020年、令和2年の年でございます。これは、ねずみの年ということで年が明けました。

暦の干支を引きますと、庚子(かのえね)という年のようでございます。庚(かのえ)というのは更、改まるの意味で、天の木は露宿り白秋に向かい、草木は色変わりて結実する。魚は回遊を始め、鳥は渡る。全ての動物は敏感に決行して動いて成果を得ると、そういうふうには載っているわけでありまして、それを現代的に言えば、いろいろな企業の活動とか商売の活動において、人脈づくりや企画開発、取引、サービス、イベント等いろいろな勝機をつかむこと、こういったチャンスを得ることというふうには載っています。

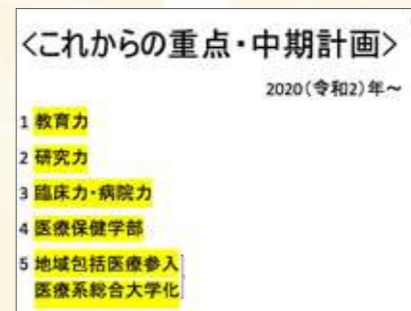
一方、子年、子(ね)でございますけれども、この言葉は、種子の中の発芽、胎児の芽生えの意。子年の性は細心でよく気づき、儉約を心がけ、仕事を探してよく励む。ただし、自己中心的な傾向が多少あるから、運気を損なうことがあるけれども、それはよき先輩によって喝を入れてもらう、少し叱ってもらう、アドバイスをしてもらう。それによって、ますますこの方は欠点が長所になっていこうと言われております。一方、インドでは、ネズミは商売招福の動物として、蓄財の象徴となっているようでもあります。



それで、今年とはといいますか、このように中期計画というものをお考えないといけない、特に2020年の3月までにはこれを構築して、全ての大学、特に私立大学では中期計画を発表しないといけないということが文科省からも来ておるわけでありまして、長く言えば、2019年度、令和元年から、中期計画というのは5年をめぐりにしているようでございますので、2020年あるいは2020年度、あるいは、2019年あるいは2019年度からいつて2024年度までの5年か6年の間に、我々の大学も中期計画を構築しないといけないということになるわけでございます。もし2024年度ではしっかり進みますと、全部完成しなくても、少しそこへ足を入れますと、ちょうど本学も113周年という年に当たります。干支で言いますと、辰か、巳になります。

大阪歯科大学をさらに前進させる重点計画とは

昨年「発展」という言葉がここにあったんですけども、今年はさらにそれを前向きに前進させるということで、全体を見直してみました。重点計画を見直した。重点計画でずっといったんですけど、重点計画は1年以内、2年でも3年でもいいんですけども、できるだけ1年以内に取りかかるような形、割合急ぐことですね。中期計画は、先ほど言いましたように、5年をめぐりに行っていくものということでございます。この子(ね)の年から始まる、あるいは、亥(い)の年から始まったということです。



本学で当てはめてみますと、教育面で、教育力、それから研究力の面で少しも前進させないといけない。あるいは附属病院が担当いたします臨床力、病院力ですね。この面でも計画を進行させないといけない。それから、牧野にできました4年制の医療保健学部、これが今年で4年目になるわけでございますので、過去3年の歩みを踏まえて、完成期が近づいてございます。少しでも円滑にこれを発展させないといけない。それから、厚労省からは、地域包括医療ということがやかましく言われて政策になっておりますので、それに一定程度参入していく、そういうふうなことで一度見てみたいと思います。



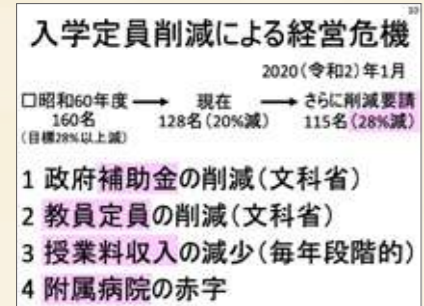
まず教育力ですけれども、言うまでもなく、これが大学の中で最も難しく、また重要性も高いということで、みんな教員のあるいは職員の方々が苦勞に苦勞を重ねているわけでありまして。学生さんという未完成の人を社会へ出すために教育しないといけないわけでございます。そのために一番、ご父兄にとっても、親にとっても、大学にとりましても、国家試験の合格率というのがやっぱり世間からも価値を見られておりますし、かなりシビアな競争社会の中でそれを安定させる必要があるわけでありまして。医学部では90%以上で勝負が決まるということでも一斉に、特に私立大学、国立でもそうすけれども、90%より1%でも大きいのはノータッチ。歯科のほうは、ま

だ90%で勝負するには少し遅れているというか、少し低い合格率で言われておりますので、これは、うかうかしますと薬学部とかあるいは看護学部には追いつかれる恐れがあります。しかも、ただ合格すればいいというものでもないというふうには、さらに厳しいことを言ってきます。それは、最少修業年限というのがあると。留年せずに6年間で進級して、それでその年か翌年の国家試験に一度で通る、そういう数値が私立大学では大体50%台になっておりますけれども、本来、司法試験とかも最少修業年限で法科大学院は70%ないとだめだと言われております。本学もまだ50%台にやっと来たところでございますので、さらにこれを60%、次の目標にして、その次に70%と持っていきたいといけません。

学部	定員	入学	入学率	卒業	卒業率	合格率	最低修業年限
医学部	300	280	93%	280	93%	90%	6年
歯学部	300	280	93%	280	93%	90%	5年
薬学部	300	280	93%	280	93%	90%	5年
看護学部	300	280	93%	280	93%	90%	5年
医療保健学部	300	280	93%	280	93%	90%	4年
法学部	300	280	93%	280	93%	90%	3年
経済学部	300	280	93%	280	93%	90%	3年
経営学部	300	280	93%	280	93%	90%	3年
国際文化学部	300	280	93%	280	93%	90%	3年
総合文化学部	300	280	93%	280	93%	90%	3年

それで、文科省からの通信簿ですけれども、この中でB、削減率ですね。昭和60年からずっと削減を28%言われているのが、本学はまだ20%ぐらいしか削ってない。全国平均は26.9%で約27%ぐらい削減しているの、全国的には目標までもう少しですけれども、一方本学はまだ20%で、この部分はこの合格点である5点の星印がついていないということを示しています。これが毎回いつも毎年、アドミッションといいますが入学時には、募集人員は幾らにするんだということをお聞かされているわけでありまして。それで、Cの充足率は、本学は平成27年度からずっとほとんど100%で、これは全く文句がありません。競争倍率は2倍以上でない全入の大学と評価され、平成27年度には一度かつかつ、2.05倍になってしまったんですけど、それからは非常に競争倍率が上がってきて、2.91、2.70、3.05、4.03と、競争倍率が3倍以上を達成し続けており、相当歯学部では難関と言えよ状態

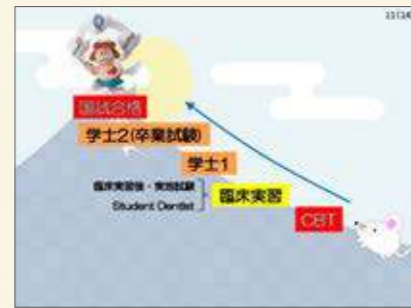
態でございます。これが一番最新の通信簿ですね。



それからもう1つ、私立大学には、入学定員を削減せよといっても簡単にできない事情がございます。これはやはり経営危機に陥るからでございます。昭和61年度ぐらいから、160名までだったのが、ここから28%削減せよ。それが今本学では20%ぐらいまで削減して128名になっている。しかし、この時点の言うとおりにきちっと守りますと、115名でないといけないんですね。これだけまだ減らさないといけない。毎年これを注意を受け、注意を受けていても、経営の状態が危ぶまれますので言い訳をして何とかしのいでいるわけであり。いろいろ、政府からの経常費補助金も徐々に削減されてきます。このように補助金が削減されたり定員を115名に減らしますと、教員の定員も削減しなきゃいけないということで、今より更に減らされる。それから、授業料収入が減ってきます。この128と115名での差は、具体的な数字は避けませんが、相当苦しくなるわけでございます。それをもし救えるとしたら、附属病院が黒字を出してもらえるか、あるいはほとんどであれば、これはかなり削減しても115名でもやっていける、全部をひっくり返す必要は赤字にならずに済む。本学は幸いにして充足率もいいために、今までに14年間私も関わっておりますけれども、実はその間には一度も赤字になったことはありません。それだけ理事の先生方のかじ取りがよかったと言えるような感じでございます。

それで、まだ教育の問題が、このごろ、国家試験をばんと通るためには、かなり厳しいハードルが待っております。CBTというのと国試合格、これは完全に国

試問題で、国家試験ですね。CBTも国家試験でございます。そこへ持ってきて、本学の卒業試験の1つ目は学士1、学士2という2つの、卒業試験が控えている。もう1つの臨床実習も以前は先生方がしてくれるのをそばで見ればできたんですけど、最近は臨床参加型でないとイケない。国家試験という知識の試験は通ったけれども、卒業してすぐには、自力でやってみなさいと言ったときにようやらないような現状になっているので、実習試験を実際の患者さんでして、全国から選ばれた試験官の目の前でやってみせないといけない。それも全ての科目でやってみせないといけないということになりました。それからもう1つ、それを助長する難しさはスケジュール・デンティスト、医学部ではスケジュール・ドクターというのが、今年から医学部も法制化して始まります。歯学部もまた少し、1年遅れるかどうか言えますけれども、それはやはり、これについていけると歯学部が遅れてしまうので、何とかこの2つを。臨床実習も従来に比べたら相当難しくなるということですので、今、黄色ですけれども、だんだんこの茶色のほうになってくる。



<歯学部卒前教育目標>
2020(令和2)年~

- 入試倍率3.0倍以上
- 進級率(2学年, 3学年, 4学年へ)-各100%
- CBTの本試合格-80%以上めざす
- 国試合格率-新卒90%以上めざす
- 最少修業年限での国試合格率-60%以上
- 既卒者への無償教育支援 (予備校と併学義務)

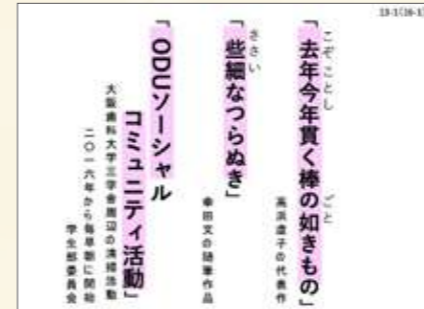
歯学部の卒前教育では、先生方は苦労して、これだけのハードルを目指してやっているわけであり。具体的に挙げたいと思いますけど、入試倍率は、先ほど言ったように2倍以上あれば文科省から叱られませんが、18歳人

口が今後減ってきます中でも3倍以上を確保して安全圏へ行きたい。それから進級率です。1年から2年、2年から3年、3年から4年と、各学年はできたら100%進級してもらおう。そうしないと最少修業年限で卒業して合格にはならないので、どこかで1年で留年してしまうと、6年後には相当遅れることになりま。ということで、進級率も馬鹿にできない。それから4年生で受験するCBT、コンピューター・ベースド・テストの、国からの、送られてくる問題を30秒以内に1問ずつ、二百何題の問題を解くというものです。それを、再試験だと最近合格できているんですけど、だんだんと再試験ではなく本試合格でないといけないと言われてきています。具体的には1つの大学で80%以上の合格率を目指さないと、大勢の人がダブついていくことになりま。ですから、進路変更するんだしたらこのあたり、4年生でだめだったら、5年、6年に行っても留年ばかりして、どうしても退学になってしまう率が非常に高いので、大きな第一次国家試験と言われるゆえんはここにあります。ですから、80%を目指していれば、まずそれは大丈夫ですので、そこへ目標を置いておきます。

国家試験は、先ほど言いましたように、できるだけ合格率90%以上、これは数年の段階で90%以上でないと、かなり卒業できない学生が大勢どと出てきますので、ここで競争しようと思えば90%以上を目指さないとだめになる。最少修業年限は、50%が現在、70%以上が理想なんですけれども、まずは1つのハードルとして60%以上が通らないといけない。少しは留年できるような数値ですね。

先ほどはDの話までしましたけれども、国家試験の合格率は、本学も5年前からは非常に上がってきて、このように第108回と、文科省が目くらを立ってくるのは過去3年のうちで2回以上通らないといけません。合格率に関して言えば本学は、過去5年は全部合格しているんです。ところが、最低修業年限は、このように1回だけパスしたんですけども、パスというのは全国平均

より1%でも超えることで、51.6%だったときがあります。しかし、ひどい年には39.8%だったこともありまして、相当クラスによって、留年生が増えたときはここへ響いてきますので、6年後あるいは5年後にも影響が出てきます。こういうのが現状の課題ですね。



先ほど冒頭でご挨拶申し上げましたように、今年になって非常に私に影響を与えたというのは「貫く」という言葉ですね。それがやっぱりいろんなところで、特に本学のような国家試験のある大学で大学機能を、大学力を上げていくためには、このようなことをやらないといけないと感じます。「去年今年貫く棒の如きもの」というのが先ほどお話ししたとおり、川端康成氏から激賞された、高浜虚子の代表作と言われる俳句ですね。

それからもう1つ、幸田文、幸田露伴の次女に当たる人ですね。小説のほか、『些細なつまらぬき』というタイトルの短い随筆も書いてるんです。どんなことがささいな貫きかというのはまた後ほど申し上げるとしまして、それを本学で当てはめると、ささいとは言わないですけど、2016年からずっと毎日早朝に、8時から8時40分まで、大阪歯科大学の3つの学舎、楠葉、牧野それから天満橋と、その周辺の清掃活動をしてます。これは学生部委員会のかけ声で始めまして、教員にも関連する職員にも、もちろん学生は全員、1回サボったらまたそれは必ずもう一度、再実習じゃないですけど、再活動をやっていただく。そういう形で4年前からずっと続けております。初めは楠葉だけだったんですけど、それから牧野のほうもやってくれるようになりまして、さらに天満橋までやってくれるようになり、これによっていろんなことが変わりました。周りからの、近隣の住民からも今までは随分クレームの電話

ばかりかかってきていたのが、最近では感謝の電話とか、すれ違いのときに、近隣の住民からありがとう、ありがとうと言ってくれるようになってまいりました。それをなぞらえてあります。

それで、このように今では楠葉学舎周辺、これは1年生から4年生、天満橋学舎は、これは一番新しいんですけども、5年、6年と、医療保健学部は3年、4年と、それから牧野の周辺は牧野の、まだ4年生はおりませんけれども、全学年と関連教員でやっています。

それによって、こういうふうにやってもら。初め、どこまで続くかなと思ってたんですけど、早4年続くわけですから、これはほんとうに「貫く」ことが本学にとってどんなに大きなメリットが出てくるか。



これは天満橋ですね、最近始めた。天満橋はちょっと無理ですというのを何とかしてやってもらったのがこういう形でございます。

次に、研究力に関しましては、最近では非常に大きな動きが出ておるわけであります。

- <国際交流・大学院留学生の増強>**
2020(令和2)年
- 学生の短期海外研修-相互
 - 両学部への留学生
 - 大学院博士科への留学生
 - 大学院修士科への留学生

海外研修に本学生が、短期海外研修に出かける。これによって随分と研究力それから普通の国家試験の合格率も向上、91.4%とか5%とか、それほどまで高まるわけでありま。非常に効果が出ております。また、大学院には留学生、中国からの方が非常に多く、ほかにも台湾の方もおられます。皆さん研究力

が基礎においても臨床においても非常に高く、4年制の課程を3年で、飛び級のごとく優秀論文を発表して卒業できる人も出てまいりましたので、研究レベルが非常に高まってまいりました。

このように、研究を増強するというのには意外なところに、こういう学生のアンダーグラデュエイトのときの短期海外研修、ただだか10日ほど行ってくるだけのことが大きくかかってくる。それから、まだしていませんけれども、牧野の4年制大学でもこれをやっくださいという声が高まってまいりましたので、今後は両学部で学生が研究活動にも大活躍することを期待しています。そして、さらに、大学院博士課程というのが、歯学部にも1つと、牧野の医療保健学研究科にも修士課程と共に新たに博士課程ができますけど、だんだんこうした博士課程のほうに人気が出てきて、本格的に研究を始めようという人が増えてきました。



次は病院です。附属病院には臨床力と病院力というものを行う義務があります。

附属病院改革を4年前から、理事会の各委員会でとってずっと、月に1度それぞれの部署の人が集まって検討を進めております。それで、今年からは本格的に改革が中へ入っていくわけでありま。もう1つ、「国際先制医療センター」というのが天満橋にできておまして、これは今、非常に立地のいい天満橋ということにありますので、それが功を奏するのではないかな。

附属病院の役割というのは、非常にたくさんを国からも言われていますし、地方自治体からも、これもやってほしい、あれもやってほしいということが来るわけで、これを全部やるには病院の先生方あるいは職員の方の大変な労力が要るわけ。患者が多いということ

収支にとってはいいこととして、また症例が豊富であるということは、学生の学習にとっても不可欠なことになります。国はだんだんスチューデント・デンティストといって、まだ国家試験を通過していない学生に実際の臨床実習をやらせようという形ですね。これを患者さんから訴えられても大丈夫だというような法制、法的な整備をした上でやっています。これは今年から始まるわけです。それから、臨床実習後には実地試験がある。従来からの模型実習を一齐にやるのと実際の患者を使って審査員の目の前で通してやるのと2つ、両方やらないとこれに合格しない。臨床実習が合格したかどうかはこれで決まります。

それから、また厚労省からの法制化で、医科歯科介護が連携しての、地域包括あるいは地域完結型医療というものが、全部地域で進められています。元々歯科医院完結型だったのが、それがだんだん広まって、いろいろな職種の人が連携していくような、これまた変なことですが、いわゆる多職種協働と呼ばれるものを厚労省が政策の1つとして、法制化されたんですから、ということで、強い圧力といいますか、どんどん推し進めようとしています。

また、復職支援、衛生士さんが不足しておりますので、衛生士さんをもう一度再教育するという施設も東京医科歯科大学と本学と、2つでスタートしております。3つ目が広島大学になりました。全国的にもまだそんなにたくさんきていないですね。

それから、いろいろな新しい科、まだ講座にはならないんですけども、口腔リハビリテーション科という科がスペシャルニーズとしてできました。ほかにも睡眠歯科外来という、こういうセンターも間もなくできます。さらに訪問歯科、訪問歯科診療に出向いていくというのもしやらないといけなくなりました。

また、先ほどお話しした大阪国際先制医療センターでは、健康診断したり、がんの診断として、マナー検査でゲノム診断をしたり、いろいろと取り組んでいます。特に国内の患者さんに限らず、インバウンドで来ているような外国人の患者

さんですね。そういう人も含めて両方相手にやっています。

こうしたことを附属病院の役割としてやらないといけな

<附属病院の改革・黒字化>
2020(令和2)年一継続

- 1 患者数一延患者数増強
- 2 診療時間の延長一土曜日診療
- 3 「診療分野教員」の増員
- 4 自費診療の増加
- 5 訪問・在宅診療へ積極参入

附属病院が赤字をなくすためには、延べ患者数をできるだけ増やさないといけない。それから診療時間ももう少し延長が必要で、土曜日診療をやってほしいという要望も出てきました。また、新米のドクターもいればベテランもいるんですけども、なかなか診療ばかりやっておれない先生もいるということで、教育のための時間が足りなくなる。それから、教育のほうばかりではなくて、診療をもう少しどんどんやって、附属病院といえども専門の先生が控えてやってくれるという体制にしていけないといけません。そのためには、「診療分野教員」を増員する必要があります。こうした課題を解決していくことで黒字化になります。

医療保健学部
国試合格率
大学新設士・博士

次に、牧野です。牧野の役割、医療保健学部といえます。

ここでは、まずは定員充足ですね。受験倍率が2倍以上にそれぞれがならないといけな

4年も行っているんですから、それにならないと、まただんだんと受験してくれなくなります。

これを前進させるためには、入学志願者を、募集力を増強して定員の2倍以上、これは文科省が言うように、2倍以上でないと全入の大学だと言われます。留学生については、人気があるのは、このようにアンダーグラデュエイトでは口腔工学科です。それと大学院博士課程ができましたので、博士課程にはまた留学生がこれから増えてくると思います。それからキャリア支援としまして、4年制ですから、再来年の3月には卒業するというので、できるだけいい条件の就職先を、引っ張りだこのところが多いんですけども、少しでも働く条件のいい職場を探す。ここで言う条件というのは必ずしも給料だけではなくて、いろいろ労務のこととか内容のこととかを指すものです。それと大学、大学院になってきますと、専門学校と違うのは、教員は研究をしている。研究論文をつくっていかないと教員を続けられなくなりますので、これはどんどん研究論文を書いていってもらわないと、4年制の大学でもいられないという形になってきます。

こういうふうに入学生定員は、口腔保健学科は70名、これは80名ぐらい来てまして、口腔工学科というのはこの半分ぐらいしかまだ定員が満ちていないんですけど、これも1、2年でほぼいっぱいになってまいりますでしょう。それから大学院の修士課程と博士課程、両方入れて13名以上を採れるんですけども、これはあまり心配なしに定員は充足、ほとんどできた瞬間にぱっと定員が満ちてしまいました。



口腔保健学科、衛生士の養成機関であります。



口腔工学科、歯科技工士の養成機関であります。将来のデジタルの歯科技工は、最低こういう形で作られていくということです。



それからもう1つ、先ほどありました地域包括医療ということですね。これは医療系の新学部の設置とかを計画しています。設置までにどこから看護師さんとか理学療法士さんとかリハビリテーションの資格を持つ人とか、そういう人をどんどん雇わないといけな

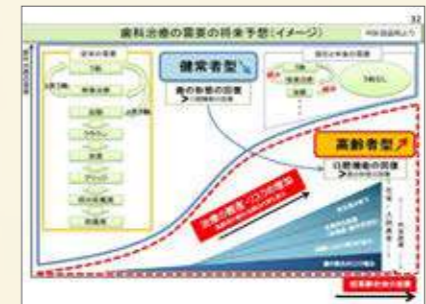
<これからの重点・中期計画>
2020(令和2)年~

- 1 教育力一国試合格率90%以上・最少修業年限60%以上
- 2 研究力一海外研修・大学院留学生増強一両学部
- 3 臨床力一病院力一附属病院改革・国際先制医療センター
- 4 医療保健学部一定員充足・国試合格率100%
- 5 地域包括医療参入一看護学部の新設
医療系総合大学化一全学財務基盤の強化

今までのことを全部ひっくるめると、これだけ、この紫色の分を達成していかないと、完全に軌道に乗ったとはいえないのであります。これからは歯学部だけではなくて、2つの学部、医療保健学部、将来はまた別の新しい学部を計画しないといけな

それで、社会における疾病構造の変化というのが圧倒的に高齢者型が占めるようになってきています。これが一昔前の歯科医の仕事の内容ですと、特に従来の需要というのはほとんど保存、補綴、口腔外科、この3つで大部分となっていま

して、う蝕になったり修復して、あるいは抜髄したり、クラウン、抜歯、ブリッジ、これでほとんど歯科医の仕事の80%以上を占められていたんですけど、それが、だんだんこういう治療で来る人が減ってくるんですね。その理由が、1つには高齢患者が増えてくるということです。もう1つ、予防が進んであまり歯が抜けてなくなって、歯周病は完全に解決してませんけれども、歯周病ぐらいでしか歯が抜けないというふうになってきました。そうすると、将来は高齢者型になるんです。これは治療の難度に、非常に全身のリスクが出てまいりますので、歯科医院だけでは治せないんですね。1つの抜歯があったときでも、一応は内科のほうに見てもらってからやらないといけな



それともう1つ大きく変わるのが、1980年代は歯科医院完結型で、歯科医院だけ行けば、はい、治癒しました、あとは定期健診に6カ月に1回か3カ月に1回来てくださいというだけで終わってたんですけども、それではなくて、医科歯科介護連携で、歯科は一部は治せるけれども、また内科のほうにも行ってください、それから最後はまた介護施設へも行ってくださいという感じになるんですね。8020運動というのは有名ですけども、これが平成28年度で何と51.2% (75~84歳の「8020」達成者の割合)まで上昇してまいりました。歯科医が少し増え過ぎてきている、ダブついてきていると言われ出したのがこのせいですね。それから12歳児の子供のDMF指数(一人平均永久歯う蝕経験歯数)も改善しまして、平成6年には4本であったのが平成28年で0.9本になり

ました。こんなふうに、だんだん複雑な連携型が医療の中心になってくる。今は医科歯科介護連携型と地域完結型との間ぐらいで、2025年ですから、あと5年するともう完全に地域包括あるいは地域完結型になってきて、その間に、医師のいない町村にはこういう地域包括支援センターのところへ行けば医者も皆そろっているという体制が整ってきます。あるいはこっちから往診に向かうとか、そういう形にないといけなくなるということで、非常に高齢者を診ることが歯科医療を提供するうえでの中心になってくる。これが将来の歯科医師の仕事の内容であります。

<今年の抱負> -2020
「前進」

それで、今までのことは、今年の抱負は「前進」ということであります。

冒頭にお話ししましたが、私は今年の元旦に春日大社のおみくじで9番の大吉を引いて、そこに明治天皇の歌が載っていました。ここに「貫く」という言葉があります。時の遅い速いには違いはあるけれども、一たび貫いていけば、まことから出発したことは必ず成就するものですよということの意味のようであります。

これですね。「とき遅き たがひはあれど つらぬかぬ ことなきものは 誠なりけり」。現代語訳すると、こういう意味になるようです。

ということで、2020年はこのような年が待ち受けているのではないかと考えてございます。ご清聴ありがとうございました。



令和元年度「私立大学等改革総合支援事業」に採択

本学は2月27日付で令和元年度『私立大学等改革総合支援事業』に採択されました。この事業は、文部科学省が平成25年度から実施しており、特色ある高度な研究の展開や、社会実装の推進など4タイプの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等への支援を目的としています。

今回本学はタイプ1「特色ある教育の展開」とタイプ3「地域社会への貢献（プラットフォーム型）」を申請し、このうちタイプ1が選定ライン48点を大幅に上回る76点での採択となりました（申請大学397校、選定大学131校、選定率33%）。これは、選定された131校のうち、上位6校に入る高評価でした。

本学では卒業生へのアンケート調査や、IR職員の他大学との相互研修といったIR情報活用の強化を図るなど、特色ある教育に取り組んでいます。また、2年次の「問題解決基盤」等アクティブ・ラーニング科目が開講科目の50%以上に及んでいる点も今回の高評価につながりました。

2019年度 事業報告

はじめに

大阪歯科大学は、建学の精神である「博愛」と「公益」を基調とした100年を超える歩みの中で、歯科医学・医療の発展に寄与してきた。

2019（令和元）年度においては、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指し各種事業を推進した。

歯学部においては、学生の受け入れでは、広範な入試広報活動の結果、安定した入学志願者数により定員充足を達成した。教育では、初年次教育の充実、オナーズ教育への注力、歯学系共用試験、臨床実習の成績向上に取組み、歯科医師国家試験に関して、新卒者合格率85.3%という好成績を収めることができた。

大学院歯学研究科においては、一般、社会人、外国人留学生の各区分で入学者を募集するとともに、大学院生の研究活動の活性化を図った。

医療保健学部においては、学生の受け入れ活動を積極的に行い、定員の充足を図った。本学附属病院で早期臨床体験学習の実施、歯学部と同様にODUソーシャルコミュニティを開設した。

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）においては、口腔科学に関する教育・研究者の能力、技能、見識を備えた人材養成を目指しており定員を充足した。また、課程開設初の学位（修士（口腔科学））取得者が誕生した。

大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）の

設置が認可され、2020年度の開設に向け学生募集活動を行った。

本学の教学改革の取組みは、令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1:特色ある教育の展開）への採択となつて実を結んだ。

国際交流については、グローバル大学に相応しい教員・学生研修派遣を展開し、2019年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）に採択された。

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界的な流行となったが、本学から一早く中国湖北省の武漢大学口腔医院にサージカルマスク1万個及びサージカルガウン150着の支援物資を提供した。

枚方産学公連携プラットフォーム（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学、枚方市、北大阪商工会議所、資生堂ジャパン（株）及び（株）Morondoで構成）については、各種事業に積極的に参画した。

附属病院においては、理事会傘下の病院組織改革委員会の検討を受け、医療の質向上と経営効率化に向けて取り組んだ。院内に大阪国際先制医療センターを設け、先制医療をはじめとする最先端の診療やセミナー開催などを行うこととなった。大阪歯科大学歯科衛生士研修センターでは、第3期の研修が無事終了した。

以上、今後とも教育・研究・臨床の一層の充実発展を目指していくものである。

第1部 事業の概要及び附属資料

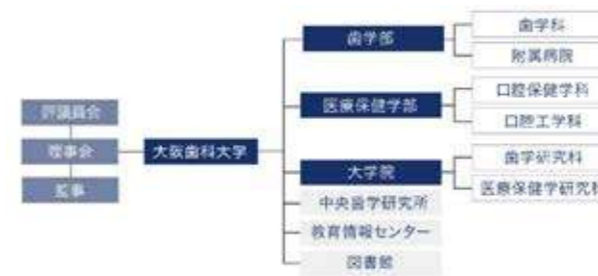
建学の精神

歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、「博愛」と「公益」に努める。

沿革

1911（明治44）年12月12日	大阪歯科医学学校設立	1968（昭和43）年5月1日	大阪歯科大学附属歯科衛生士学校（大阪歯科大学歯科衛生士専門学校）開設
1912（明治45）年1月14日	大阪歯科医学学校開校式（創立記念日）	1997（平成9）年4月1日	楠葉学舎、天満橋学舎附属病院竣工、牧野学舎（体育・課外活動施設）と合わせて3学舎体制となる。
1917（大正6）年9月7日	財団法人大阪歯科医学専門学校設立	2011（平成23）年11月11日	創立100周年記念式典挙行
1917（大正6）年9月25日	大阪歯科医学専門学校開校	2016（平成28）年8月31日	大阪歯科大学医療保健学部（口腔保健学科、口腔工学科）設置認可
1947（昭和22）年6月18日	大学令に基づく旧制大阪歯科大学設立（大学昇格記念日）	2017（平成29）年8月29日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）設置認可
1951（昭和26）年3月2日	私立学校法に基づく学校法人大阪歯科大学へ組織変更認可	2018（平成30）年3月31日	大阪歯科大学歯科理工士専門学校廃止
1952（昭和27）年2月20日	学校教育法に基づく新制大阪歯科大学設置認可	2019（平成31）年3月31日	大阪歯科大学歯科衛生士専門学校廃止
1961（昭和36）年3月31日	大阪歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）設置認可	2019（令和元）年11月19日	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）設置認可
1964（昭和39）年4月17日	大阪歯科大学附属歯科理工士養成所（大阪歯科大学歯科理工士専門学校）開設		

学校法人大阪歯科大学組織図（2019年度）



学校法人名称及び所在地

学校法人大阪歯科大学 大阪市中央区大手前1丁目5番17号

大学・学部等名称及び所在地

(楠葉学舎)	大阪歯科大学歯学部	枚方市楠葉花園町8番1号
(牧野学舎)	大阪歯科大学大学院歯学研究科	
(天満橋学舎)	大阪歯科大学医療保健学部	枚方市牧野本町1丁目4番4号
	大阪歯科大学大学院医療保健学研究科	
	大阪歯科大学附属病院	大阪市中央区大手前1丁目5番17号

役員・評議員（2020年3月31日現在）〔順不同、敬称略〕

【役員】理事：定数7名以上11名以内 現員8名
監事：定数2名 現員2名

	氏名	現職・主な職歴・就任年等
理事長	川添 堯彬	大阪歯科大学学長（2007.10）
常務理事	下村 錢三郎	学校法人大阪歯科大学理事・評議員（2010.4）
常務理事	田中 昭男	大阪歯科大学副学長（2016.4） 同歯学部長（2017.4）
理事	小正 裕	大阪歯科大学医療保健学部教授（2017.4）
理事	岡 邦恭	学校法人大阪歯科大学理事（2002.4）、歯科医師
理事	橋本 猛伸	学校法人大阪歯科大学理事（2006.4）、歯科医師
理事	前田 眞治	学校法人大阪歯科大学理事（2014.4）、歯科医師
理事	上田 雅俊	学校法人大阪歯科大学評議員（2014.5） 学校法人大阪歯科大学理事（2018.4）
監事	本井 文夫	学校法人大阪歯科大学監事（2014.4）、弁護士
監事	生駒 等	学校法人大阪歯科大学監事（2018.4）

【評議員】定数30名以上40名以内 現員40名

○選任区分	氏名
○本法人理事会理事互選（2名）	川添 堯彬（理事長）、岡 邦恭（理事）
○本学教授会推薦（歯学部教授12名）	池尾 隆、清水谷公成、山本 一世、松本 尚之、岡崎 定司、藤原 眞一、梅田 誠、有田 憲司、辻林 徹、今井 弘一、前田 博史、馬場 俊輔
○本学同窓会推薦（本学卒業生・歯科医師16名）	松田 毅、土居 桓治、岡本 学、久富 明宏、藤井 征、澤田 隆、和手 甚京、城村 幸治、酒井 昭則、奥井 寛、恩田 信雄、加藤 信次、太田 謙司、窪 盛偉、大塚 俊裕、岡田 太郎
○本法人理事会推薦（本学卒業生10名）	玉置 敏夫、下村錢三郎、鈴木 實、河合 正治、北條 博一、上田 雅俊、末瀬 一彦、和唐 雅博、柿本 和俊、吉本 一馬

学生の状況 (2019年5月1日現在)

設置学部等	修業年限	入学定員	入学者数			収容定員	在籍者数
			男子	女子	合計		
歯学部 歯学科	6年	160	57	71	128	960	835
医療保健学部 口腔保健学科 口腔工学科	4年	100 70 30	9 0 9	84 77 7	93 77 16	300 210 90	230 188 42
大学院 歯学研究科 博士課程	4年	30	25	13	38	120	121
大学院医療 保健学研究科 (修士課程)	2年	10	1	11	12	20	25
合計		300	92	179	271	1,400	1,211

教職員数 (2019年5月1日現在)

専任教員数 (大学歯学部・医療保健学部)	201名
計	201名
専任職員数 (法人本部)	3名
(大学歯学部・医療保健学部)	159名
計	162名
専任教職員数合計	363名

大阪歯科大学

大学全体での取り組み

●大阪歯科大学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のため教育・研究・臨床の発展を図った。

●歯学部の第1学年から第4学年までと大学院歯学研究科は、大阪府枚方市の楠葉学舎にて、また、医療保健学部・大学院医療保健学研究科は、枚方市の牧野学舎にて教育研究活動が行われている。さらに、歯学部の第5・6学年の教育活動及び附属病院での診療活動は、大阪市中央区の天満橋学舎にて行われている。

●大学・大学院全体の教学マネジメント組織として「大阪歯科大学協議会」を適宜開催し、IR情報に基づく教育課程の適切性(アクティブ・ラーニングの導入)の検証を行った。この協議会では、「教育の内部質保証」について、2019年11月の文部科学省・中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に基づいた「教学マネジメントの確立」と「学修成果の可視化と情報公表」が必須事項となり、本学においても具体化すべく検討を行った。さらに本学における「内部質保証の方針」「教育研究組織の設置方針」

「学生支援の方針」「教育研究環境の整備の方針」「社会貢献・社会連携の方針」「管理運営の方針」について検討を行った。

●多様な教育体制の展開のため、大阪歯科大学学部等横断カリキュラム検討委員会が2019年9月に設置された。委員会の目的は、本学の全学的な視点や分野・学部等を越えた横断的な視点からのカリキュラム編成を推進するためであり、その審議事項としては、両学部共通の教育目標の設定及び計画に関する事項や、カリキュラムの効果と評価に関する事項となっている。

●2014年度の大学基準協会認証評価(大学評価)時の改善勧告・努力課題への対応について、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。その中で改善勧告については、「大学学則」「大学院学則」及び関係規程の整備をすみやかに行った旨報告した結果、2019年5月9日付で大学基準協会から「改善報告書検討結果」として「今後の改善経過について再度報告を求める事項」は「なし」であった旨通知があった。

一方、努力課題(歯学研究科3件、歯学部1件)については、本学全体として一層の改善改革を行うものである。努力課題(概要)としては、歯学研究科は、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせた教育課程とはいえないこと、科目の配当年次について規定されていないこと、学位審査論文基準について『大学院歯学研究科ハンドブック』への掲載について実行に移すことである。歯学部は、学生の受け入れについて、収容定員に対する在籍学生比率が高いことである。鋭意改善に向けて取り組んでいくものである。

●学校法人関係では、2020年4月1日改正の「私立学校法」を受け、「学校法人大阪歯科大学寄附行為」の改正及び「役員報酬等の基準に関する規程」の制定に向けて取り組むとともに、認証評価に基づいた法人(大学)全体の「中期計画」の策定に鋭意着手しており、2020年度から5カ年の道筋を示すことになっている。

歯学部・歯学研究科

歯学部の教育方針

本学の教育方針は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。したがって、本学の学生は歯科医師たる適性の素質を持ち、本学の教育方針に沿い得るものでなければならない。歯科医師として必要な適性とは、次の三つに要約される。

- 一、能力的な適性 歯科医学の学理と技術を理解し応用できる知能、学力、技能
- 一、人格的な適性 歯科医師としての使命感、社会観、世界観、態度、意志など幅広い人間性

一、身体的な適性 歯科医師としての職務を遂行しうる体力と活動力

以上の、三つの適性はいずれに優劣があるものではなく、どれひとつとして欠かすことのできないものである。本学では6年間の一貫教育を通じて、学生のそれぞれの個性を尊重しながら以上の適性を涵養、発展させ、人間性豊かな歯科医師を養成することを教育の目標としている。

歯学部の教育改革

歯学部においては、教学支援体制の充実を図り、建学の精神である「博愛」と「公益」に合う歯科医療人育成を目指し、様々な取り組みを行った。

1. 入学志願者増加への取り組み

アドミッション・ポリシーのもと、優秀な学生の確保に取り組んだ。

アドミッションセンターは、アドミッションセンター長(副学長・教務部長兼任)と事務職員で構成され、入試委員会による決定を受け、オープンキャンパス、高校・予備校訪問、進学相談会、WEBバナー等の情報メディアを通じた広報活動を積極的に展開した。

オープンキャンパスについては、楠葉学舎で7月、9月にそれぞれ1回、天満橋学舎で8月に1回、合計3回行われ、延べ参加人数は474名であった。楠葉学舎でのプログラムは、本学学生による講演、入試概要説明、実習体験、予備校講師による入試対策講座、キャンパスツアー、個別受験相談会を実施した。さらに、2015年度から始まった本学附属病院を会場としたオープンキャンパスは、通算6回目であり入試概要、予備校講師による特別講演及び院内見学を行い、102名の参加で好評であった。

アドミッションセンター職員による訪問校は332校(高校81校、予備校251校)、訪問地域は、近畿2府4県、四国4県、東京都、埼玉、横浜、静岡、名古屋、広島、岡山、福岡、鹿児島となっている。

また、2020年度入試(2019年度実施)は、第2回目のインターネット出願を実施し、受験生の利便性の向上を図った。

入試科目については、推薦・一般入試において、英語の各種資格・検定試験(注)の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語(英語)」の受験免除制度を昨年度に引き続き実施した。(スコアに応じて80点または90点を付与)

(注) 英語の各種資格・検定試験について

英語資格・検定試験	80点に換算	90点に換算
英検®(CBT含む)	2級	準1級以上
Cambridge English	140以上	160以上
GTEC	1070以上	1190以上

TOEIC®(L&Rのみ)	550以上	700以上
TOEIC®(L&R+S&Wの合計)	790以上	1095以上
TOEFL iBT®	55以上	72以上
TEAP(4技能)	225以上	309以上
TEAP CBT(4技能)	420以上	600以上

・GTECはオフィシャルスコア(検定受験の成績)のみを認める。・TOEIC ITPテスト、TOEIC L&R IPテスト・TOEIC S&W IPテストは対象とはならない。・TOEFL iBT®はMyBest™スコアも認める。・いずれも取得時期は問わない。

大学入試センター試験利用入学試験では、昨年度同様にセンター試験オプション方式<プラス1>を新たに実施した。本学一般入試の得点に、センター試験受験科目の6教科(外国語、数学①・②、国語(近代以降の文章)、理科②、地理歴史、公民)より高得点1(2)科目の得点を合計し、可否を判定するものである。

また、入試の試験場は、昨年度と同様に一般入試(前期日程)において、東京会場(駿台予備学校お茶の水1号館)、名古屋会場(代々木ゼミナール名古屋校)、広島会場(TKPガーデンシティ広島)、福岡会場(代々木ゼミナール福岡校)を設置した。一般入試(後期日程)は、東京、福岡を開設した。

入学試験成績優秀者特待生制度については、その充実を図り、優秀な学生の確保に努めた。一般入試及び大学入試センター試験利用入試においての措置で、概要は以下のとおりである。

[A種(初年度学納金(入学金を除く)免除)
免除額:515万円、2年次以降は授業料全額免除:380万円×5年、対象人数1名、2年次以降は優秀な成績を維持することを条件)

[B種(初年度は学納金(入学金を除く)免除)
免除額:515万円(2年次以降は在学中の学業成績優秀者に対し年間授業料から100万円免除、対象人数15名:B種の対象人数は昨年度25名から15名に減となった。)

2020年度入試における私立歯科大学・歯学部に対する志願者数は全体的な減少傾向であったが、本学への志願者数は順調に推移し、募集人員である128名を充足した。本学の地道な入試広報活動が実を結んだ結果であると考えられる。

2011(平成23)年度(2012年度入試)から実施されている編入学試験では、4名が第2学年へ編入となった。

2. 高大連携の取り組み

香里ヌヴェール学院高等学校1年生22名が6月14日に楠葉学舎に来学し、歯学部の細菌学講座による細菌学実習を体験した。

3. IR(インスティテュート・リサーチ)室の活動

学修成果を可視化するためホームページにIR情報を掲載した。内容としては、次のとおりである。

- 【歯学部・医療保健学部】学生授業評価結果
- 【歯学部】学習実態調査、歯科医師国家試験合格実績、第4学年学習成果

【医療保健学部】学習実態調査、入学前教育の学習成果
また、歯学部において、2018年度卒業生に対するアンケート調査（ホームページに掲載）、過年度の卒業生に対し教育成果に関するアンケート調査、2019年度全学年学習実態調査を実施した。今後、この結果を受けて教育活動の改善に向けて検討を行っていくものである。

また、学校教育法第105条に基づく科目群履修認証制度を活用し受講や他大学（京都文教大学）との相互研修の実施を通じたIR職員の資質向上を行った。

4. 歯学部における特色ある教育の展開

歯学部では、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、建学の精神の具現化に努めた。態度教育科目の「コミュニケーションⅠ～Ⅳ」は、第1学年から第4学年まで横断的に開講した。

その中で、特に「ODU ソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」の中で、第1学年から第4学年までの全学生が、学長及び教職員とともに枚方市の主催する環境美化活動であるアダプトプログラムに登録し、朝8時から楠葉学舎周辺の歩道での清掃及び通行する地域住民の方々に挨拶を行った。学生の皆出席を義務づけ、欠席者には予備日に振り替えて実施し、参加態度はもちろんのこと、総合的に成績評価を行った。2019年4月から、第5・6学年も天満橋学舎周辺の清掃活動を開始した。

また、新しい教育の形であるアクティブ・ラーニング科目について、その開講比率は学年全体で52.9%に及んでいる。

第1学年次の「コミュニケーションⅠ」は、「履修指導」「ホームルーム」「学長と語ろう」「The 3rd Forum for International Students（略称 FIS: アジア5大学と本学学生、大学院生の研究発表を全て英語で行うフォーラム）」等の受講を通じて自学自習や社会人としての健全な生活態度の涵養を目指している。

「人権論（1単位）」「社会福祉施設体験学習（2単位）」「早期臨床体験学習（1.5単位）」は、引き続き学生の態度教育の柱として十分機能している。「現代教養」（3単位）では、マナー指導、学習態度の確立、プレゼンテーション能力、オナーズ教育などを通して、歯科医師として必要な素養と思考力、判断力、表現力など様々な状況に臨機応変に対応、解決できる能力を養うことを目的にしている。その中では、漢字検定準2級受検やTOEICの受験を実施した。情報リテラシー教育としては、「情報科学」（2単位）を必修としており、その中でパソコンのスキルとともに情報化社会に特有の危険性と対処法を学んでいる。

第2学年次の「態度教育」である「コミュニケーションⅡ」は、ホームルーム、解剖体慰霊祭、実験動物慰霊祭、ODU ソーシャルコミュニティ、FISを通じ、医療従事者として、ふさわしい態度、意識を身につけることを目的としている。また、

「問題解決基盤」は、アクティブ・ラーニング科目の一つであり、与えられた課題について調査・研究し、グループ発表や討議を行うものである。

第3学年次の「ゼミナール」（2単位）、「研究チャレンジ」（2単位）は、演習科目として学生を研究室に配属して行うものである。特に「研究チャレンジ」は、研究マインドを学生に涵養することを目的にしており、リサーチリテラシーを涵養し、学生が参加しているSCRIP（スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム）もしくは専門学術大会での成果発表に向けて取り組んだ。

第4学年次では、全国共用試験歯学系 CBT、OSCE を臨床実習へ至る前の重要な試験として、指導体制の強化を行い成績の向上を図った。特に成績下位者には合宿形式の重点的学習を行い弱点の強化を行った。「臨床系歯科医学教育」「総合医学系教育」「歯科医学統合講義」を実施した。なお、DESS モバイルは、第4、5、6学年への自学自習のツールとして活用している。

第5学年においては、臨床実習必修を整え学生に配付し、学修の徹底を図った。患者中心型診療システム（POS: Patient Oriented System）に基づいて検査、診断、治療計画にいたる情報収集と基本的歯科診療技術の訓練を行った。2019年4月に制定されたスチューデントデンティスト認定制度に、第5学年全員が認定を受け、各自に「Student Dentist 認定証」を交付し、臨床実習時には携行することとなった。診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアルは、12月5日に「臨床実地試験」が本学附属病院で、また12月14日に「一斉技能試験」が楠葉学舎でそれぞれ実施され、第5学年全員が受験した。

本学のオナーズ教育の一環としての「グローバル活躍プログラム」を実施した。これは、近年要求される英語での論文発表や、短期海外研修、SCRIP へのエントリーなどグローバルに活躍できる人材の育成を目指し、英会話能力向上のため英会話業者のレッスン料をサポートするもので、2019年度は14名が取り組んだ（2018年度は11名）。

第6学年は、国家試験に対応するための「総括講義」と「特別講義」や学士試験と本学指定の模擬試験により、成績の向上に努めきめ細かな指導（特別アドバイザーによる弱点の克服方法のフィードバック、ティーチング・アシスタント（TA）による学修補助等）を行った結果、第113回歯科医師国家試験の合格率は、新卒者が85.3%となり全国平均を超えた。なお、本学既卒者についても従来から丁寧な指導を行っている。

<歯科医師国家試験 新卒者合格率>

区分	合格者数/受験数	合格率 全国平均
2020（令和2）年3月	第113回 85.3%（58人/68人）	79.3%
2019（平成31）年3月	第112回 80.4%（78人/97人）	79.4%
2018（平成30）年3月	第111回 82.2%（74人/90人）	77.9%
2017（平成29）年3月	第110回 91.4%（74人/81人）	76.9%

5. 学習環境の整備

各学年について、教員が楠葉学舎及び天満橋学舎の研究室に在室し、学生の質問や相談に応じるオフィスアワーを設けた。

教務関連機器については、歯科技工用モーター、楠葉学舎の第1～第4講義室 AV 設備の更新を実施した。

6. 学生生活指導体制

各学年の指導教授、助言教員、特別アドバイザー、教育アドバイザー、大学院生の TA により日々指導が行われている。「学生カルテ」を活用するとともに、学生には「学習ポートフォリオ」の作成を通じて自己成長を確認させ、適切な助言を行った。特に「育み教育」「寄り添い教育」による支援が必要な学生については、徹底した個人指導を行った。

「ODU ソーシャルコミュニティ」は、態度教育科目の「コミュニケーション」であり、第1学年から第4学年までの全学生の参加が必須である。

朝の挨拶運動は、2015年度から教授を含めた全ての教員が輪番制で、楠葉学舎正門前に立ち、登学する学生に対して行っており、今年度も人間関係の基本である挨拶の重要性を認識させるとともに、学生と教員の信頼関係の構築にも役立った。

学生部委員会では、『学生生活ハンドブック』を作成して全学年に配付し、ホームルームの際にその活用を促した。

近年、若年層への薬物蔓延が深刻化していることを踏まえ、5月23日に第1学年を対象として枚方少年サポートセンターから講師を招き、薬物の危険性について「薬物乱用防止講演会」を開催した。

地震・災害時等の安否確認システム（ANPIC）を2018年12月から導入し、全体的に学生・教職員の状況をリアルタイムで把握することが可能になった。11月29日の楠葉学舎における防災・防火訓練は、歯学部第3学年の参加のもと上記システムを利用して実施された。

健康管理については、「医務室」に平日は看護師1名が、また、毎週火・金曜日は医師（非常勤）が在室し学生・教職員への対応を行った。また、楠葉学舎と天満橋学舎の「学生相談室」に専門の臨床心理士（非常勤）を置き、学生の抱える問題に対応した。定期的に学生部長、教務学生課長、臨床心理士及び看護師により、相談内容について共有を図り、解決に向けての協議を行った。

高等教育の修学支援事業については、歯学部・医療保健学

部において2020年度からの実施に支障を来さないように関係規程（大阪歯科大学高等教育の修学支援制度による減免規程：2020年1月1日施行）の整備を行った。

7. 学生スポーツの振興

全日本歯科学学生総合体育大会は、国公立歯科大学・歯学部29校の体育系クラブが参加するスポーツ祭典である。この第51回大会（当番校：福岡歯科大学）が7月29日から8月10日まで開催され、本学は総合第5位であった。

8. 令和元年度大学歯学部卒業式並びに大学院歯学研究科学位認証式について

標記については、2020年3月6日に挙行を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行拡大に伴い、やむなく中止とした。なお、卒業生・修了者への卒業証書と学位記を従来の式の規模を縮小し、3月13日に川添理事長・学長から授与を行った。

大学院歯学研究科の改革

大阪歯科大学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学・口腔科学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。

そして、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。

1. 大学院生の入学者増加策等について

2020年度入試は、定員30名の中、40名の入学者であった。このうち、外国人留学生入学者の13名をはじめ、2016年度から実施した社会人特別入試での入学者は1名であった。

また、歯科基礎系専攻への志望者を確保する観点から、授業料の半額免除制度を継続し、この制度を利用して13名の基礎系志願者が入学した。

2. 海外学会発表助成及び学術研究奨励助成金について

大学院生の海外学会発表助成申請は、2019年度は5件あり、これに対して29万3500円の助成を行った。さらに大学院生の研究12件に対しても学術研究奨励助成金として総額で250万円の助成を行った。

3. 研究不正行為防止、公的研究費の管理について

文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会確認後に同省に提出している。学内規程は、「大阪歯科大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」「大阪歯科大学における研究データ等の保管等に関する申し合わせ」を運用し、その徹底を図った。研究倫理教育として、これま

で講義形式で「研究倫理講習会」を行っていたが、医の倫理委員会の「人を対象とする医学系研究に関わる講習会」を一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のeラーニングに変更したことに伴い、研究倫理教育もAPRINのeラーニングを利用することとした。また、大学院生には第1学年を対象に「研究倫理」の講義3コマ（1コマ90分）を行ったうえでeラーニングを受講することとした。

公的研究費についての管理については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づき、毎年度チェックリストを、主任教授会、監事の確認後に同省へ提出している。

4. 大学基準協会認証評価（大学評価）時の改善勧告・努力課題への対応

2014(平成26)年度の上記大学評価において、改善勧告1件、努力課題として9件の改善報告を求められた。改善報告を付された単位の計算方法が規則等に定められていなかったことについては、すみやかに「大学院学則」を改正し、さらに努力課題について見直しを実施する旨の改善報告を行った。

努力課題（概要）としては、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせた教育課程とはいえないこと、科目の配当年次について規定されていないこと、学位審査論文基準について『大学院歯学研究科ハンドブック』への掲載について実行に移すことであり、現在鋭意、大学院委員会において検討を行っている。

5. ティーチング・アシスタント、ポスト・ドクトラルフェロー採用について

ティーチング・アシスタントは、学部学生に対する教育補助として9名を採用し、資質向上を図るための研修を7月1日と9月12日に実施した。また、ポスト・ドクトラルフェローは、2名を採用した。

医療保健学部・医療保健学研究科

1. 設置の経緯・趣旨

大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科・口腔工学科は、超高齢社会が必要とする優れた歯科医療人を養成し、口腔の健康を通じて国民が健康で安心して暮らせる社会づくりに貢献することを設置の趣旨とし、アドミッション・ポリシーを策定した。

医療保健学部が求める学生は、「思いやりの心を持ち、人と温かく接して協調性とコミュニケーション能力に優れ、医療と福祉に高い関心と学習意欲を持ち、社会に貢献できる医療人となるための絶え間ない学習と努力ができる者」とする。各学科においてのアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

【口腔保健学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、歯科医療の発展のために独創性がある発想を持つことが必要であり、口腔保健学科として次のような学生を求める。

- ・口腔保健学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」及び「生物」について高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人
- ・口腔の衛生管理に強い関心がある人

【口腔工学科】

口腔の健康に寄与するためには、自己管理ができることが必要である。また、多職種連携のためには協調性が重要である。さらに、口腔装置の製作技術に優れ発展させるためには科学技術への関心と開発への興味が必要であり、口腔工学科として次のような学生を求める。

- ・口腔工学を学ぶための十分な基礎学力を有する人
特に「外国語（英語）」、「数学」、「国語」、「生物」、「物理」及び「化学」について、高等学校までに履修した、教科書レベルの基礎的な知識を有する人
- ・既存の概念にとらわれず、知識や技術への旺盛な探究心を持ち、向上に取り組む志を持つ人
- ・科学技術に関心がある人
- ・他者の話を聞き、協調して問題に取り組める人
- ・自己の健康管理ができる人
- ・人の健康の維持と増進に貢献する意欲がある人

2. 学生の受け入れ

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、2019年度のオープンキャンパスを実施した。

【2019年】

第1回	3月17日(日)	牧野学舎	96名
第2回	5月26日(日)	牧野学舎	127名
第3回	7月14日(日)	牧野学舎	191名(入試対策講座開催)
第4回	8月13日(火)	天満橋学舎	137名(附属病院見学)
第5回	8月25日(日)	牧野学舎	179名
第6回	9月23日(月・祝)	牧野学舎	130名(入試対策講座開催)

以上6回開催し、参加延べ人数は、高校生・保護者を含め860名であった。(参考:昨年2018年は、7回開催し、参加延べ人数は646名。)

その他、大阪府・京都府・兵庫県を中心に延べ333校の高校訪問、近畿・中四国を中心に72会場での進学相談会、大阪府・京都府・兵庫県を中心に高等学校62校の入試ガイダンスに参加した。

高等学校の進路指導教諭への入試説明会の開催、さらに進学情報ウェブサイトへの入試情報の掲載、広報チラシの近畿圏の延べ1000校を超える高等学校への送付など積極的に広報活動を展開した。

そして、2020年度医療保健学部入学試験は、入試科目については、一般入試において、歯学部と同様に英語の各種資格・検定試験の結果に基づいて、一定の基準を満たしている場合は、「外国語（英語）」の受験免除制度を実施した。

また、入試の試験場は、一般入試（前期日程）において、昨年度に引き続き、東京会場（TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター）、広島会場（TKPガーデンシティ広島）を設置した。

一般入学試験及び大学入試センター試験利用入学試験において、成績優秀な受験者は、学費の免除措置を実施した。

・口腔保健学科

A種	初年度: 入学金を除く学費免除 1年次105万円、2年次以降学費免除105万円×3年 4年間免除総額420万円、対象者1名
B種	初年度: 入学金を除く学費免除 1年次52.5万円 対象者4名

・口腔工学科

A種	初年度: 入学金を除く学費免除 1年次105万円、2年次以降学費免除105万円×3年 4年間免除総額420万円、対象者1名
B種	初年度: 入学金を除く学費免除 1年次52.5万円 対象者6名

昨年度同様、2020年度入学者で下記に該当する対象者全員の学納金を減免免除することとした。

1) 近畿圏以外在住の入学者

三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山以外の在住者は、初年度の前期・後期授業料より12万円、合計24万円を本来の授業料より減免する。

2) 沖縄県在住の入学者

沖縄県の在住者は、1)の授業料を減免の上、更に入学金の20万円、合計44万円を本来の学費より減免する。

その他、海外協定校である四川大学華西口腔医学院との間に、ダブルディグリープログラムを締結した。

以上、積極的な入試広報活動の結果、医療保健学部の4期目の入学者数は、口腔保健学科74名、口腔工学科は28名(ダブルディグリープログラム1名含む)となった。

3. 学修への取り組み

医療保健学部では、前記のアドミッション・ポリシーのほか、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定め、様々な課題解決のため積極的に取り組んだ。

基礎科目として、「キャリア教育」、「教養教育」、「情報教育」、「語学教育」、専門基礎科目として「基礎系口腔科学」、「社会系口腔科学」、専門科目として「臨床系専門教育」、「総合医学教育」、「臨床教育」、「総括教育」の125単位が4年間の要卒単位数である。

歯学部と同様に「ODUソーシャルコミュニティ」と「早期臨床体験学習」も実施している。

「ODUソーシャルコミュニティ」では、医療人としてのボランティア精神を涵養するため、第1、2学年学生と教職員が牧野駅周辺の清掃活動及び地域住民の方々へ朝の挨拶を行った。また、本学附属病院での「早期臨床体験学習」は、第1学年次の基礎科目のキャリア教育として、卒業後の歯科技工士、歯科衛生士としての役割の一つである多職種連携へのモチベーションを高めるために大いに役立った。

口腔工学科においては、天満橋学舎の「デジタル加工室」において、2019年度から第3学年を対象に「CAD/CAMシステム」による教育を行っている。

全学生へのタブレットPCの貸与を生かし、学修支援ポータルサイト「A-portal」による最新の授業時間割、試験関係のお知らせの配信、授業用SNS「melly」を使ったタイムラインによる科目担当教員からの注意事項や、学生からの質問受付、課題提出が容易に行えるシステムを最大限に活用した。

なお、アクティブ・ラーニング科目について、その開講比率は42.8%となっている。

学生生活の指導体制として学科・学年別に「指導教授」と「助言教員」が置かれ、学生の学修状況に応じたアドバイスや指導を行った。また、学生支援室を置き、学業だけでなく生活面、健康面など学生生活全般にわたったきめ細かな支援を行った。

オフィスアワーを設けて、学生からの授業に関する質問を受け付ける体制を整備したほか、学生が快適に学習するために、コンピュータ演習室、図書館牧野分室にそれぞれ自習スペースを設け、試験期間中の休日、学生ホールを自習室として開放した。

就職、進学に関する支援を行うキャリアセンターでは、就業体験事業、総合病院など医療機関見学会、企業等から講師を招いての業界研究セミナー、その他ESセミナー、小論文セミナー、グループディスカッションセミナーなど各種セミナーを実施し、第1期生の就職活動が本格化することを踏まえ、本学に直接届く求人票を検索・閲覧できる求人検索NAVIの運用を開始した。

4. 学部独自の取り組み

1) 第2回国際口腔保健工学コンソーシアムへの参加

2019年11月、口腔工学科2年生1名が、台北医学大学で開催された『2nd Meeting of International Oral Health Engineering Consortium』において、「Towards Oral Health Engineer」というタイトルで発表を行った。

2) 社会連携活動

2019年6月には、枚方市保健センター「ウォーキングイベント」に学部学生及び教員がボランティアとして参加し、災害時の歯科グッズの備えや歯磨き・お口のケアの仕方などの資料配布や説明を行い、7月には、枚方市内の小学生を招いての第2回「歯科大わくわくキッズセミナー@まきの」を開催するなど、社会連携に取り組んだ。

3) 第3回、第4回生涯学習セミナー

第3回生涯学習セミナーは、外部講師を招いて、2019年5月18日、ドイツの歯科技工士マイスターの資格を持つ大川友成氏が「患者さんの笑顔がみえる歯科技工士を目指して～ドイツの最新歯科事情～」をテーマに講演、第4回は12月14日、医療法人敬英会・社会福祉法人敬英福祉会の光山誠理事長が「超高齢社会に求められる歯科医療人材について～地域包括ケアの実現に向けて～」をテーマに講演を行った。

5. 大学院医療保健学研究科

医療保健学部を基礎とする大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）が、2017年8月に設置認可となった。同研究科は、高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人、並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。修業年限は2年、入学定員は10名である。入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めて学生募集活動を行った結果、2020年度入試では、定員10名を確保した。

口腔科学専攻（修士課程）の教育課程は、基礎科目、専門科目、専門研究の3つの科目群にカリキュラムを分類するとともに7つの研究分野を設けて行われている。2020年3月の修士（口腔科学）の学位取得者数は10名であった。

一方、大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）は、2019年11月19日付で文部科学大臣より無事設置認可を受けた。教育課程は、共通科目、専門科目、研究科目の3つの科目群にカリキュラムを分類し、体系的に教育を行うこととなっている。歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力、併せて教育研究機関における管理能力を持つことを目標としている。修業年限は3年であり、速やかに学生募集活動を行った結果、2020年度入試では、入学定

員3名のところ9名の入学者を確保した。

研究に関すること

1. 科学研究費の獲得に向けた取り組み

2020年度文部科学省科学研究費助成事業への申請及び採択件数の増加促進のための説明会を9月24日、25日の2回開催した。

2. 知的財産関係

2019年度は、出願済み特許の審査請求1件であった。

3. 医の倫理委員会（委員長：附属病院長）関係

2019年度より「人を対象とする医学系研究に係わる教育」として、APRIN eラーニングを導入し、教職員の受講希望者に受講させた。

また、大学院生については、4月9日のオリエンテーションにて研究倫理の講義を実施し、その後、APRIN eラーニングの教育も受講させ、歯学部生の内、SCRIPの研究を実施する学生については、APRIN eラーニングの内容に高度な内容が含まれるため、従来どおり講習会を4月17日、11月1日に実施した。

4. 実験安全管理について

2019年6月、8月には「組換えDNA実験安全講習会」を開催した。

5. 大阪歯科大学学術リポジトリの開設と教育研究業績の公開について

文部科学省が推進する学術情報の公開については、「大阪歯科大学学術リポジトリ」を立ち上げ、内容の充実に努めている。リポジトリには、学位論文内容要旨及び審査結果の要旨は学位授与後3ヶ月以内に、また、学位論文全文は、学位授与後1年以内に掲載した。

毎年度『大阪歯科大学教育研究論文目録』を刊行し、その内容を本学ホームページ（大学トップ>大阪歯科大学について>研究室紹介）に掲載した。

6. 3大学（関西医科大学、摂南大学、本学）医歯薬連携協議会について

2019年3月に「医歯薬に関する学術・研究の連携と協力に関する協定」を締結し2019年5月以降、標記の協議会を3大学輪番制で開催し、共同研究課題について検討を行った。

外部資金による教育研究等の進展

2019年度の文部科学省・日本学術振興会の科学研究費を含む外部資金の獲得状況は以下のとおりであった。

○2019年度科学研究費補助金（新規+継続）	
基盤研究（B）	2件
基盤研究（C）	37件
若手研究（B）・若手研究	18件
研究活動スタート支援	2件
合計	59件

補助金交付額	直接経費 6880万円
	間接経費 2064万円
合計	8944万円

○労災疾病臨床研究補助金事業（厚生労働省）(分担)
1件 50万円

○国際科学技術共同研究推進事業 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）
(国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）) (分担)
1件
直接経費 50万円
間接経費 15万円
合計 65万円

○平成30年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業実施補助金
(国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）)
258万 5835円

○平成30年度私立大学等経常費補助金（日本私立学校振興・共済事業団）
3億 2093万円（一般補助+*特別補助）
（うち特別補助は 3810万 9000円）
*特別補助の項目

- ・大学等の国際交流の基盤整備（海外からの学生の受入れ、学生の海外派遣、教職員の海外派遣、大学等の教育研究環境の国際化）
- ・大学院等の機能の高度化（大学院における研究の充実）、研究施設運営支援（中央歯学研究所）
- ・授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実（卓越した学生に対する授業料減免等）
- ・私立大学等改革総合支援事業（タイプ1特色ある教育の展開）

○令和元年度臨床研修費等補助金（歯科医師）(厚生労働省)
7572万 7000円

○令和元年度医療関係者研修費等補助金（歯科医師臨床研修指導医講習会事業（臨床研修活性化推進特別事業）(厚生労働省)
307万円

○令和元年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業委託費（厚生労働省）
2065万 8001円

国際交流

本学は、従来からグローバル人材の育成に積極的に取り組んでいる。2019年度も下記の日程で学生・教員の活発な交流が行われた。

なお、オープンキャンパスにおいては、「大阪歯科大学の学生国際交流力」という小冊子を配布しており、その際に短期海外派遣に参加した学生が講演を行っている。

●海外協定校等との交流

【受入】

<期間：2019年7月21日～7月27日>

上海交通大学口腔医学院（学生2名、教員1名）、南方医科大学口腔医学院（学生4名、教員1名）、四川大学華西口腔医学院（学生4名、教員1名）、北京大学口腔医学院（学生4名、教員1名）、台北医学大学口腔医学院（学生2名、教員2名）、山西医科大学口腔医学院（学生5名、教員1名）、昆明医科大学口腔医学院（学生4名）、遵义医科大学（学生3名、教員1名）、コロンビア大学歯学部（学生1名）が来学し、特別講義（英語での講義）、天満橋学舎附属病院、本学OBの運営する歯科医院を見学した。

なお、期間中の2019年7月23日には、The 3rd Forum for International Studentsが本学楠葉学舎において開催された。これは上記の世界8大学（遵义医科大学を除く）と本学歯学部学生、大学院生及び医療保健学部学生の研究発表を全て英語で行うフォーラムである。

世界9大学学生・教員、本学歯学部第1学年学生、医療保健学部学生、大学院生、本学教職員合わせて530名が出席した。

（上記受入研修は、一部日本・アジア青少年サイエンス交流事業の助成金を使用している。）

<期間：2019年12月9日～13日>

シドニー大学歯学部学生3名が来学した。本学教員による特別講義のほか、本学OBの運営する歯科医院、歯科材料企業の見学が行われた。

【派遣】

<期間：2019年6月30日～7月12日>

四川大学華西口腔医学院
参加学生3名（3年3名）

<期間：2019年8月17日～26日>

シドニー大学歯学部
参加学生6名（4年1名、3年4名、1年1名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>

北京大学口腔医学院
参加学生4名（4年1名、3年2名、2年1名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>
台北医学大学口腔医学院
参加学生3名（1年3名）、引率教員1名

<期間：2019年8月17日～23日>
昆明医科大学口腔医学院
参加学生4名（2年1名、1年3名）、引率教員1名、
同行大学院生1名

<期間：2020年3月7日～17日>
コロンビア大学歯学部
新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止

<期間：2020年3月22日～29日>
キングス・カレッジ・ロンドン歯学部
新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止

【院長等の来学】

南方医科大学口腔医学院 (期間:2019年4月5日)	教員5名
山西医科大学口腔医学院 (期間:2019年4月5日)	教員4名
呼和浩特市口腔医院 (期間:2019年4月5日)	教員2名
中国協定交校・友好大学・口腔医院 (期間:2019年9月16日～23日)	教員28名
キングス・カレッジ・ロンドン (期間:2019年11月19日)	歯学部長1名
四川大学華西口腔医学院 (期間:2019年11月29日)	教員3名
国際口腔矯正セミナー (期間:2019年12月1日～8日)	教員等17名
四川省日本訪問団セミナー (期間:2019年12月20日)	教員等6名

【学長等の訪問】(派遣)

山西医科大学創立100周年記念式典 (期間:2019年9月3日～8日)	教員1名
--	------

●中国・武漢大学口腔医院へ支援物資を提供

中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス感染症の被害が拡大したため、1月31日、川添理事長・学長はサージカルマスク1万枚およびサージカルガウン150着の支援物資を武漢大学口腔医院へ提供した。

また、一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息する願いを込め、その支援物資の段ボール全てに、「武漢加油！（がんばれ）中国加油！（がんばれ）」の力強い激励の理事長・学長メッセージを添え、発送作業は、方教授を始め、国際交流事業部及び中国留学生学友会で終わった。

社会連携・社会貢献

●第27回大阪歯科大学公開講座

本学の恒例事業となっている公開講座は、「アンチエイジング（抗加齢）医学・歯学-長生きする為のひけつ」をメインテーマに、まず天満橋講座として8月24日（土）、31日（土）の2日間、本学創立100周年記念館にて開催され、延べ400名が受講した。

2月期の枚方講座（健康医療都市ひらかたコンソーシアム連携事業）については、2月15日（土）、22日（土）の2日間、本学楠葉学舎にて開催の予定であったが、15日のみ開催となり、22日は新型コロナウイルス感染症の全国的流行のため、中止となった。

「歯科・口腔領域のアンチエイジング:歯から全身へ、全身から歯へ」

講師: 米井 嘉一教授 (同志社大学生命医学部アンチエイジングリサーチセンター)	8月24日 受講者数:201名
	2020年2月15日 受講者数:213名

「超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス」

講師: 志水 秀郎教授 (本学歯学部内科学講座)	8月31日 受講者数:199名
--------------------------	-----------------

●枚方市との連携事業への参画

本学と枚方市は、今日まで学公連携を深めてきた。その中であって2019年度には、枚方市民会館の閉鎖に伴い、各種イベントの開催にあたり会場として楠葉学舎講堂を提供し、一層地域に開かれた大学として貢献した。

また、枚方市所在の5大学との地域連携を図るため設置されている「学園都市ひらかた推進協議会」の下記の事業にも積極的に参画した。

【こども大学探検隊】(2019年10月26日)

枚方市内在住・在学の小学生（小学4年生～6年生）24名が楠葉学舎に来学し、本学学生有志が運営スタッフとなり、「歯に関するミニ講義」「指の模型作り」等を体験した。（楠葉祭（文化祭）と同時開催）

【ひらかた市民大学】(2019年11月9日)

特色ある4大学の専門的な知識・情報を学べるもので、輪番制で開催された。

本学は、楠葉学舎3号館・大学院講義室において、内科学講座教員が「超高齢化時代のアンチエイジング・サイエンス」をテーマに講演を行った。

枚方市が推進するもうひとつの連携事業である「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」については、本学は、公開講座と附属病院医師による「健康医療キャラバン事業」に参画

している。6月11日に附属病院総合診療科医師が、大阪府立むらの高等支援学校で、「歯磨き・口腔ケアに関する講座」を開講し、1年生32人が受講し好評を博した。

枚方市の審議会・委員会（環境審議会、健康増進計画審議会、保健所運営委員会）へ本学から教員を派遣し、市政に協力している。

●枚方産学公連携プラットフォーム

四大学（関西医科大学、摂南大学、大阪工業大学、本学）、枚方市、北大阪商工会議所、(株)資生堂ジャパン、(株)Morondoとの間で枚方産学公連携プラットフォームに関する協定を締結した。枚方市の重点課題の克服に向けた方策の検討、四大学共同での入試説明会、地域の高等教育の発展に関するシンポジウムの開催、連携団体の共同事業の企画立案、外部資金の獲得に向けた検討を行った。

【主な事業】

- ①「共同FD・SD事業」（第1回7月5日:本学担当）
職場が生きる、人が育つ学びの支援:経験学習の観点から
- ②「枚方4大学合同入試説明会」（7月13日:摂南大学担当）
受験生、高校1、2年生、保護者を対象として、枚方市立メセナひらかた会館にて開催された。
- ③「子ども夢発見 大学と遊ぼう!」(7月20日:大阪工業大学担当)
本学楠葉学舎において、各大学の持つ特色ある教育をアピールするものであり、子どもたちだけでなく、保護者も一緒に楽しめるプログラムを行った。（本学は、解剖学講座による「歯の模型を使った授業」を行った。）
- ④「4大学教職員を対象とした避難所運営訓練」（8月7日:摂南大学担当）
枚方市の防災対策にかかる官学合同会議を行い、続いて避難所運営ゲーム（HUG訓練）を行った。
- ⑤「健康沿線トークカフェ」（8月10日:関西医科大学担当）
関西医科大学において、健康寿命を延ばすために何が必要かを医歯薬系学部の教員がわかりやすく講演し、聴衆とトークセッションを行った。（本学は、有歯補綴咬合学講座による「ライフステージにあわせた虫歯予防」と題して講演を行った。）

⑥「市民公開講座 - 認知症の予防と治療のポイント -」（8月31日:本学会場校）

本学楠葉学舎において、認知症研究の権威である藤野武彦氏（九州大学名誉教授・医学博士）を招き、認知症の改善・予防の鍵であるプラズマローゲンの効果の最新研究について講演が行われた。当日の座長は、本学の川添理事長・学

長が務めた。（上記のほか、7月に「資生堂参画によるママさんのスキンケア講座」（摂南大学担当）、9月に「関西医大の消化器がん治療最前線～クラウドファンディングと臨床研究」（関西医科大学担当）、10月に「身体1つでできる軽運動のすすめ」（大阪工業大学担当）が開催された。）

⑦「枚方4大学学園祭スタンプラリー」（10月～11月:摂南大学担当）

[中高生を対象とした講義]（10月26日～27日）
楠葉学舎において、本学細菌学講座により『口に棲んでいる細菌を集めてみよう - 顕微鏡で見る口の中の細菌 -』をテーマに講義が行われた。

⑧「ひらかた未来創造事業」(10月～2020年3月:本学担当)

四大学の学生による枚方市の未来について「想像」し、学生目線のまちづくりのための提言を行うもので、テーマを「18歳から26歳未満の有権者投票率」をいかに高めるかについて提言をまとめる事業である。本学楠葉学舎を会場に討議が行われた。現在そのとりまとめ段階である。

附置施設の活動

【図書館】

本学図書館は、楠葉学舎に本館、天満橋学舎、牧野学舎に分室を置き、利用サービスの充実を図った。教育研究活動及び学生の自学自習のために必要な図書、学術雑誌、電子媒体を備えた。

<2019年度>	
・蔵書冊数	182,549冊
・年間受入資料冊数	2,120冊
・年間払出資料冊数	2,009冊
・雑誌所蔵種類数(冊子体)	2,210種類
・電子ジャーナル種類数(購入のみ)	5,243種類

楠葉学舎本館、天満橋分室において、学生・大学院生等の利便性を考え、試験期等の期間を定めて休日開館を行った。

学術情報検索データベースについては、医学中央雑誌Web版等のほかに、2019年4月から学術ジャーナル評価データベース（Journal Citation Reports (JCR)）を導入した（検索回数1,156）。さらに2020年1月から国立国会図書館デジタルコレクションの利用が可能となった。

学内利用者向けオーダーメイド講習会（図書館職員によるカスタム講習会）を4回開催した（2019年8月13日、9月17日、9月20日、2020年2月27日）。

設備の更新としては、楠葉学舎本館研修室4、グループ学習室のガラス張りへの変更、天満橋分室に雑誌書架、閲覧机・椅子、ブックポスト、磁気抜き機を設置、カウンター・閲覧席付近の照明のLED化工事を行った。

【中央歯学研究所】

口腔科学分野に必要な10の実験施設と中央材料室があり、単独の講座・教室で維持することがむずかしい実験機器を多数設置し、本学の研究の中核施設としての役割を担っている。管理運営については、基礎・臨床系教授、各実験施設長等で構成される中央歯学研究所委員会が設置され、適正な実験の推進について検討している。なお、各施設を利用した研究業績については、毎年刊行している『大阪歯科大学中央歯学研究所報』に掲載している。

教育研究用機器備品として、Bio-Plex200 ベーシックシステム、磁気刺激装置マグスティム 200 スクエア、超純水製造装置アリウム mini plus UV 等を購入し使用を開始した。

中央歯学研究所講演会を7月10日、10月9日、12月18日、2020年2月26日の合計4回開催した。講師は、本学教員が担当である。

- ・第1回：2019年7月10日（水）16:00～17:00
演題：「細胞を利用した歯周組織再生」
- ・第2回：2019年10月9日（水）17:00～18:00
演題：「睡眠時無呼吸症候群の診断と治療における医科歯科連携」
- ・第3回：2019年12月18日（水）17:00～18:00
演題：「どう考えますか？」
- ・第4回：2020年2月26日（水）17:00～18:00
演題：「高齢者の口腔機能低下とオーラルマネジメント」

【教育情報センター】

本学全体におけるネットワーク機器更新・交換、ソフトウェアのバージョンアップ、既存インフラの維持及び運用管理を行った。

ODUnet（大学系システム、病院系システム）の運用管理のほか、学内ホームページには、頻りにセキュリティ情報を発信し、利用者への注意を喚起した。

私立大学情報教育協会の会員校として、本学教員が委員会運営に参画するとともに、協会の調査研究事業や各種研修会へ積極的に参加し、日進月歩で変化する情報教育の状況を把握し、教育改善に資する情報提供に努めた。

2019年度は、以下のソフトウェア・ネットワーク機器について更新を行った。

- ・マイクロソフト School Agreement
- ・Client/Server Suite（セキュリティ対策ソフト）
- ・テレビ会議システム（シスコ社製 Web-EX）
- ・ウィルスメール対策装置
（パロアルトネットワークス社製の PA-800 シリーズ）
- ・学内ホームページ・施設予約システム
- ・プロキシサーバ
- ・学内ファイアウォール

教員力の向上

1. 教員の資質向上への取り組み

教員の資質向上への取り組みとしてのファカルティ・ディベロップメント（FD）セミナーについては、下記の内容で外部講師を招聘するなどし、合計11回開催した。

第1回：4月22日（月）17:00～18:30

テーマ：2019年度歯学系 CBT 問題公募要領と問題作成のポイント
講師：本学教員2名（前田 本学教授、梅田 本学教授）
出席者数：160名

第2回：5月20日（月）17:00～18:30

テーマ：新教育研究棟における兵庫医科大学の新たな教育の取組
講師：鈴木敬一郎 教授（兵庫医科大学副学長（学部教育・内部質保証担当）医療人育成研修センター長）
出席者数：173名

第3回：5月24日（金）17:00～18:30

テーマ：CBT 問題作成について
講師：須田直人 教授（明海大学）
出席者数：138名

第4回：5月25日（土）9:30～16:30

テーマ：CBT 問題作成について（ワークショップ）
講師：須田直人 教授（明海大学）／森田学 教授（岡山大学）
出席者数：33名

第5回：5月27日（月）17:00～18:30

テーマ：「スマホ漬け」が招く若者の危機
講師：石川結貴氏（作家／ジャーナリスト）
出席者数：168名

第6回：6月14日（金）17:00～18:30

テーマ：アセスメント・ポリシー作成の必要性、学修成果の測定を客観的に行うために
講師：田中正弘 准教授（筑波大学）
出席者数：144名

第7回：7月5日（金）15:00～16:30

テーマ：職場が生きる、人が育つ学びの支援：経験学習の観点から
＜枚方産学公連携プラットフォーム（共同FD／SD事業）①＞
講師：松尾睦 教授（北海道大学）
出席者数：76名

第8回：7月30日（火）17:00～18:30

テーマ：学生教育指導や成績向上に向けて今どきの学生に接する際に心理学的に気を付けるべきことについて
講師：森岡正芳 教授（立命館大学）
出席者数：170名

第9回：8月27日（火）17:00～18:30

テーマ：目標達成のためのメンタルトレーニング
講師：白石豊 教授（朝日大学）
出席者数：156名

第10回：9月27日（金）15:30～17:00

テーマ：データ・サイエンス教育について
＜臨床歯科医学を例として＞
講師：今井 本学副学長
出席者数：42名

第11回：9月30日（月）17:00～18:30

テーマ：教育の質の向上につながるティーチング・ポートフォリオ
講師：北野健一 教授（大阪府立大学工業高等専門学校）
出席者数：160名

第12回：2020年3月24日（火）17:00～

テーマ：認知症サポーターとしての活動
＜新型コロナウイルス感染症の感染防止のため延期＞

2. 教員任用関係諸規程の改正

歯学部・医療保健学部教員の研究業績向上を図るため「教員候補者資格審査に関する申し合わせ」を2020年1月23日付で改正した。

内容は、以下のとおりである。

- ・臨床系診療分野及び附属病院診療科の歯学部専任教授及び准教授について
「博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有すること。」
- ・医療保健学部の教授、准教授及び講師について
「応募時の直近年度において文部科学省・日本学術振興会等の科学研究費補助金に申請していること。ただし、本学以外からの候補者は、この限りではない。」

3. 教員評価の実施について

教員評価は、「大阪歯科大学教員評価実施規程」に基づいて実施した。評価領域は、教育活動、研究活動、臨床活動、学内・社会活動の4領域であり、教員の諸活動の活性化と高度化や、任期制教員の業績、能力判定等の資料、教員に対する諸活動の改善及び指導に活用している。

授業評価については、授業担当者に授業改善策の提出を義務付けている。なお、「IR情報」として、「授業評価アンケートの集計結果」をホームページに公開した。

教員評価委員会では、歯学部・医療保健学部の全教員を対象に自身の教育活動への内省を含めた「ティーチング・ポートフォリオ」の導入を決定、FDを開催してその推進に努めた（前掲1. 第11回FDセミナー）。

4. 大阪歯科大学ファカルティ・ディベロップメント

(FD) 委員会規程の改正

審議事項の中で「ティーチング・ポートフォリオを活用した教育支援に関すること。」を追加した（2019年9月27日付）。

附属病院の取り組み

本学附属病院では、患者の方々へ懇切丁寧な医療を提供して地域社会への貢献を図るとともに、臨床実習を中心とした歯科医学の教育研究を充実させることを目的として、日々の業務に取り組んでいる。そのために「病院理念」においては、「患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供する」ことを掲げ、さらに安全・安心な医療に努め、良質で高度な先進的医療を提供し、口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献し、人権を尊重し、公正な医療を行い、さらに人間性豊かな、優れた医療人を育成することを基本方針として示し、これらの理念と基本方針を踏まえて2019年度も附属病院に与えられた使命を全うしてきた。

設備的には従前より推進していた口内法エックス線撮影機器のデジタル化を継続するため2019年度は4台の機器を導入して電子カルテシステムの基盤を整備するとともに、中央画像検査部の画像読影用ワークステーションやレポートング・システムの更新により画像診断支援システムの拡充を図った。また、口腔外科用吸引装置（フリーアーム・アルテオ S/F）を各診療科に設置し歯科診療の環境整備による院内感染対策を図った。さらに楠葉学舎で先行導入され各種会議の合理化で高い評価を得ていたペーパーレス会議システムを導入して附属病院での多くの会議に活用し、コピー費用や用紙代の節減を行い会議準備での事務作業の大幅な合理化を実現した。

一方、施設的には附属病院は南館が1960年、西館が1973年、本館が1997年の竣工で、それぞれ相当の年数を経ているものの、日々の診療や教育・研究等に支障を来さないように建物自体の補修や空調、照明等のメンテナンスを適宜実施してきた。

1. 附属病院組織改革委員会の取り組み

2016年4月から、理事会のもとに法人関係委員会である附属病院組織改革委員会（以下「改革委員会」）を設置し、患者数増加を第一の目標として取り組みを行ってきた。

改革委員会では、毎月の来院患者数目標達成状況等の検討資料を確認してきたが、同時にそれらは附属病院の全診療科長が出席する病院運営委員会にフィードバックして、診療科主体の経営改善の重要な資料となることも目途とされており、毎月の同委員会では病院長提言として改革委員会での議論が報告され、附属病院の現状についての共通認識のもと、改善への協力要請が行われているものである。

特に2019年度の改革委員会では、(1)患者数の増加、(2)診療時間の延長、(3)「診療分野教員」の増員、(4)自費診療の増加、(5)訪問・在宅診療への積極的参入、(6)新診療部門の開設等の喫緊の課題が活発に議論され、速やかな実施に向けた取り組みが行われた。

また、人事的には診療に携わる臨床系講座の教員を「教育部

門」と「診療部門」に区分し、診療部門に特化された教員を中心に医療収入増に向けて取り組んだ。さらに2019年10月には臨床系講座の主任教授が担当診療科の科長となっていた従前の体制を抜本的に改め、原則的に主任教授は科長とせず、各診療科の教授以外で診療能力が高く評価される人材を科長および診療主任に据えるという大幅な改革を断行した。この改革で一層の医療収入の増加や患者数増を目指すこととなった。

上記のような改革が功を奏し、2019年度は医療収入が約22億3000万円(決算額)、患者数が287,495人(入院患者数含む)といずれも過去最高の記録を達成した。

2. 2019年度患者数・医療収入等

2019年度の開院日数は241日であったが(土曜日診療含めず)、医療収入は約22億3000万円(決算額)であり、外来だけの患者数は280,659人で1日平均は1,165人であった。なお、歯科外来だけでみると来院患者数は267,480人となり、1997年の新病院開院以来で最多となった。

一方、矯正歯科と小児歯科で行っている土曜日診療は2019年度においては累計患者数が7,963人で前年度より9.5%も増加しており、高い評価を得ているものと思量され、今後も継続していくこととしている。

3. 病院情報システム(電子カルテ)について

眼科を除く全診療科で電子カルテが導入されているが、患者の診療情報には各科で撮影したデンタルフィルムや外部医療機関からの紹介状等の電子データとして統合できないものが依然として含まれている。それらは患者フォルダに紙媒体を中心とした資料として保管され、診療時には従前の院内カルテ搬送システムを使用して担当医まで届けられるようになっている。そして、このカルテ搬送システムの維持・管理には相当なコストを要してきた。

そこで、電子カルテ化で支障となっていたデンタルフィルムをデジタル化し、電子カルテの中にデンタルの画像情報も包括できることを目途とし、各診療科への口腔内エックス線撮影装置の設置を推し進めてきた。そして、ほとんどの診療科でデンタルフィルムを取り出すことなく電子カルテ上でデンタル画像を閲覧することが可能となった。

また、診療情報提供書等のカルテ以外の紙媒体の資料についてもスキャナーを用いたデジタル化を積極的に進め、年度末にはほとんどの患者について診療情報の伝達に紙媒体が不要となり、従前の患者毎の診療資料を保存するための所謂“患者フォルダ”を廃止することが可能となった。今後も各種診療情報のデジタル化により、完全電子化に向けた環境整備を一層推進する予定としている。

4. 歯科医師の派遣、訪問歯科診療

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会(大阪放送局)へ医員派遣を行い、地域医療の体制確保に寄与することができた。

一方、当院では従前より国家公務員共済組合連合会大手前病院(大阪市中央区)、および関西電力病院(大阪市福島区)への歯科訪問診療を実施しており、入院患者の周術期口腔機能管理等の医療を提供してきたが、2018年6月28日に本法人が大阪府下の約200の介護老人保健施設が加盟する公益社団法人大阪介護老人保健施設協会と連携協定を締結したことを踏まえ、今後はこのような介護老人保健施設への訪問診療を拡充し、地域包括ケアシステムに貢献していく責を担うこととなった。そして、2019年度においても、当院として歯科訪問診療を如何に推進していくかの検討を重ねており、関係者による大阪市内の介護老人保健施設の視察を行う等、訪問診療の推進に向けた取り組みを進めているところである。

5. 歯科医師臨床研修

2018年度の研修修了者は単独型と複合型を併せて102名であり、研修歯科医を受け入れた研修協力施設は51施設であった。また、交付された臨床研修費等補助金は7,839万円であった。下表に2014年度から2019年度までの当院の研修歯科医受入数を示す。

▼ 研修歯科医受入数(人)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
単独型	18	22	16	16	16
複合型	70	84	81	87	83
計	88	106	97	103	99

6. 健康セミナーの開催

当院では患者だけではなく、一般市民の参加も念頭に置いた健康セミナーを2017年8月からおよそ月1回の頻度で開催しており、本年度も当院の特色を活かしたテーマと内容で実施してきた。テーマ等にもよるが、参加者は概ね増加傾向にあり、多くの聴衆の好評をいただいているものと思われる。今年度開催分のテーマを附記する。

< 2019年 >

- 第21回 4月12日(金)「こんなに進んでいる“歯の根の治療”」
- 第22回 5月24日(金)「口の中のできる色々な腫瘍を知って下さい」
- 第23回 6月21日(金)「口腔癌 放射線治療を知る」
- 第24回 7月19日(金)「私もインプラントできますか?」
—大学病院から安全安心にできること—
- 第25回 8月23日(金)「私(僕)って、矯正治療、必要な?」
- 第26回 9月20日(金)「こわくない歯科治療-精神鎮静法の話-」
- 第27回 10月18日(金)「奥歯にも白い歯を」
- 第28回 11月15日(金)「入れ歯ができるまで」
—義歯を作る過程とその背景—
- 第29回 12月20日(金)「いつまでも自分の歯を長持ちさせるには」

< 2020年 >

- 第30回 1月24日(金)「子どもの歯のケガの治療は専門的知識と高度の技能が必要—ぜひ、多くの専門家のいる当院へ—」
- 第31回 2月21日(金)「あごが痛くなったらどーしよう!?

—顎関節症の最新治療—
第32回 3月13日(金)【中止】(新型コロナ感染予防のため)

7. 病診連携講演会・懇談会

従前より病診連携講演会・懇談会を毎年実施してきたが、2019年度で17回目となり、2020年2月8日(土)に開催した。テーマは「歯科との接点としての耳鼻咽喉科」であった。

本院は毎年約2,700の医療機関からの患者紹介を受けている。2019年度に紹介された新患者数は11,987人で、紹介患者率は約44%になっていることを重視し、今後もこのような医療機関との連携を確保するためにも本事業を継続していくこととしている。

8. 地域医療連携

・地域歯科医療の中核として、2019年度も引き続き地域の歯科診療所等の先生方からのCT、MRI、コーンビームCT等の画像診断及び病理組織検査を積極的に受け入れ、近隣医療機関の支援に寄与してきた。特に関西医科大学天満橋総合クリニックからのMRI検査依頼はその件数だけでなく、高額な検査ゆえに年間1,200万円ほどの収益を得ていることも鑑み、継続して連携体制を維持していくこととしている。

・「大手前病院・大阪歯科大学附属病院協力医療機関定例連絡協議会」を3ヶ月に1回の頻度で開催し、その連携・協力体制を維持するとともに、当院からの歯科訪問診療の機会を確保している。また、施設基準「感染防止対策加算2」の届出に当たっては、要件となる院内感染防止に係る病院との連携を大手前病院との間で締結している。同様に大手前病院と連携しているコープ大阪病院と共に年4回の合同カンファレンスを開催するなど、院内感染防止の向上に努めている。

9. 院内感染対策講習会、医療安全講習会、医薬品安全管理講習会、医療機器安全管理講習会

2019年度は下記の日程で開催し、多数の教職員を受講させ、当院の医療安全と院内感染対策の一助とした(()内は受講者数)。

・院内感染対策講習会

- 2019年 4月1日「医療安全講習(院内感染対策①)」(98名)
「医療安全講習(院内感染対策②)」(98名)
- 4月16日「チームで高める感染対策」(262名)
- 5月14日「歯科における病院感染対策～手指衛生と個人防護具を中心に～」(256名)
- 9月26日「インフルエンザの感染対策」(109名)
- 11月26日「針刺し切創対策について」(294名)
- 2020年 2月6日「歯科器材の洗浄から滅菌について」(108名)

・医療安全講習会

- 2019年 4月2日「医療安全講習①(概論)」(98名)
「医療安全講習②(救急蘇生)」(98名)
- 4月3日「薬物に対する正しい知識」(98名)

- 「医療現場のコミュニケーション—一人一人が医院の顔」(98名)
- 4月17日「中央手術室オリエンテーション」(98名)
- 8月6日「医療ガスの安全管理について」
—ヒヤリ・ハットを防ぐために—(134名)
- 8月14日「改正個人情報保護法とICT環境下におけるリスクマネジメント」(84名)
- 9月17日「本学病院の医療安全の問題点」(106名)
- 10月22日「大学病院における医療安全」
—最近の話題から—(116名)

・医薬品安全管理講習会

- 2019年 4月1日「医療安全講習(医薬品①)」(98名)
「医療安全講習(医薬品②)」(98名)
- 2020年 3月12日「最近の医薬品情報より—医薬品の適正な使用に関して—」(128名)

・医療機器安全管理講習会

- 2019年 4月3日「医療安全講習(医療機器①)」(98名)
「医療安全講習(医療機器②)」(98名)
- 2020年 2月27日「本学におけるX線検査の安全管理について」(145名)

10. 大阪歯科大学歯科衛生士研修センターの発足について

本学は、平成30年度歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の実施団体に選定された。これに伴い前年度の2018年10月、その拠点として本院内に「大阪歯科大学歯科衛生士研修センター」が発足した。そして、当該事業の開始時の「キックオフセミナー」に引き続き、初年度には2018年12月から2019年2月にかけて基礎研修、臨床研修のプログラムを経て、第1期生を修了させた。

2019年度も当該事業を継続し、年度内に計3回のプログラムを実行し、事業のより一層の発展を図った。

11. 本院ホームページのリニューアルについて

建学の精神である「博愛」と「公益」、「病院理念」の具現化を柱に、本院関係者と広報委員会を中心に、患者の方々のニーズに対応したきめ細かな情報提供と健康増進に寄与することを目的として、2018年度から附属病院ホームページのリニューアルに着手することとなり、2017年度にリニューアルを完了した本学のホームページのユーザビリティと意匠を基調に準拠した新たなホームページを2019年6月に公開することとなった。

新しい附属病院のホームページでは従前の当院の診療に係る情報だけではなく、患者や研修歯科医希望者を対象にした問い合わせフォームを設定し、気軽に質問や相談ができるような仕組みを組み込んだが、概ね好評であり、多くの問い合わせ等を受けることになった。そして、迅速な回答を励行することにより多くの患者のスムーズな来院を支援する一助となっているものと思量される。

施設・設備の整備

楠葉学舎 (面積: 33,378.47㎡)

1号館高圧受電設備改修工事、1号館ガス吸収式冷温水発生機整備工事、3号館パッケージエアコン更新工事、防災システム機器更新工事、排水処理施設整備工事(第I、II期工事)を行った。

牧野学舎 (面積: 49,985.33㎡)

正門改修工事、2号館1階男子学生更衣室改修工事、体育館高圧受電設備改修工事、校地周辺フェンス改修工事を行った。

天満橋学舎 (面積: 5,729.08㎡)

医療ガス整備(リール式アウトレット取替)工事、受電設備リレー更新工事、本館PAC空調機器更新工事、ガス吸収式冷温水発生機整備工事、CT-51冷却塔(1号機)補修工事、CT-051、CT-053冷却塔(2号機、3号機)補修工事、本館手術室1及び2のLED照明取替工事、非常用発電機蓄電池交換工事、歯科診療用吸引装置更新工事を行った。

法人・大学の管理運営

本学は、前年度に引き続き、限られた収入の中から教育・研究・臨床の各活動の活性化に努めるとともに、人材育成、施設設備の整備、業務改善を進めた。

・大学ホームページを充実させ、本学の特色について広報活動

を活発に行った。大学公式フェイスブックを随時更新し、ステークホルダーのニーズを的確に把握するように努めた。

・環境省が推進しているクールビズ、ウォームビズを本法人理事会決定で実施し、夏季及び冬季の省エネルギー意識の高揚に努めた。

・なお、学校法人大阪歯科大学SD推進委員会が設置(2019年5月)され、教職員の資質向上に向けて、SDを実施する体制を整備した。

2019年9月20日(金)「大学を取り巻く環境の変化と大学改革」と題して、木村 克紀氏((株)エデュース取締役、学校人育成塾代表)を招き、近年の学校を取り巻く環境、ミッションツリーマネジメントについて講演が行われた。このSDには大阪府下の他私立大学の事務職員も参加した。

教職員全体のSDについては、2020年1月の新年互礼会をSD研修会として、理事長・学長が本学の目指す重点計画(中期計画を含む)について講演した。

・教職員に対する人権意識向上の一環としての「人権啓発講演会」は、本学人権教育室教員により、2019年10月28日(金)「人権って何?:その過去、現在、未来」と題して開催した。10月22日(火)から11月15日(金)にかけて「人権標語」の学内募集を行い、最優秀賞1点、優秀賞2点を選考し、各受賞者(歯学部学生)に学長から表彰を行った。

附属資料

1. 2019年度学生数(2019年5月1日現在) ()は女子

歯学部	第1学年	130 (75)	歯学研究科	第1学年	38 (13)
	第2学年	139 (74)		第2学年	23 (10)
	第3学年	129 (63)		第3学年	33 (12)
	第4学年	134 (61)		第4学年	27 (6)
	第5学年	148 (62)		第5学年	121 (41)
	第6学年	155 (75)		第6学年	83 (41)

医療保健学部	第1学年	口腔保健学科	80 (80)	口腔工学科	19 (7)
	第2学年	口腔保健学科	69 (67)	口腔工学科	14 (8)
	第3学年	口腔保健学科	39 (39)	口腔工学科	9 (2)
			188 (186)		42 (17)

医療保健学研究科	第1学年	12 (11)
	第2学年	13 (10)
		25 (21)

2. 第113回歯科医師国家試験の結果 2020年3月16日合格発表

	(総数)			(新卒)			(既卒)		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	170	113	66.5	68	58	85.3	102	55	53.9
全国	3,211	2,107	65.6	1,995	1,583	79.3	1,216	524	43.1

3. 2020年度入学試験状況

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
歯学部	推薦	74	45	128
	一般前期	290	72	
	一般後期	120	8	
	センター前期	129	3	
	センター後期	31	4	
	プラス1前期	112	7	
	プラス1後期	29	3	
	外国人留学生	0	-	
	編入前期	4	2	
	編入後期	2	2	

学部・研究科	選抜区分	志願者数	合格者数	入学者数
口腔保健学科	推薦A	45	19	74
	推薦B	28	9	
	推薦	39	39	
	一般前期	30	5	
	一般後期	14	9	
	センター前期	16	6	
	センター後期	3	1	
	社会人特別	0	-	
	帰国生特別	0	-	
	外国人特別	1	1	
口腔工学科	推薦A	12	12	27
	推薦B	0	-	
	推薦	2	2	
	一般前期	12	7	
	一般後期	4	4	
	センター前期	9	4	
	センター後期	2	0	
	社会人特別	0	-	
	帰国生特別	0	-	
	外国人特別	7	7	
歯学研究科	推薦	0	-	40
	推薦A	12	12	
	推薦B	0	-	
	推薦	2	2	
	一般前期	12	7	
	一般後期	4	4	
	センター前期	9	4	
	センター後期	2	0	
	社会人特別	0	-	
	帰国生特別	0	-	
医療保健学研究科	推薦	0	-	10
	推薦A	12	12	
	推薦B	0	-	
	推薦	2	2	
	一般前期	12	7	
	一般後期	4	4	
	センター前期	9	4	
	センター後期	2	0	
	社会人特別	0	-	
	帰国生特別	0	-	
博士課程	推薦	0	-	9
	推薦A	12	12	
	推薦B	0	-	
	推薦	2	2	
	一般前期	12	7	
	一般後期	4	4	
	センター前期	9	4	
	センター後期	2	0	
	社会人特別	0	-	
	帰国生特別	0	-	

4. 2018年度会計実査 2019年4月2日

5. 大学歯学部・大学院歯学研究科入学式 2019年4月5日(金) 午前10時(於: 楠葉学舎)
6. 大学医療保健学部・大学院医療保健学研究科入学式 2019年4月5日(金) 午後2時(於: 楠葉学舎)
7. 新入生研修
 - ・歯学部 2019年4月9日、10日(於: 楠葉学舎)
 - ・医療保健学部 2019年4月8日(於: 楠葉学舎)
8. 2019年度FDセミナー(本文参照)
9. 2018年度監事監査 2019年5月20日、21日(於: 楠葉学舎)
10. 歯学部父兄会・共済会総会(於: 楠葉学舎) 2019年6月29日(土) 午後1時 父兄出席者数342名
11. オープンキャンパス
 - 1) 歯学部オープンキャンパス(於: 楠葉学舎、第2回のみ天満橋学舎)
 - ・第1回 2019年7月21日(日) 235名参加(うち、高校生等116名)
 - ・第2回 2019年8月19日(月) 102名参加(うち、高校生等56名)
 - ・第3回 2019年9月29日(日) 137名参加(うち、高校生等60名)
 - 2) 医療保健学部オープンキャンパス(本文参照)
12. 第51回全日本歯科学生総合体育大会(当番校: 福岡歯科大学) 2019年7月30日(火)~8月10日(土) 本学は総合第5位
13. 第27回大阪歯科大学公開講座(本文参照)
14. 第5学年父兄会 2019年9月28日(土) 午前9時30分(於: 100周年記念館)
15. 第6学年父兄会 2019年9月28日(土) 12時50分(於: 100周年記念館)
16. 2019年度大学祭(テーマ: 猪突猛進)
 - ・体育祭 雨天のため中止
 - ・文化祭 2019年10月26日(土)、27日(日)(於: 楠葉学舎)
17. 2019年度人権啓発講演会 2019年10月28日(於: 100周年記念館) テーマ「人権って何?:その過去、現在、未来」講師: 人権教育室 榎剛章教授

18. 解剖体型実査・御遺骨返還式 2019年11月7日(木) 午後1時(於: 四天王寺)
19. 実験動物実査 2019年11月15日(金) 12時35分(於: 楠葉学舎講堂)
20. 2019年度防災・防火訓練
 - 楠葉学舎 2019年11月29日(金)
 - 牧野学舎 2019年12月11日(水)
 - 天満橋学舎 2019年12月13日(金)
21. 共用試験2019 歯学部系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアル
 - ・臨床実地試験 2019年12月5日(医療系大学間共用試験実施評価機構提供)
 - ・一斉技能試験 2019年12月14日
22. 2019年全学教職員志年型労会 2019年12月27日(於: 天満橋学舎)
23. 2020年新年互礼会 2020年1月6日(於: 楠葉学舎)
24. 教授定年退職記念講演会 2020年2月11日(於: 100周年記念館) 清水谷公成主任教授(14:10~)、田中昌博主任教授(14:55~)
25. 2019年度共用試験歯学部系CBT並びにOSCE
 - ・CBT 2020年2月25日(火) 午前9時30分(於: 楠葉学舎)
 - ・OSCE 2020年3月15日(日) 午前9時(於: 天満橋学舎)
26. 2019年度卒業証書・学位記授与
 - ・歯学部・歯学研究科 2020年3月13日(金) 午前10時(於: 楠葉学舎)
 - ・医療保健学研究科 2020年3月22日(日) 午前10時(於: 楠葉学舎)
27. 2019年度歯科医師臨床研修修了証授与式 2020年3月24日(於: 天満橋学舎)
28. 特待生の採用
 - ・歯学部 2年から6年の各学年3名、計15名に対し授業料100万円免除
 - ・医療保健学部 各学年1名2名、2年1名、3年1名の計8名に対し授業料52.5万円免除
29. 大学内奨学生選考 2名の学生に対して総額1,450,000円の奨学金を貸与
30. 附属病院関係
 - ・睡眠時無呼吸器外来開設(2019年4月)
 - ・大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関に選定(2019年5月31日)

- ・大阪国際先制医療センター開設(2019年9月1日)
 - ・令和元年度臨床研修活性化推進特別事業の補助対象施設に選定(2019年10月10日) 補助金額 3,070,000円
31. 2020年度研修歯科医の募集定員 単独研修方式20名、複合研修方式120名
 32. 学位授与
 - 1) 博士(歯学)
 - 学位記番号 甲第 855号~885号 31名に学位記授与
 - 学位記番号 乙第 1620号~1626号 7名に学位記授与
 - 2) 修士(口腔科学)
 - 学位記番号 甲第 1号~10号 10名に学位記授与
 33. 医療保健学部教員が学会論文賞受賞
 - ・口腔保健学科 橋本正則教授 / 平成30年度日本歯科理工学会論文賞
 34. 歯学部生が全国学生技能コンペで優秀賞受賞
 - ・歯学部5年 荒木剛丸 / 第1回JPS Student Clinical Skills Competition(日本補綴歯科学会主催) 優秀賞
 35. 2019年度法人理事会・法人評議員会・歯学部主任教授会・歯学部教授会・医療保健学部教授会・歯学研究科会議・医療保健学研究科会議
 - 1) 法人理事会 16回開催
 - (2019年4月25日、5月30日(2回)、6月27日(2回)、7月25日、8月29日、9月26日、10月24日、11月28日(2回)、12月27日、2020年1月23日、2月27日、3月26日(2回))
 - 2) 法人評議員会 4回開催
 - (2019年5月30日、6月27日、11月28日、2020年3月26日)
 - 3) 歯学部主任教授会 22回開催
 - (2019年4月10日、5月8日、6月12日、6月21日、7月10日、7月24日、8月14日、9月11日、10月9日、10月23日、11月13日、11月20日、11月27日、12月11日、2020年1月8日、1月15日、1月24日、2月5日、2月12日、3月5日、3月13日、3月30日)
 - 4) 歯学部教授会 2回開催
 - (2019年4月10日、2020年3月30日)
 - 5) 医療保健学部教授会 17回開催
 - (2019年4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、10月25日、11月20日、12月18日、12月20日、2020年1月15日、2月6日、2月19日、3月6日、3月18日、3月25日)

- 6) 歯学研究科会議 15回開催
 - (2019年4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月9日、10月23日、11月13日、11月27日、12月25日、2020年1月22日、2月5日、2月26日、3月25日)
- 7) 医療保健学研究科会議 16回開催
 - (2019年4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月5日、8月21日、9月6日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、2020年1月15日、1月29日、2月19日、3月6日、3月18日)
36. 令和元年の教職受章者(本学関係) 大学11回 戸田 忠夫 大阪府 瑞室中級章 共18名
37. 教職員数(2019年5月1日現在: 363名)
 - 1) 教員数 201名
 - 学長1名
 - 歯学部 157名
 - 主任教授25名、専任教授5名、准教授17名、講師47名、助教63名
 - 医療保健学部 27名
 - 教授10名、准教授5名、講師5名、助教3名、助手4名
 - 附属病院 16名
 - 専任教授1名、病院教授1名、准教授3名、講師9名、助教2名
 - 2) 職員数 162名
 - 事務・技術77名、医療84名、労務1名
38. 人事
 - 1) 学長再任 川添 堯樹(任期: 2019(令和元)年10月1日~2023(令和5)年9月30日)
 - 2) 法人関係
 - 1) 理事長再任 川添 堯樹(任期: 2019(令和元)年10月1日~2022(令和4)年4月2日)
 - 2) 理事長死亡退任 三谷 卓(2019年8月13日)、田中 昌博(2020年2月13日)
 - 3) 評議員退任 清水谷 公成 共2名(2020年3月31日付)
 - 3) 常務取締役号授与 竹村 明道 共3名
 4. 退職
 - 1) 定年退職 歯科放射線学講座 主任教授 清水谷 公成 共5名
 - 2) 依願退職 生理学講座 講師 平野 俊一郎 共20名
 - 3) 死亡退職 有歯補綴咬合学講座 主任教授 田中 昌博
 - 4) 任期満了退職 薬理学講座 講師 河合 まりこ 共3名
 - 5) 任期満了退職 施設課 特任職員 田中 修 共2名
 5. 昇任
 - 1) 退職に伴う教授特別昇任 口腔診断・総合診療科 准教授 細井 猛隆

2019年度 監事監査報告

2020年(令和2年)5月18日

2019年度(令和元年度)監事監査報告書

学校法人 大阪歯科大学
理事長 川添 堯彬 殿

学校法人 大阪歯科大学
監事 本井 文夫
監事 生駒 等

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人大阪歯科大学寄附行為第13条の規定に従い、学校法人大阪歯科大学の令和元年度(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)の、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上

2020年度 事業計画

はじめに

本学は、建学の精神である「博愛と公益」を基調に、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知識、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的に、教育・研究・診療等の全ての諸領域にわたって地道な努力を続けている。

本事業計画では、「第1期中期計画(2020年度～2024年度)」の内容を踏まえ、「教育力の向上」「研究力の向上」「臨床力、病院力の向上」「医療保健学部・大学院医療保健学研究科の活性化」「医療系新学部(看護学部)設置準備の本格化」「経営基盤の強化」を重点事業として推進するものである。

- 大学全体においては、建学の精神を基調に、教育、研究、診療の質の向上を図るとともに自己点検・評価を実施する。
- 歯学部においては、従来行っている学生への育み・寄り添い教育の一層の充実、オナーズ教育の推進、CBT、OSCE、歯科医師国家試験の高い合格率の維持、国際交流の展開を図る。
- 医療保健学部においては、歯学部と連携し、多職種連携の担い手となる優秀な歯科医療人を育成していくとともに、国際交流の展開を図る。

- 大学院歯学研究科においては、基礎系大学院生、社会人大学院生の募集を進展させ、大学等における教育・研究・診療を担える人材養成を行う。
- 大学院医療保健学研究科においては、高等教育機関における教育・研究者としての人材養成を行う。
- 附属病院においては、全診療科の患者数20%増加、土曜日診療、睡眠時無呼吸外来、診療参加型臨床実習、臨床研修プログラム、訪問診療・在宅診療の実施等に注力していく。
- 財務基盤の強靭化を目指し、医療系新学部(看護学部)設置準備を本格化する。

上記のような計画を強力に推進し、経営基盤の強化を図り一層の教育、研究、診療、管理運営の向上を目指すものである。

2020(令和2)年度事業計画

2020(令和2)年度の事業として、着実に実行していくものである。

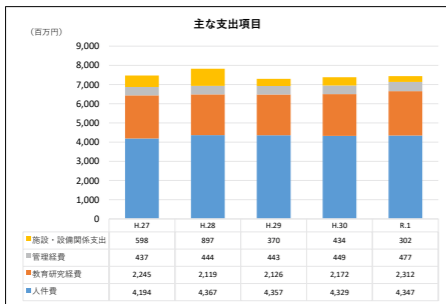
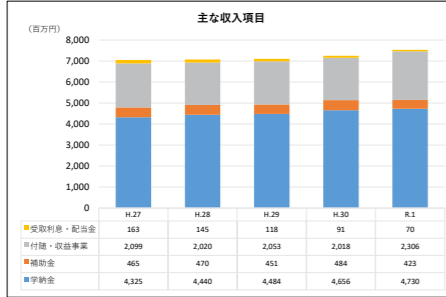
I. 大学

【大学全体】
【歯学部】

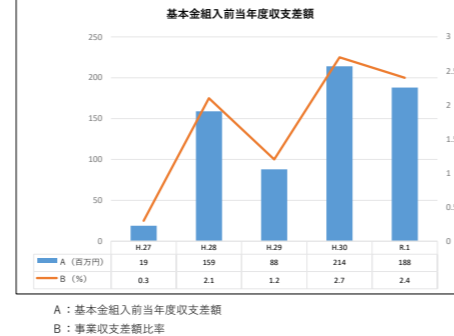
1. 教学-a(第1学年～第4学年)の改革
2. 教学-b(第5学年、第6学年、既卒者)の改革
3. 研究に関すること

(2) 経年比較

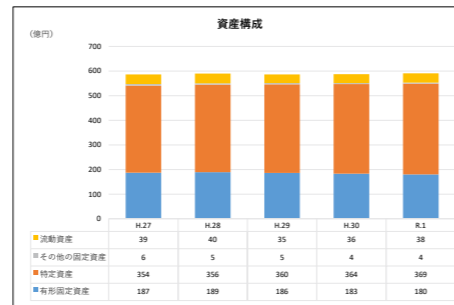
①資金収支計算書項目



②事業活動収支計算書項目



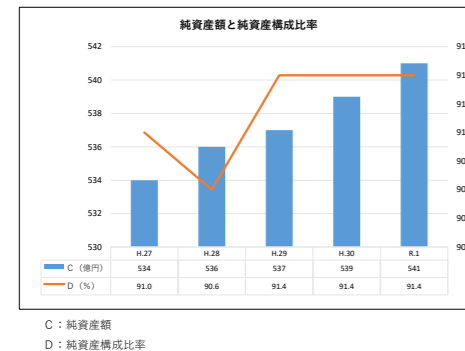
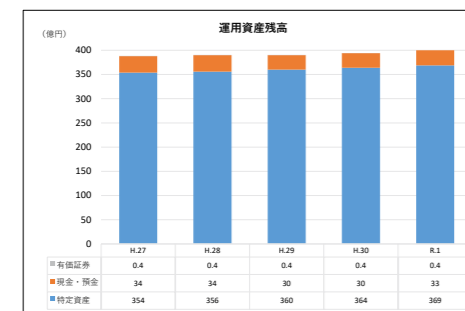
③貸借対照表項目



(3) 財務比率

項目	単位	H.27	H.28	H.29	H.30	R.1
固定資産構成比率	%	93.2	93.2	93.9	93.8	93.5
固定比率	%	102.4	102.9	102.9	102.6	102.3
流動比率	%	349.5	250.9	290.7	286.6	279.1
負債比率	%	9.8	10.4	9.5	9.4	9.4
内部留保資産比率	%	57.3	56.0	57.0	58.4	58.4
運用資産余裕比率	%	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1
純資産構成比率	%	91.0	90.6	91.4	91.4	91.4
人件費比率	%	54.8	55.5	55.6	54.7	53.6
教育研究経費比率	%	37.6	35.0	36.2	35.5	37.0
管理経費比率	%	7.2	7.1	7.0	6.7	7.0
事業活動収支差額比率	%	0.3	2.1	1.2	2.7	2.4
学生生徒等納付金比率	%	58.0	58.4	59.1	59.4	59.6
補助金比率	%	6.2	6.2	5.8	6.2	5.3
経業収支差額比率	%	0.4	2.4	1.1	3.0	2.4

項目	内容説明
固定資産構成比率	資産構成のバランスをみるための指標
固定比率	固定資産に対する純資産が低下しているか評価する指標
流動比率	短期的な支払い能力を評価する指標(200%以上であれば優良)
負債比率	他人資金と自己資金の割合を評価する指標(低いほど良い)
内部留保資産比率	運用資産の蓄積度を評価する指標(高いほど良い)
運用資産余裕比率	経常的支出規模に対し運用資産の蓄積度を評価する指標(高いほど良い)
純資産構成比率	財政的な安定度を評価する指標(高いほど良い)
人件費比率	人件費の経常収入に占める割合(低いほど良い)
教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入割合(収支均衡を失わない範囲で高いほど良い)
管理経費比率	管理経費の経常収入に占める割合(低いほど良い)
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額が占める割合
学生生徒等納付金比率	学納金の計上収入に占める割合(安定性の推移が望ましい)
補助金比率	補助金の事業活動収入に占める割合
経業収支差額比率	形状的な収支バランスを表す割合



4. 国際交流に関すること

【医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）】

1. 学生の受け入れ
2. 教育課程の編成の考え方及び特色
3. 学位授与方針
4. 学生への各種支援

II. 大学院

【歯学研究科】

1. 大学院生の入学倍増への取り組み
2. ポストドクトラルフェロー事業
3. ティーチング・アシスタント事業
4. 学術研究奨励助成金事業
5. 学術研究振興資金及び若手研究者奨励金事業
6. 海外研究発表助成事業
7. その他の事業

【医療保健学研究科】

III. 教員力、研究力

1. 教員評価の実施
2. 任期制教員の再任用基準の見直し
3. 人材の登用

IV. 附属病院

V. 教育研究環境

VI. 法人管理運営

I. 大 学

本学は、「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、博愛と公益に努める。」との建学の精神及び教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。

【大学全体】

- ・教育、研究、診療、管理運営等の諸活動について、自己点検・評価を図るとともに一層の質の向上に努める。
- ・文部科学省・中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にある「学修者本位の教育への転換」のために、教育・学修成果の可視化と情報公表を推進する。
- ・GPA制度を全面的に導入し、進級等への活用を図る。
- ・アーリーエクスポージャー（早期臨床体験学習）、枚方市の環境美化事業（ODU ソーシャルコミュニティ）を通じた態度教育・キャリア教育の充実を図る。
- ・ディスカッション、ディベート等の要素を含むアクティブ・ラーニングの授業の推進を図る。
- ・学年指導教授、助言教員、教育アドバイザー、特別アドバイザーによるきめ細かな学生支援体制を推進する。

- ・3キャンパスの学生相談室にカウンセラー（臨床心理士）を配属し、学生の抱える様々な問題に寄り添うことで、精神面での支援充実を図る。
- ・高等教育の修学支援制度、奨学金制度により、経済的に修学が困難な学生への支援を行う。
- ・本学の建学の精神及び3つのポリシーに基づき養成する人材像に照らして、学部卒業時と卒業後の状況から教育成果を検証するため、アンケート等を実施し、その分析結果を広く社会に公表する。
- ・教育研究の成果や地域医療への貢献を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。
- ・研究倫理を徹底するとともに、若手研究者の育成に努める。
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿った取り組みとして、一般財団法人公正研究推進協会の「APRIN eラーニング教育」の導入により教員一人ひとりの倫理観を向上させ、もって国民の健康の保持増進に貢献する公正な研究を推進する。
- ・教育研究のグローバル化に即応する人材育成のため、国際交流を図る。
- ・大阪歯科大学学術リポジトリの充実を図り、本学の保有する学術研究の成果を社会に還元し、国際的な発信力の強化に繋げていく。
- ・本学が参加している枚方産学公連携プラットフォームの中長期計画にある各事業について、その展開に積極的に取り組む。
- ・1993（平成5）年から開講している本学公開講座の内容を充実させ、市民の健康（健口）づくりに貢献する。
- ・学園都市ひらかた推進協議会、健康医療都市ひらかたコンソーシアム、関西医科大学、摂南大学、本学による医歯薬大学間共同研究等の地域連携事業を推進する。
- ・厚生労働省受託事業の「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」の一環として設置された「歯科衛生士研修センター」の拡充を図る。
- ・厚生労働省受託事業の「歯科技工士の人材確保対策事業」の採択を目指す。
- ・医療系新学部（看護学部）設置準備を本格化する。

【歯学部】

1. 教学 -a（第1学年～第4学年）の改革

(1) 学生の受け入れ

- ・歯学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、一般入試（前期・後期日程）における大学入学共通テストを活用した入試を実施するとともに、入試制度の多様化を図っていく。
- ・2015（平成27）年度から導入の入学初年度にかかる学費を免除する入学試験成績優秀者特待生制度を活用し、優秀な新入生の確保を図っていく。
- ・入試倍率3倍以上を目標として、本学の魅力を受験生にアピールすべく積極的な広報活動を推進していく。
- ・高大連携改革の取り組みとして、教育連携協力協定校の香里ヌヴェ

ール学院高等学校、大阪府下の高等学校との相互交流を推進する。

(2) IR (Institutional Research) 室と教学部門等との連携
 教学部門及び歯科医学教育開発室等との連携を一層強化し、入学段階から卒業までの学生の実態や学修効果が俯瞰できるデータの蓄積を行い、日常の学生指導に役立つ情報を提供する体制を整備する。

(3) 学生の教育支援について

- ・学部の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、態度教育科目として、第1学年次の「社会福祉施設体験学習」や「現代教養」において、学修態度の確立やオナズ教育を、また、第2学年次の「問題解決基盤」においては、アクティブ・ラーニングの要素を含んだ授業を実施する。
- ・6年間の学士課程を通じて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて低年次からの学力レベルの向上（留年者の減少）、確実な進級を果たすべく教育支援に取り組む。
- ・学生カルテの機能を充実させ、指導教授、助言教員等による学生情報の共有化を図り、教育支援の基幹システムとして活用することを目指す。
- ・第3学年配当科目の「研究チャレンジ」を積極的に展開し、学生の研究力の向上を目指す。
- ・「TOEIC、TOEFL 受験」「SCRIP 参加研究」の拡充を図る。
- ・高い進級率を達成することを目指すとともに、第4学年次に行われる共用試験（CBT、OSCE）の高位合格率（本試験合格）を目標にした対応を行う。
- ・学舎全体の自習室の利用状況をモニタリングし、学生の学修環境の見直しを図っていく。
- ・学修の手引き（シラバス）、学生生活ハンドブック等の学生生活指導の指針の更新を行い、学生に対してその活用を促していく。
- ・薬物乱用防止、女性被害防止に関する講演会、ハラスメント防止のための啓発を行い、安全な学生生活を過ごすうえで必要な知識の浸透に努める。
- ・障害者差別解消法が施行されたことを受け、本学の「障がいのある学生の修学等の支援に関する指針」に基づいて支援体制の整備を図る。

2. 教学 -b（第5学年、第6学年、既卒者）の改革

(1) 第5学年への教育

- ・クリッカーの導入による出欠管理の徹底と、臨床実習の成績、臨床知識試験（年5回）と臨床講義、臨床実習終了時試験の実施により学力の向上を目指していく。
- ・全診療科での「自験」を実施し、参加型臨床実習の充実を図る。
- ・2020年度から本格実施される臨床実習後客観的臨床能力試験に向けた体制を整備する。

(2) 第6学年への教育

学士試験1、2本試験全員合格と、歯科医師国家試験の高位の合格率（新卒者合格率90%、最低修業年限国家試験合格率の向上）を目指す。

(3) 既卒者への対応

既卒者教務部委員会により、既卒者のモチベーションを向上させる指導を継続し、個別指導・相談の徹底、相談会への定期出席を厳守させる。

(4) オープンエデュケーションの活用促進

自主学習ツールであるDESモバイル（SATT社）の歯科医師国家試験過去問題サイトについて、e-ラーニングの環境整備を検討し、一層の活用を促進する。

3. 研究に関すること

- ・科学研究費補助金をはじめ各種競争的外部資金の獲得件数を高めるよう研究活動の活性化を図る。
- ・学長のリーダーシップのもと、競争的外部資金獲得のための研究推進体制を構築する。
- ・歯科医学の発展のため、臨床ゲノム医療学会に協賛し、ゲノム研究に向けた研究体制を整備する。
- ・中央歯学研究所における研究機器を用いて、優れた研究の推進を図る。

4. 国際交流に関すること

- ・国際交流に関し、中国、韓国、ベトナム、台湾、アメリカ、イギリス、ハンガリー、オーストラリア、ウルグアイの海外16大学との学術交流協定締結校との事業を継続して行い、一層の充実を図る。
- ・国立研究開発法人 科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」への申請を行い、アジア地域と日本の科学技術の発展に寄与する。

【医療保健学部（口腔保健学科・口腔工学科）】

1. 学生の受け入れ

- ・医療保健学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学部の認知度と入学定員充足率を向上させるため、受験生の確保に向けて近畿圏の高校、予備校訪問などを通して積極的な入試広報活動を行う。
- ・オープンキャンパスを頻繁に実施することにより、参加者に学部の特色をアピールする機会を増やす。
- ・入学試験成績優秀者特待生制度の継続実施

2. 教育課程の編成の考え方及び特色

- (1) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、多職種連携の担い手たる医療人としての素養の形成、歯科の基礎的な知識の獲得、歯科臨床の知識の獲得、歯科臨床の技能の獲得、実践能力の獲得、教育内容の整理と知識・技能の固定化を体系的に行う。
- (2) 国家試験合格率100%達成にむけた教育、学生の国際交流の推進、就職率100%達成を学部運営の基本軸とする。
- (3) 医療人としての素養の養成、口腔リハビリテーションや訪問歯科診療などの高齢化に応じた知識と技能の獲得に重点を置く。

- (4) 歯科衛生士、歯科技工士国家試験受験資格とともに、意欲ある学生に対して社会福祉士国家試験受験資格の取得コースの受講を促す。
- (5) 国家試験受験に向けて自主学習ツールである DES モバイルの活用を促進する。

3. 学位授与方針

「博愛と公益」の精神を持った人材の輩出という学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を堅持し、学生教育を推進する。

4. 学生への各種支援

- ・学年指導教授、助言教員制度のきめ細かい個人への修学指導を行う。
- ・高等教育の修学支援制度により、経済的に修学が困難な学生への支援を行う。
- ・学部独自の奨学金制度の創設を検討する。
- ・学生 1 人に 1 台のノート PC を貸与し、学修支援システム「A-Portal」、授業用 SNS「melly」により学生のサポート体制の充実を図る。
- ・1 級キャリアコンサルティング技能士及びキャリアコンサルタントを配置し、キャリアセンターによる就職支援体制の一層の充実を図る。

II. 大学院

【大学院全体】

大学院歯学研究科及び大学院医療保健学研究科においては、両研究科の 3 つのポリシーを出発点として、次の事項について取り組みを行う。

- (1) 学位プログラムとしての大学院教育の確立
- (2) 学位論文に係る評価に当たったの基準の公表による大学院の取り組みの社会への発信
- (3) 博士後期課程の学生が修了後自ら有する学識を教授するために必要な能力を培うための機会（プレ FD）の設定
- (4) 既存の経済的支援等の情報提供の促進

【歯学研究科】

歯学研究科博士課程は、独創的研究によって、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、研究者養成を主眼とし、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。

1. 大学院生の入学倍増への取り組み

- ・基礎系を専攻する学生への優遇策の継続実施（授業料等の減免）
- ・楠葉、天満橋両キャンパスにおける大学院講義を継続して実施する。
- ・社会人大学院生の受け入れを促進する。

- ・外国人留学生の受け入れを促進する。
- ・大学院生の優秀論文表彰制度の継続実施
- ・大学院歯学研究科ホームページの充実による広報

2. ポストドクトラルフェロー事業

大学院修了者のうち 2 名の枠を設け、研究活動の継続及び後継者養成のため本学大学院に採用する。

3. ティーチング・アシスタント事業

15 名の枠を設けることで、学部学生に対する教育補助業務を行う。また、プレ FD を実施し、できるだけ多くの教育経験の機会を提供する。

4. 学術研究奨励助成金事業

大学院生に対して若手研究者育成のために研究助成を行う。

5. 学術研究振興資金及び若手研究者奨励金事業

日本私立学校振興・共済事業団事業で、研究計画を学内公募のうえ選考し、事業団へ申請する制度を積極的に活用する。

6. 海外研究発表助成事業

大学院博士課程第 3・4 学年を対象に、海外で行われる学会でのファーストオーサーで研究発表を行う場合に研修費として助成する。

7. その他の事業

大学院生インターンシップ、大学院留学生への日本語勉強会に対する助成、留学専攻生への授業料減免（授業料と施設費の半額を免除）を実施する。

【医療保健学研究科】

医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程）は、高度な専門的知識と技能を持つとともに歯科医療の変革に応じられる歯科医療人を養成できる人材並びに歯科衛生士や歯科技工士の専門性を生かした研究を通じて歯科医療の発展に貢献できる人材を養成して歯科医療の発展と人々の健康の増進に寄与することを目的としている。

・口腔科学専攻（修士課程）では、カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎科目（研究者及び指導・教育者としての素養を養成する科目）、専門科目（高度な専門知識と技能を学修する科目）、専門研究（修士論文をまとめる科目）の 3 つの科目群からなるカリキュラムにより体系的な教育を推進する。

医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）は、歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力を持つことを重要な目標の一つとしている。指導力、更には教育研究組織の人材管理と運営能力を持つ人材養成に取り組む。

・医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）では、カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎科目（自立して研究を実施できるとともに研究指導者や管理者としての能力を養成する科目）、専門科目（研究指導を実践して指導力を養成するとともに研究能力を高める実習科目）、専門研究（独創的な研究を自身で立案し実行する科目で本大学院修士課程と比べて高度で専門性の高い研究を行うことを目標とする実習科目）の 3 つの科目群からなるカリキュラムにより体系的な教育を推進する。

両課程の共通事項として、現役の歯科衛生士、歯科技工士等の有職者に対して、長期履修制度や、大学院設置基準第 14 条による夜間等の特定の時間での教育指導体制により、きめ細かなリカレント教育を実施する。

III. 教員力、研究力

1. 教員評価の実施

- ・「新授業評価表」による優れた教員の発掘で教員力を高める。
- ・教育改善、教育業績のために、ティーチング・ポートフォリオを活用する。
- ・アクティブ・ラーニングなどを取り入れた授業を行う人材を育成するための FD 研修会を頻繁に実施する。

2. 任期制教員の再任用基準の見直し

「任期制教員の再任用基準に関する申し合わせ」の見直しを行い、教員の資質向上を図る。

3. 人材の登用

- ・大学院修了者・ポストドクトラルフェローへ海外留学を推奨し、本学の「海外留学経験者の特別採用に関する規程」に基づき帰国後に教員任用を図っていく。
- ・客員教授、Visiting Professor、Honorary Visiting Professor による講義など特色ある教育の展開を促していく。

IV. 附属病院

本学附属病院は、本学大学学則の第 1 条の目的に則り、患者診療を通じて歯科医学の教育研究を達成するとともに、地域社会に貢献することを目的としている。このことを踏まえ、地域における患者ニーズに合った良質な歯科診療を行うとともに、臨床研修施設として歯科医師の養成と資質向上に取り組んでいる。附属病院の機能を一層充実させる取り組みを推進し、経営効率の一層の向上を図り、次の事項を実現し、医療収入の増加を目指す。

- ・17 診療科の延べ患者数の 2 割増加を目指す。
- ・自費診療の推進による適用症例の増加を図る。
- ・土曜日の開院や診療終了時刻の延長による総合的な診療時間

- ・枠の拡大を図る。
- ・附属病院ホームページの内容を充実させ、情報発信を高めることにより一層の患者増を図る。
- ・デジタルサイネージ等の設備の拡充により受診中の患者へのきめ細かな最新情報の提供に努める。
- ・先進的な歯科治療を提供する役割を発揮するため、地域医療機関からの受け入れを円滑に進める。
- ・附属病院周辺地域と連携し、地域包括ケアシステムに積極的に参画することで、医科歯科介護連携による地域完結型医療を推進する。
- ・スペシャル・ニーズに対応するための口腔リハビリテーション科、睡眠時無呼吸外来、睡眠歯科外来等の診療部門の充実を図る。
- ・2019 年度に附属病院内に新設の大阪国際先制医療センターにおける mRNA 検査等をはじめとした歯科領域に留まらない先進的な医療の提供に取り組む。
- ・訪問歯科診療（国家公務員共済組合連合会大手前病院）、MRI 特殊検査（関西医科大学天満橋総合クリニック）の継続実施
- ・地域の診療所への支援として、CT、MRI、歯科用 CT、検体検査及び病理組織検査を継続実施
- ・歯科医師派遣（沖縄県、社会福祉法人阪神福祉事業団、日本放送協会大阪放送局）の継続実施
- ・患者への説明責任、医療倫理の遵守とその徹底を行う。
- ・歯学部附属病院医療事故防止相互チェックへ積極的に参画する。
- ・医療安全管理学室の機能を強化し、医療安全に対する意識の一層の向上強化を図る。
- ・病院情報システムの活用による医療サービスの一層の質的向上を図る。
- ・省エネルギー対策を徹底し、エネルギー使用量と経費の抑制、削減を図る。
- ・公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受けるべく基盤整備を行う。
- ・卒業前歯学部学生（スチューデント・デンティスト）による臨床実習や近隣の協力型研修施設との複合研修方式を中心とした卒業臨床研修等の制度を支援し得る、本学歯学部・医療保健学部等の卒前・卒業後教育及び生涯にわたる医療人の研修の場としての役割を強化する。

V. 教育研究環境

- ・楠葉、牧野、天満橋各キャンパスの施設・設備について、可能な限り同水準での整備に努める。
- ・財政状況を考慮しつつ、施設設備の耐震化に努める。
- ・図書館においては、開館時間の確保、学術情報サービスの拡充を図る。
- ・教育情報センターにおいては、ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）機器・備品の整備を図る。
- ・施設・設備の整備予定（抜粋）は、次のとおりである。

○楠葉キャンパス【歯学部】

- ・2号館、講堂 パッケージエアコン更新工事(3カ年計画の2年目)
- ・2号館、3号館 高圧受電設備改修工事
- ・3号館 ガス吸収式冷温水発生機整備工事
- ・3号館 地下階の排水処理施設の排水用樹脂入替工事
- ・5号館 中央監視盤全館空調リモートユニットの更新

○天満橋キャンパス【附属病院】

- ・本館 吸収式冷温水発生機整備工事(4カ年計画の1年目)
- ・本館 機械式駐車場リフト駆動装置交換工事
- ・本館 PAC空調機更新工事(3カ年計画の2年目)

VI. 法人管理運営

- ・法人の管理運営を効率的に行うため、外部資金（公的補助金、寄附金等）の獲得向上と並行して経費を削減・抑制することで財政基盤の充実を図る。
- ・楠葉、牧野、天満橋の3キャンパスの有機的な連携を図るため、情報ネットワーク環境の整備を行う。
- ・教職員の資質向上、ハラスメント防止、人権意識高揚に向けた研修会・講演会を行う。
- ・教職員の知識修得のためのSDを実施し、近年変化の著しい業務内容の変化に即応できる人材の育成を図る。
- ・教職員の省エネルギーへの意識を高める啓発活動を組織的にを行い、エネルギー使用量と経費の節減の実績を上げるよう努力する。
- ・中期計画管理委員会を立ち上げ、計画の進捗状況を確認し、事業の推進のために適切な助言を行う。

第1期中期計画 2020～2024年度

はじめに

大阪歯科大学は、1911（明治44）年12月、創立者・藤原市太郎により大阪歯科医学校として誕生した。その後、歯科医学専門学校、旧制大学を経て、1952年には新制大阪歯科大学となり、現在、歯学部を始め、医療保健学部、大学院歯学研究科、大学院医療保健学研究科の2学部2研究科体制となり、キャンパスも楠葉だけでなく、牧野、天満橋の三キャンパスに及び、更に天満橋には附属病院を設けている。

本学は、創立者の遺訓である「博愛公益」を建学の精神とし、創立100周年を迎えた2011年には、これからの大学全体の目指すべき方向性として、「募集ブランド力の回復」「学力の向上」「教育力の向上」「人間性涵養力への注力」「教員人材育成力への注力」という「五つの力の目標」（2008年制定）に加え、「学生の国際交流力増強」「大学院力の増強」「研究力の向上」という「三つの力の追加目標」を掲げ、「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕の人生観を体得して、博愛と公益に努める」ことを目的として、教職員一丸となり本学の発展に努力してきたところである。

一方、我が国の高等教育は、2018年11月の中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」において、18歳人口の減少、グローバル化、高度情報化など加速度的な社会構造の変化に伴い、これから目指す大学像として、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にして、学修の成果を学修者が実感できる、いわゆる教育の質保証の在り方への転換が求められている。合わせて、2040年には18歳人口が88万人と、現在の7割に減少することに鑑み、教育の質保証を担保したうえで、社会人及び留学生の

受け入れ拡大が求められると同時に地域ニーズに応える大学の特色を生かした連携が求められているところである。また歯科医療関係では、これまで齶処置や補綴治療など、歯の形態回復を主体とした医療機関完結型が中心であったが、近年では各ライフステージや身体の状態に応じた歯科保健医療サービスへの移行が図られるようになり、地域完結型の歯科医療システムへ構造転換が求められている。このような情勢の中で、昨年私立学校法が改正され、国立大学と同様に私立大学においても、2020年4月から中期計画を定めるよう義務化されたところである。

もとより、本学においては、先に掲げた建学の精神に基づく八つの力の実現を目標として鋭意努力してきたところであるが、今後の本学の将来を見据えた時、健全な財政運営や教育環境を整えることはもちろんのこと、新たな医療系新学部の設置など、時流に即した前向きな大学改革を推し進めていかなければならない時期であると考えている。そのような意味でも、改めて第一期中期計画として具体的な目標行動について記したところである。大学の構成員である教職員においては、創立者の「博愛公益」という建学の精神を今一度心に刻み、目標達成に向け、より一層の努力を貫き通していただきたいとお願いする次第である。また本学関係者におかれては、中期計画達成に向けて、これまで以上のご理解とご協力のほど、よろしくご申し上げる次第である。

なお、本中期計画は、認証評価の結果、私立大学を取り巻く諸情勢の変化及び本学の財政状況により実施時期を柔軟に見直すことがあることをご含みいただきたい。

<中期計画の基本的重点項目>

基本的重点項目は、次のとおりである。

- [1] 教育力を高め、教育の質保証及び各国家試験の高水準の合格率維持を図り、優れた歯科医師を輩出
- [2] 研究力及び研究の質の向上を図るとともに海外研修制度の充実と国際交流を活性化
- [3] 附属病院改革による病院機能の強化及び収支改善
- [4] 社会貢献・地域連携を積極的に展開
- [5] 財政基盤の充実
- [6] 戦略的人事政策を策定して実行
- [7] 管理運営体制の強化

注) **学教** → 学校教育法施行規則にある事項
認証 → 2014年度大学基準協会認証評価時の指摘事項

[1] 教育力を高め、教育の質保証及び各国家試験の高水準の合格率維持を図り、優れた歯科医師を輩出

○教育研究組織

[大学全体]

- ・歯学部、歯学研究科、医療保健学部、医療保健学研究科、附属病院、中央歯学研究所の連携を強化する。
- ・教育の質の向上を目指し、本学大学院、大学院学則の改正を含む教学関係規程及び諸制度の不断の見直しを行い、教育の質保証に向けた方策を充実させる。（各学部学科の目的、高等教育の修学支援制度等の設定）
- ・2020年4月開設の医療保健学研究科博士課程（後期）について、設置の目的に相応しい組織の活性化を図る。
- ・人材育成について将来を見据えた方策を策定
- ・楠葉キャンパスに医療系新学部を開設するための準備を開始する。

○教育課程・教育成果

[大学全体]

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいた教育の質の向上について不断に検証するとともに改善を図る。
- ・GPA制度の活用を図る。
- ・教育の可視化を推進し、「学修者主体の教育」の一層の充実を図り、教育課程を整備する。
- ・学生の授業評価による授業内容の改善を図る。
- ・情報リテラシー教育の一層の充実を図る。
- ・アクティブ・ラーニングの授業実施率を上げる。
- ・カリキュラムの検討を行い、改善充実を図る。
- ・特色ある教育プログラムを実施する。

[歯学部]

- ・歯科医師国家試験において従来以上の合格率及び最低修業年限での合格率の向上を目指す。
- ・CBT、OSCEの高位合格率の確保を目指す。
- ・GPA制度の活用を検討する。

- ・2020年度から本実施される臨床能力試験への体制を整備し、高位合格率を確保する。
- ・2022年度から本実施される予定の歯学教育分野別認証評価に向けて受審体制を整備する。
- ・学生の研究マインドの向上に努める。

[歯学研究科]

- ・大学院学則に掲げる歯学研究科の目的に合致する人材を育成する。
- ・専攻科単位のリサーチワークとコースワークとの適切な組み合わせによる教育課程を検討する。**認証**
- ・科目の配当年次について規定化を行う。**認証**
- ・学位論文審査基準を『大学院歯学研究科ハンドブック』に明記するとともにホームページ上に公表する。**認証**
- ・プレFD（TA（ティーチング・アシスタント）制度の活用、大学院セミナー等）の内容を充実するとともに、その情報提供の徹底に努める。**学教**

[医療保健学部]

- ・歯科衛生士・歯科技工士国家試験での高水準合格率を維持する。
- ・ダブル・ディグリー・プログラムの導入により学部教育の充実を図る。

[医療保健学研究科]

- ・大学院学則に掲げる医療保健学研究科の目的に合致する人材を育成する。
- ・学位論文審査基準について、これを学生に明示するとともにホームページ上に公表する。**学教**
- ・プレFD（TA（ティーチング・アシスタント）制度の活用、大学院セミナー等）の内容を充実するとともに、その情報提供の徹底に努める。**学教**

○学生の受け入れに関する取り組みの強化

[大学全体]

- ・学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいた能力・意欲・適正等を多面的・総合的に評価する入学者選抜を継続して実施する。
- ・高大連携の強化を図る。

・初年次教育を一層充実させる。

[歯学部]

- ・入学定員2割減の状況下での入試倍率のさらなる向上を目指す。
- ・オープンキャンパスの内容を一層充実させる。
- ・入学者選抜方法（多様化の取り組み）を検討する。
- ・収容定員に対する在籍学生比率の改善を図る。 **認証**

[歯学研究科]

- ・歯科基礎系専攻の学生の確保を図る。
- ・外国人留学生についてのアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との整合性を検証し、充実を図る。
- ・ホームページ（英語版を含む）の内容の充実を図る。 **認証**

[医療保健学部]

- ・入学定員（口腔保健学科、口腔工学科）を充足確保する。
- ・オープンキャンパスの内容を一層充実させる。
- ・入学者選抜方法（多様化の取り組み）を検討する。
- ・初年次教育を一層充実させる

[医療保健学研究科]

修士課程及び博士課程（後期）における大学院生の恒常的確保を図る。

○学生支援

[学部全体]

- ・学年指導教授、助言教員等によるきめ細かいサポート体制を推進し、学生支援体制を充実する。
- ・オフィスアワーによる一層きめ細かな学修指導を行う。
- ・学生相談体制の充実と強化を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。
- ・キャリア支援の体制を整える。

[歯学部]

- ・学年指導教授、助言教員、教育アドバイザーの連携による学生支援活動を強化する。
- ・看護師、臨床心理士による学生相談体制の拡充を図る。
- ・学部生への進路支援（研修歯科医マッチング制度）の充実を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。

[歯学研究科]

- ・経済的負担軽減措置の充実を図るとともにその情報を適宜公表していく。 **学教**

[医療保健学部]

- ・学年指導教授、助言教員、学生支援室（看護師、臨床心理士）による学生支援の強化を図る。
- ・高等教育の修学支援制度の導入により学生生活の支援の充実を図る。
- ・キャリア教育の充実（キャリアセンタースタッフの整備）を図る。
- ・卒業生の高就職率を目指す。

[医療保健学研究科]

- ・経済的負担軽減措置の充実を図るとともにその情報を公表する。 **学教**

[2] 研究力及び研究の質の向上を図るとともに海外研修制度の充実と国際交流を活性化

○研究活動

[大学全体]

- ・医療系学部・研究科の特色を生かして研究ブランド力の確立を目指す。
- ・各研究費公募状況の把握と、公的研究費（競争的資金）の獲得を目指す。
- ・科学研究費申請数、採択数の増加により研究力アップに繋げる。
- ・関西医科大学、摂南大学との医歯薬連携協定による共同研究を推進する。
- ・研究環境・支援体制を整備し強化を図る。

○国際交流

- ・国際化に対応できる人材育成教育プログラムの開発を行い発展させる。
- ・中国・アジア・北米・南米・オセアニア・ヨーロッパの交流協定締結校への学生の短期海外研修派遣の充実を図り、国際社会に貢献する人材を養成する。
- ・ダブル・ディグリー・プログラムの導入により医療保健学部教育の充実を図る。
- ・海外の学生、研究者の受け入れの促進を図る。

[3] 附属病院改革による病院機能の強化及び収支改善を図る

以下のような方策により収支改善を図り、2020年度以降の患者数の増加を目指す。

- ・自費診療の推進による適用症例の増加
- ・近年多様化する患者のスペシャル・ニーズに対応するための口腔リハビリテーション科、睡眠時無呼吸外来、睡眠歯科外来等の診療部門の拡充
- ・2019年度に附属病院内に新設した大阪国際先制医療センターにおけるmRNA検査等をはじめとした歯科領域に留まらない先進的な医療の提供
- ・土曜日の開院や診療終了時刻の延長による総合的な診療時間枠

の拡大

- ・外部医療機関入院患者や老健施設入所者等に対する歯科訪問への積極参入
- ・診療分野教員を増員し、臨床研究及び臨床教育の充実を図る。
- ・医療安全管理学室の機能を強化し、医療安全に対する意識の一層の向上強化を図る。
- ・附属病院ホームページの内容を充実させ、外部への情報発信を高めることにより一層の患者増を図る。
- ・デジタルサイネージ等の設備の拡充により受診中の患者に対する、よりきめ細やかな最新情報の提供に努める。
- ・附属病院周辺地域と連携し、地域包括ケアシステムに積極的に参画することで、医科歯科介護連携による地域完結型医療を推進する。
- ・公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受け、より基盤整備を行う。
- ・卒業前歯学部学生、いわゆるスチューデント・デンティストによる臨床実習や近隣の協力型研修施設との複合研修方式を中心とした卒業臨床研修等の制度を支援し得る、本学歯学部・医療保健学部等の卒前・卒業後教育及び生涯にわたる医療人としての研修の場としての役割を強化する。

[4] 社会貢献・地域連携を積極的に展開

- ・厚生労働省の受託事業として設置された歯科衛生士研修センターにより、歯科衛生士の復職支援及び離職防止に向けた活動を積極的に推進する。
- ・学校法人関西医科大学、学校法人常翔学園との連携協定により地域連携を強化する。
- ・枚方産学公連携プラットフォーム（大阪工業大学、摂南大学、関西医科大学、枚方市、北大阪商工会議所、資生堂ジャパン（株）近畿支社、（株）Morondo）により枚方市における高等教育の活性化を図る。
- ・学園都市ひらかた推進協議会、健康医療都市ひらかたコンソーシアムへの積極的な参画を図る。
- ・枚方市の環境美化活動に参画し、社会人基礎力を涵養する。
- ・1993年開講以来、2020年で通算28回を迎える大阪歯科大学公開講座の内容について一層の充実を図る。

[5] 財政基盤の充実

- ・安定的な経営を目指し、収支構造の改善と財政基盤のさらなる充実を図る。
- ・外部資金獲得力の向上を図る（公的補助金、寄附金等）。

[6] 戦略的人事政策を策定して実行

[大学全体]

- ・建学の精神を遵守し、本学の発展に真に寄与する高潔な人格と識見及び私立大学の教員としての自覚を有し、教育、研究、臨

床に情熱をもつ者の恒常的選考を行う。

- ・教員候補者資格審査基準の厳格化を図る。
- ・将来を見据えた戦略的な人員計画のもと必要となる人件費を可能な限り抑制する。
- ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を図る。
- ・スタッフ・ディベロップメント（SD）の活性化を図る。
- ・働き方改革の一層の推進を図る。

[7] 管理運営体制の強化を図る

- ・理事長・学長のリーダーシップのもと、本法人の意思決定機関としての理事会、教学における学長の諮問機関である歯学部主任教授会、医療保健学部教授会、歯学研究科会議、医療保健学研究科会議及び各種委員会が一層連携を密にし、改革・改善に取り組む。
- ・大学運営の方針に沿った中期計画の執行を管理する中期計画管理委員会を立ち上げる。
- ・大学ホームページ等による法人・教学部門の情報公開をより一層充実させる。

○自己点検評価・認証評価

- ・理事会を中心に大学のガバナンス体制をより充実させる。
- ・大学協議会による全学的教学マネジメント体制の充実を図るとともに、教育の内部質保証体制の充実を推進し、大学基準協会の認証評価受審への体制を整備する。
- ・PDCAサイクルによる各部門の点検・評価体制の強化に努める。

○教育研究等環境の整備

- ・楠葉キャンパスにおける医療系新学部棟の建設、牧野キャンパスにおける本館耐震改修工事などの検討を行う。
- ・ICT環境の整備を含めた3キャンパス全体の環境改善の検討を行う。



2020年度 科学研究費補助金交付

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	継続	18K09516	納富 拓也	薬理学	RANKL/OPG リソソーム選別輸送制御による骨代謝動態の解明	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	18K09563	堂前 英資	生化学	ヒトγδ T細胞による口腔癌抑制作用をニュートリゲノミクスにより制御する	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	18K09570	岩崎 剣吾	中央歯学研究所	間葉系幹細胞-血管内皮細胞相互作用を応用した新規歯周組織再生治療開発	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	継続	18K09590	辻 則正	口腔治療学	硬組織誘導性新規合成ペプチドの歯内治療への適用についての検索	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	18K09613	前田 博史	口腔治療学	Rothia mucilaginosa 感染症の病因解明と感染コントロール法の確立	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	18K09629	牧田 佳真	化学	分子カプセルを利用したヨード造影剤の開発	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	18K09647	戸田 伊紀	解剖学	ウロコカラゲンの骨増生における生体足場材料としての効果	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	18K09712	岡崎 定司	欠損歯列 補綴咬合学	軽量で金属のアレルギーの少ない患者重視型新義歯の開発	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	18K09713	楠本 哲次	口腔工学科	高齢者における骨質の制御を期待する生体材料の創製とインプラントへの応用	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	18K09736	大西 祐一	口腔外科学第二	口腔扁平上皮癌における癌幹細胞マーカーの解析と新規分子標的治療薬の開発	400,000 120,000
基盤研究(C)	継続	18K09803	野崎 中成	薬理学	多能性幹細胞が分泌するエクソソーム機能性RNAの細胞外機能に関する基礎的研究	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	18K09900	益野 一哉	歯科医学教育開発 センター	人工知能の歯科医学教育への応用	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	18K09928	池尾 隆	生化学	ヒドロキサム酸系阻害剤による破骨細胞分化促進とその分子機構の解明	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	18K09929	王 宝禮	歯科医学教育開発 センター	慢性歯周炎によるがん化シグナルメカニズムの解明から漢方薬由来創薬開発	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	18K10767	小野 圭昭	障がい者歯科	口腔内感覚が咀嚼嚥下の誘発におよぼす影響	200,000 60,000
基盤研究(C)	継続	19K00049	樫 則章	人権教育室	わが国における歯科医療倫理学の構築のための総括的研究	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	19K10141	山田 さやか	口腔 インプラント学	歯髄幹細胞の同種移植に向けた免疫原性コントロールの解明	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	継続	19K10178	馬場 俊輔	口腔 インプラント学	Er:YAG-パルスレーザーデポジション法のインプラント歯周炎治療への応用	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	継続	19K10195	山田 陽一	口腔 インプラント学	エクソソームによる細胞創薬としての新規骨再生材料の開発	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	19K10196	西田 尚敬	歯科保存学	チタニアナノチューブ粒子へのアパタイト被覆による骨誘導能の高度化	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	19K10233	島田 明子	高齢者歯科学	進行性神経変性疾患におけるQOL向上型口腔機能評価法の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	19K10255	奥野 健太郎	高齢者歯科学	閉塞性睡眠時無呼吸症の夜間血圧サージに対する口腔内装置の治療効果	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	19K10298	百田 義弘	歯科麻酔学	一過性局所脳虚血/再灌流モデルを用いた遠隔虚血コンディショニングの効果	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	19K10373	秋山 広徳	歯科放射線学	個別化された舌癌小線源治療への道 -多様な口腔内環境を乗り越えて-	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	19K10456	真下 千穂	細菌学	口腔菌叢培養モデルを基にした新規口腔健康指標の構築	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	19K10473	高橋 一也	高齢者歯科学	肺炎予防に向けた高齢者の舌菌叢遷移を誘導する因子の探索的研究	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	19K10474	三宅 達郎	口腔衛生学	新規粘膜アジュバントを用いた経鼻ワクチンによる動脈硬化アテローム形成抑制能の検証	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	19K10475	草野 薫	口腔 インプラント学	次世代シークエンサーを用いた戦略的インプラント周囲炎細菌叢遷移	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	19K11401	貴島 真佐子	医療保健学部	舌悪性腫瘍術後における生理学的変化の解明と口腔リハビリテーションの効果の検証	400,000 120,000
若手研究	継続	18K17092	小林 信博	口腔 インプラント学	重度歯周病治療のための線維芽細胞増殖因子担持担体の歯周組織再生のメカニズム解明	700,000 210,000
若手研究	継続	18K17160	原 朋也	口腔 インプラント学	新規ダブルアクチベート法を用いた多血小板血漿による歯槽骨再生法の開発	1,100,000 330,000
若手研究	継続	18K17207	小滝 真也	歯科放射線学	MRIによる下歯槽神経障害の定量的評価法の確立	500,000 150,000

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
若手研究	継続	18K17274	河合 咲希	小児歯科学	乳歯歯髄由来未分化幹細胞における低酸素培養の影響	1,000,000 300,000
若手研究	継続	19K16133	平井 悠哉	生物学	RNAヘリカーゼによる核小体とストレス顆粒の機能関連制御機構の解明	1,600,000 480,000
若手研究	継続	19K19063	武田 吉裕	口腔 インプラント学	個別化骨再生医療の実現に向け養殖サンゴを用いたオーダーメイド骨補填材の開発と評価	1,000,000 300,000
若手研究	継続	19K19112	覚道 昌樹	有歯補綴咬合学	咀嚼時舌運動と姿勢調整および食品の物性との関連性の解明	500,000 150,000
若手研究	継続	19K19146	内藤 大介	欠損歯列 補綴咬合学	PLD法を利用した新規アパタイトコートインプラントの創製	1,600,000 480,000
若手研究	継続	19K19147	首藤 崇裕	口腔工学科	新規BMP-2ペプチドおよびRANKL結合ペプチドの固定化と骨関連細胞分化の制御	1,500,000 450,000
若手研究	継続	19K19217	石川 敬彬	口腔外科学第一	フェロトシスを利用した口腔がん治療	800,000 240,000
若手研究	継続	19K19964	田中 佑人	障がい者歯科	噛みしめ強度とスポーツパフォーマンスに関する探索研究	1,800,000 540,000
基盤研究(B)	継続	18H02986	本田 義知	中央歯学研究所	ストレス誘導性老化細胞の挙動解析から迫る未知なる骨形成阻害機構の解明	2,000,000 600,000
研究活動 スタート支援	継続	19K24083	杉本 貞臣	口腔治療学	ペプチド核酸を応用したS. mutansに対する特異的増殖抑制法の確立	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	20K05369	緒方 智壽子	歯周病学	深層学習を用いた複眼撮像システムによる歯周組織判定の高精度化	2,000,000 600,000
基盤研究(C)	新規	20K10003	橋本 典也	歯科理工学	ゼノフリー iPS細胞由来幹細胞の三次元細胞構造体が拓く骨再生医療	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	新規	20K10004	橋本 正則	口腔保健学科	生体安全性を有する抗菌性単分散シングル金属ナノ粒子の開発	900,000 270,000
基盤研究(C)	新規	20K10023	有田 憲司	小児歯科学	プラズマイオン注入法による口腔内装置への機能性付与に関する研究	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	新規	20K10064	吉川 美弘	生化学	骨結合性超分子による破骨細胞機能調節 -骨吸収抑制新規治療薬の開発-	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	新規	20K10083	川本 章代	高齢者歯科学	歯肉溝滲出液中エクソソームを用いたリキッドバイオプシーの可能性	1,700,000 510,000
基盤研究(C)	新規	20K10084	樋口 鎮央	口腔工学科	義歯粘膜炎における口腔内細菌付着抑制の実現に向けた新規研磨メディアの開発と評価	2,600,000 780,000
基盤研究(C)	新規	20K10195	窪 寛仁	口腔外科学第二	脱分化脂肪細胞由来エクソソームが拓く広域下顎骨欠損の再建	900,000 270,000
基盤研究(C)	新規	20K10240	松本 尚之	歯科矯正学	オーダーメイド顎顎口蓋裂治療に向けた織り構造足場材料の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	20K10285	南部 隆之	細菌学	口腔細菌叢のレジリエンスを指標とした口腔健康評価法の開発	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	20K10307	宮永 史子	内科学	メタボリック症候群における食嗜好性因子の探索	1,600,000 480,000
基盤研究(C)	新規	20K10419	神 光一郎	口腔保健学科	乳幼児期における口腔崩壊の生活環境要因分析と全身の発育・成長への影響	1,000,000 300,000
若手研究	新規	20K18587	笹山 智史	口腔 インプラント学	高品質DFAT細胞調達法の開発に向けたセノリティック薬と抗老化薬の応用	1,000,000 300,000
若手研究	新規	20K18621	山脇 勲	歯周病学	糖尿病患者の生体内環境再現下における新規インプラント治療の創生	1,000,000 300,000
若手研究	新規	20K18651	張 泓灝	欠損歯列 補綴咬合学	ナノ構造の骨リモデリング制御および骨形成メカニズムの解明	1,600,000 480,000
若手研究	新規	20K18652	田代 悠一郎	欠損歯列 補綴咬合学	高齢者のQOLを向上させる義歯床材料の創製	1,600,000 480,000
若手研究	新規	20K18653	森岡 裕貴	高齢者歯科学	口腔機能低下症患者に対する口腔リハビリテーションのエビデンス構築	2,300,000 690,000
基盤研究(B)	新規	20H01606	宮川 淑恵 (濱島 淑恵)	口腔保健学科	地域を基盤とした「ヤングケアラーの発見・支援モデル」の検討	3,100,000 930,000
基盤研究(B)	新規	20H03902	片岡 宏介	口腔衛生学	蛍光イメージングによる唾液IgA抗体産生に関わる免疫細胞生体内ダイナミクスの解明	7,400,000 2,220,000
新学術領域研究	新規	20H05350	納富 拓也	薬理学	オルガネラ膜電位を主軸とするリソソーム-細胞膜融合・膜動態制御法の確立	1,000,000 300,000
合計 62件(内 継続 42件)						77,200,000 23,160,000

2020年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)

課題番号	氏名	専攻	学年	研究課題	助成額(円)
20-01	加納 慶太	口腔衛生学	4	高濃度アセトアミノフェンの先制投与および先行投与が口腔外科小手術の術後痛に与える影響	175,000
20-02	岩崎 和恵	歯科保存学	4	疎水性基を変更した試作MDPを用いたセルフエッチングプライマーの接着強さに関する研究	175,000
20-03	柴田 駿亮	有歯補綴咬合学	4	ジルコニア・テレスコープブリッジのデザインが維持力と破折強度に与える影響	175,000
20-04	松崎 悟士	有歯補綴咬合学	4	下顎前方固定口腔内装置の舌と咬筋に対する皮質運動興奮性の可塑性変化への影響	225,000
20-05	糸田 理沙	有歯補綴咬合学	3	審美不良修復物が人の印象に与える影響	175,000
20-06	佐古 員基	有歯補綴咬合学	3	「噛みしめ」の脳震盪予防効果の検証	175,000
20-07	高尾 誠二	欠損歯列補綴咬合学	3	大気圧プラズマ処理がジルコニア表面に与える影響について	175,000
20-08	曾 昱豪	欠損歯列補綴咬合学	3	ハイドロキシアパタイトドープ新規骨補填材料の開発	175,000
20-09	中野 宏祐	口腔外科学第二	4	脱分化脂肪細胞(DFATs)と多血小板血漿(PRP)を用いた骨再生	175,000
20-10	正田 光波	口腔外科学第二	4	ヒト関節軟骨細胞三次元組織において、メカニカルストレスは炎症性メディエーターおよび疼痛関連因子を上昇させる	175,000
20-11	東 友莉	歯科矯正学	4	低出力超音波パルス(LIPUS)照射が破骨細胞分化に対する影響について	175,000
20-12	青木 翔	小児歯科学	4	乳歯歯髓由来 Muse 細胞に関する基礎的研究	175,000
20-13	永石 千琴	小児歯科学	4	新素材粉末状セルロースナノファイバーによるグラスアイオノマーセメントの強化に関する研究	175,000
20-14	吉松 英樹	障害者歯科学	3	動脈硬化モデルマウスにおける新規粘膜アジュバントによるホスホリルコリン抗原特異的免疫応答とその誘導メカニズムの解明	175,000
計 14 件					2,500,000

令和2年 春・秋の叙勲受章者

令和2年春、秋の叙勲において、本学の関係者として以下の先生方が受章されました。

<令和2年春>

大学10回	山崎 康郎	愛媛県	瑞宝双光章
大学13回	加藤 賢	岐阜県	瑞宝双光章
大学13回	目片 恒芳	京都府	瑞宝双光章
大学14回	阿部 公生	福岡県	瑞宝小綬章
大学14回	岩山 準	香川県	瑞宝双光章
大学14回	大塚 一郎	徳島県	旭日双光章
大学16回	平林 茂之	愛知県	瑞宝双光章
大学16回	米田 征司	愛媛県	瑞宝双光章
大学18回	真岡 律雄	滋賀県	瑞宝双光章
大学19回	森口 浩充	奈良県	旭日小綬章
大学20回	前田 芳久	高知県	旭日双光章
大学20回	中尾 薫	兵庫県	旭日双光章
大学21回	大森 正男	福井県	旭日双光章
大学22回	山本 哲典	滋賀県	旭日双光章
大学22回	守内 真澄	和歌山県	旭日双光章

<令和2年秋>

大学16回	田中 逸朗	愛媛県	旭日双光章
大学21回	瀬戸 俊男	滋賀県	瑞宝双光章
大学22回	寛 哲郎	鳥取県	旭日双光章
大学22回	横森 俊雄	岐阜県	旭日双光章
大学23回	山口 三男	佐賀県	旭日双光章
大学25回	高橋 達行	大阪府	瑞宝双光章

大阪府病院協会第45回病院職員永年勤続者表彰

中央手術室の延原綾子看護師と久保田陽子看護師は、永年にわたり医療業務に従事し、病院の発展に不断の努力をしたとして、一般社団法人大阪府病院協会から表彰を受けました。両看護師は12月22日、中嶋正博病院長から表彰状を授与され、感謝の言葉とともに、「今後も当院の病院理念に基づいた安全・安心な医療の提供に尽力していきたい」と話しました。



寄贈

下記のとおり寄贈を受けました。心より感謝いたします。

- ・清水谷公成教授 | 定年退職にあたり、一般寄附金として | 金 1,000,000 円 (2020年2月6日)
- ・大阪歯科大学第68回卒業生 | 卒業を記念して | ウォーターサーバー (創立100周年記念館3階) (2020年3月6日)
- ・大阪歯科大学ユースホステル部OB友協会 岡本浩一氏、故田中昌博名誉教授 | 一般寄附金として | 金 300,000 円 (2020年8月18日)

人事

2020年の主な教員人事は次のとおりです。

名誉教授称号授与

田中 昌博
2020.2.13付

清水谷公成
2020.4.1付

大学役職者

副学長	田中 昭男
副学長	今井 弘一
歯学部長	川添 堯彬
総務部長	田中 昭男
教務部長	田中 昭男
学生部長	百田 義弘
図書館長	有田 憲司
附属病院病院長	中嶋 正博
中央歯学研究所所長	梅田 誠
教育情報センター所長	辻林 徹
国際交流部長	松本 尚之
アドミッションセンター長	田中 昭男
附属病院副病院長	山本 一世
附属病院副病院長	松本 尚之
附属病院副病院長	田中 武昌
医療保健学部長	今井 弘一
口腔保健学科長	和唐 雅博
口腔工学科長	柿本 和俊
大学院歯学研究科科長	岡崎 定司
大学院医療保健学研究科科長	今井 弘一 以上 2020.4.1付

教員任用

《歯学部》		
歯科麻酔学講座診療分野	准教授	真鍋 庸三
歯科保存学講座教育分野	講師	岩田 有弘
薬理学講座	助教	AUNG BHONE MYAT
中央歯学研究所	助教	神田 龍平
歯周病学講座診療分野	助教	今井 一貴
高齢者歯科学講座教育分野	助教	真砂 彩子

有歯補綴咬合学講座診療分野	助教	安井 由香
口腔外科学第二講座診療分野	助教	中島 章宏
口腔外科学第二講座診療分野	助教	渡邊 昌広
歯科矯正学講座教育分野	助教	趙 建鑫
小児歯科学講座教育分野	助教	今瀧 梨江 以上 2020.4.1付
有歯補綴咬合学講座	主任教授	柏木 宏介
歯科医学教育開発センター	主任教授	益野 一哉 以上 2020.10.1付

《医療保健学部》

口腔保健学科	講師	米澤 美保子 2020.4.1付
口腔保健学科	助教	尾形 祐己 2020.10.1付

昇任

《歯学部》

退職に伴う特別昇任		
口腔診断・総合診療科	教授	紺井 拓隆
口腔外科学第二講座教育分野	准教授	蠅庭 秀也 以上 2020.3.31付
口腔診断・総合診療科	准教授	辰巳 浩隆
高齢者歯科学講座教育分野	講師	楠 尊行
歯科麻酔学講座教育分野	講師	大下 修弘 以上 2020.4.1付
高齢者歯科学講座教育分野	准教授	川本 章代
口腔治療学講座教育分野	講師	池永 英彰 以上 2020.10.1付

所属変更

《歯学部》		
歯科医学教育開発センター	専任教授	田村 功 2020.12.1付

歯科衛生士研修センター長委嘱

附属病院副病院長	山本 一世 2020.4.1付
----------	--------------------

定年退職

《歯学部》

歯科放射線学講座 主任教授 清水谷公成
 口腔診断・総合診療科 准教授 紺井 拓隆
 以上 2020.3.31 付

依願退職

《歯学部》

生理学講座 講師 平野俊一郎
 口腔外科学第二学講座教育分野 講師 蠅庭 秀也
 歯科矯正学講座教育分野 講師 居波 薫
 小児歯科学講座教育分野 講師 篠永ゆかり
 歯科麻酔学講座教育分野 講師 加藤 裕彦
 歯周病学講座診療分野 助教 中田 貴也
 有歯補綴咬合学講座診療分野 助教 中島 俊輝
 口腔外科学第二学講座診療分野 助教 濱田 裕之
 以上 2020.3.31 付

解剖学講座 助教 川島 渉
 薬理学講座 助教 AUNG BHONE MYAT
 以上 2020.12.31 付

《医療保健学部》

口腔保健学科 講師 久保 樹里
 2020.3.31 付

任期満了退職

《歯学部》

欠損歯列補綴咬合学講座診療分野 助教 内藤 大介
 2020.3.31 付

死亡退職

《歯学部》

副学長 田中 昌博
 2020.2.13 付

あ と が き

新型コロナウイルスの感染爆発に世界が翻弄された2020年。私たちの日常はマスク生活、3密回避、オンライン授業、テレワークなど一変しました。約100年前のスペイン風邪の再来といわれ、青天の霹靂のようにも思える今回の世界的大流行ですが、人類はこれから頻繁に新たなウイルスのパンデミックに襲われるようになるだろう。2017年1月放送のNHKスペシャル「ウイルス“大感染時代”～忍び寄るパンデミック～」ではこう警告しています。それが現実のものとなったのです。

新型コロナに限らず、未知の感染症がまん延すると心配されるのが心の健康です。不安や恐怖、隔離がもたらすストレス、偏見や差別、情報過多による社会不安や混乱。国の調べによると、新型コロナとの明確な関連性は確認できないものの、2020年の学生の自殺者数は前年より増加し415人に上っています。本学では4月7日から5月6日まで楠葉・牧野キャンパスへの登校は禁止となり、部活動やイベントの多くは中止を余儀なくされました。口腔工学科の留学生・崔鈴珍さんは、4・5月が特に「毎日辛かった」と振り返っています。人生の春ともいえる学生時代がコロナ下と重なり、思いどおりの大学生活を送れず、多数の学生が我慢・辛抱の日々を過ごしたこととやりやります。

“世の中にまじらぬとはあらねどもひとり遊びぞ我はまされる”

これは江戸後期の聖人・良寛さんが、本を読んでいる姿で描かれた自画像に賛として添えた歌。「ひとり遊び」は、静かに読書することの意。友人と交わらないと決めているわけではないが、自分は「ひとり遊び」の方が一層気に入っている。良寛さんは越後で庵に独居しながら、近隣の大人や子どもとも広く親しんだことで知られていますが、その人にしてこう詠んでいることで、読書の果てない世界に誘われるような気がしませんか。

コロナ禍でままならない日々。気の曇るときや落ち込んだとき、気分転換したいときは、本を手にとってみることをお勧めします。きっとあなたを力づける言葉や物語に出会えることでしょう。そうして心を健やかに豊かにし、少しでも充実した大学生活を送ってほしい。これが昔学生だった者の願いです。



大阪歯科大学附属病院ご案内

診療・受付時間

- ◇初診受付
午前8時45分～11時30分
午後1時30分～3時
 - ◇再診受付
午前9時～12時
午後1時30分～4時
 - ◇診療時間
午前9時～12時30分
午後1時30分～4時30分
- ※診療・受付は平日のみ、矯正歯科・小児歯科のみ土曜日診療を行っております。
 ※再診は予約制です。耳鼻咽喉科と眼科は、午後の初診受付はありません。
 ※ペインクリニックは月・木曜日のみ受付となります。

休診日

- 土曜日（矯正歯科、小児歯科を除く）
- 日曜日・祝日
- 年末年始（ホームページでご確認ください）
- 大学創立記念日（1月14日）
- 大学昇格記念日（6月18日）

初診の方へ

- ・保険証をお持ちください。
- ・診療申込書に必要事項をご記入の上、初診受付に提出してください。
- ・各種医療証や他の医療機関からの紹介状をお持ちの方は、併せてご提示ください。

再診の方へ

- ・予約制です。ご予約の確認、変更、キャンセルなどは治療を受けている診療科受付にお電話ください。
- ・診察券を受付に提出してください。
- ・毎月最初の受診日に、保険証提示をお願いします。

- ◇本館 11階 TEL 06-6910-1091 小児歯科
障がい者歯科
歯科麻酔科・ペインクリニック
- ◇本館 10階 TEL 06-6910-1089 矯正歯科
口腔インプラント科
- ◇本館 9階 TEL 06-6910-1087 保存修復科
歯内治療科
歯周治療科
- ◇本館 8階 TEL 06-6910-1085 総合診療室
- ◇本館 7階 TEL 06-6910-1083 補綴咬合治療科
- ◇本館 6階 TEL 06-6910-1081 高齢者歯科
耳鼻咽喉科
眼科
- ◇本館 5階 TEL 06-6910-1078 内科
- ◇本館 4階 TEL 06-6910-1076 口腔外科
- ◇本館 3階 TEL 06-6910-1074 中央画像検査室
- ◇本館 2階 TEL 06-6910-1072 予診室・総合受付
口腔リハビリテーション科
- ◇西館 2階 TEL 06-6910-1012 総合診療科



■最寄駅：大阪メトロ谷町線 天満橋駅、京阪電車 天満橋駅



大阪歯科大学附属病院ホームページ <https://www.osaka-dent.ac.jp/hospital/>



大阪歯科大学

大阪歯科大学広報

博愛

第 182 号

2020.1.1 ~ 2020.12.31

発行月 2022年3月
編集発行 大阪歯科大学広報委員会
〒573-1121
枚方市梅葉花園町 8-1
TEL 072-864-3001